

やさしいまちづくりに向けた
アンケート調査
報告書

令和4年3月

土岐市

目次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査の実施状況	1
3.	本報告書を読む際の留意点	1
4.	標本誤差について	1
5.	割合の表記について	2
6.	回答者の属性（市民）	2
	（1）性別	2
	（2）年齢	2
	（3）家族構成	3
	（4）①世帯の方（あなた自身含む）	3
	（4）②ひきこもり状態の方	4
	（5）就労	5
	（6）住まい	5
	（7）居住年数	6
	（8）地区	6
7.	回答者の属性（団体）	7
	（1）団体・施設・事業所の形態	7
	（2）主な活動分野	7
	（3）主な活動地区（小学校区）	8
II	市民アンケート調査の結果	9
1.	近所付き合いなどについて	9
	（1）住みやすさ	9
	（2）現状の近所付き合い	11
	（3）今後の近所付き合い	13
	（4）悩みや不安	15
	（5）困った時に相談するか	17
	（6）①相談相手	19
	（6）②相談しない理由	21
	（7）福祉に関する情報の入手先	23
	（8）①地域の方を手助けしていること	25

(8) ②地域の方に手助けしてもらいたいこと	27
(9) 手助けできない理由	30
2. 地域活動への取り組みや助け合いについて	32
(1) 地域の行事や活動	32
(2) ①地域の行事や活動に参加しない理由	34
(2) ②参加している活動	36
(3) 今後取り組みたい活動	38
(4) 地域活動の問題点	40
3. 安全な暮らしを守るための取組について	42
(1) 災害時に一人で避難できるか	42
(2) 「避難行動要支援者制度」の認知度	44
(3) 町内会の自治防災組織の認知度	46
(4) 災害時における助け合いで必要なこと	48
4. ボランティア活動について	50
(1) ボランティア活動への参加	50
(2) ①ボランティア活動の内容	52
(2) ②ボランティア活動へ参加しない理由	54
(3) ボランティア活動の問題点	56
(4) ボランティア活動へ参加するために必要な条件	58
(5) 支え合いや助け合いの有無	60
(6) 支え合いや助け合いの内容	61
5. 地域福祉に関することについて	63
(1) 支え合いや助け合いは必要か	63
(2) 福祉意識醸成に必要な取組	65
(3) 地域福祉に関する認知度	67
(4) 地域福祉に関する取り組みの満足度	68
(5) 地域福祉の推進主体	70
(6) 地域の課題	72
(7) 市の窓口へ求めること	75
(8) 自由意見	77

Ⅲ 団体アンケート調査の結果 80

1. 調査の結果	80
(1) 住みやすさ	80
(2) 活動地区の状況	82
(3) 活動にあたって困っていること	84
(4) 市・社会福祉協議会からの必要な支援	86

(5) 他団体や施設・事業所との連携の有無.....	88
(6) 他団体や施設・事業所との連携は必要か.....	90
(7) ①連携を強化したい対象	92
(7) ②取組の内容	94
(8) 地区の課題	95
(9) 地域福祉を推進するための取組.....	98
(10) 地域福祉に関する取組の満足度.....	100
(11) 自由意見	102

I 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、「土岐市地域福祉計画」の見直しにあたって計画策定の資料とさせていただくとともに、今後の地域福祉施策の推進に役立てるため実施しました。

2. 調査の実施状況

対象	実施期間	実施方法	対象者	配布数	回収状況
市民	令和3年12月1日 ～12月17日	郵送による配布・ 回収	18歳以上の市民の中か ら無作為抽出	2,000通	669票 33.5%
団体	令和3年11月～ 12月	郵送・メールによ る配布・回収	市内の地域福祉活動に関 わる団体		117票

3. 本報告書を読む際の留意点

- 図表中の「n」は、設問への回答者数を表しています。
- 図表中の数値は、特に断りのある場合を除き、いずれも回答率（%）を表示しています。
- 回答率（%）は、全て小数点以下第二位を四捨五入し、小数点以下第一位までを表示していますが、単一回答は回答率の合計が100.0%になるよう調整している場合があります。また、複数回答は回答率が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計表には、各属性と全体を比較して10ポイント以上低いものには薄い網掛け、10ポイント以上高いものには濃い網掛けをして、分析記述の対象としています。
- 回答の選択肢など、調査票の表記から簡略化して表現している場合があります。
- 自由意見については、記入者の意向を尊重し、可能な限り原文のまま掲載していますが、誤字・脱字と思われる表記や、個人が特定されるおそれがあると考えられる意見などは修正等をしています。
- 回答者数（n）が少ないものも記述の対象としていますが、一人の回答で大きく割合が変動しやすいため、結果を見るにあたっては留意する必要があります。また、クロス集計の結果がより有用なデータとなるよう、回答者数（n）が少ない市民の年齢・地区、団体の主な活動分野・地区では、一部の属性を統合しています。

4. 標本誤差について

例えば、今回の調査の回答者数（n）を100%とする比率で、ある質問の回答が50%であった場合、母集団のこの質問に対する回答は、46.2%（50%－3.8%）～53.8%（50%＋3.8%）の間にあると考えられます。

回答割合	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
標本誤差	±2.3%	±3.0%	±3.5%	±3.7%	±3.8%	±3.7%	±3.5%	±3.0%	±2.3%

5. 割合の表記について

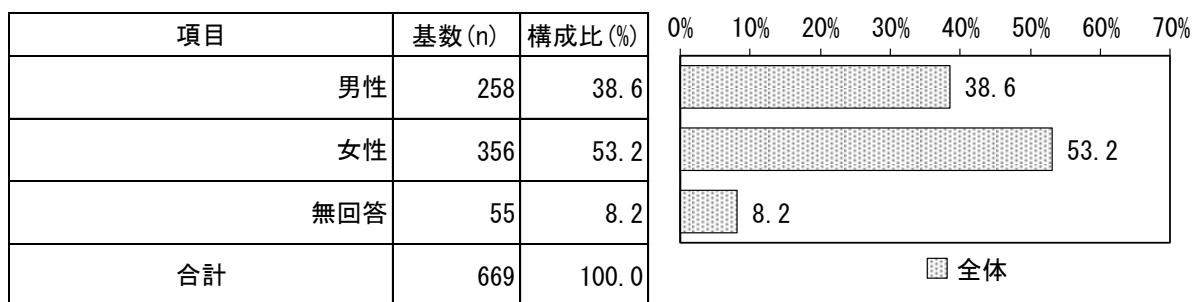
割合の表記については、以下を基本とします。

<例>

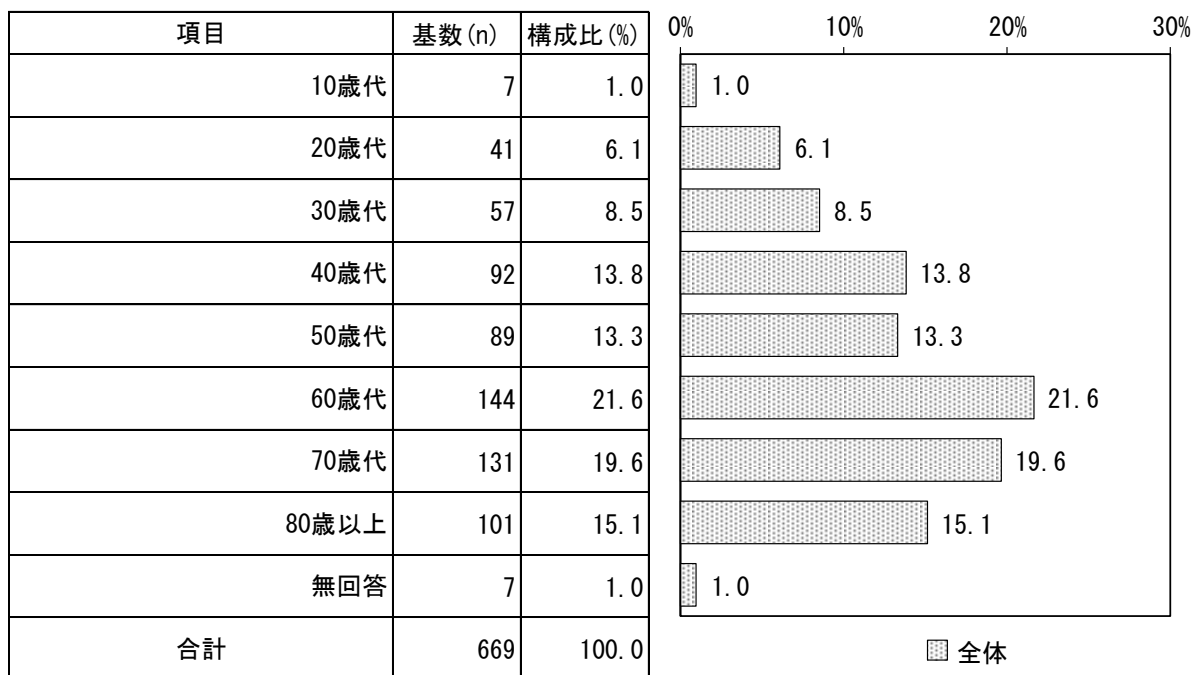
表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1~40.9%	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9%

6. 回答者の属性（市民）

（1）性別

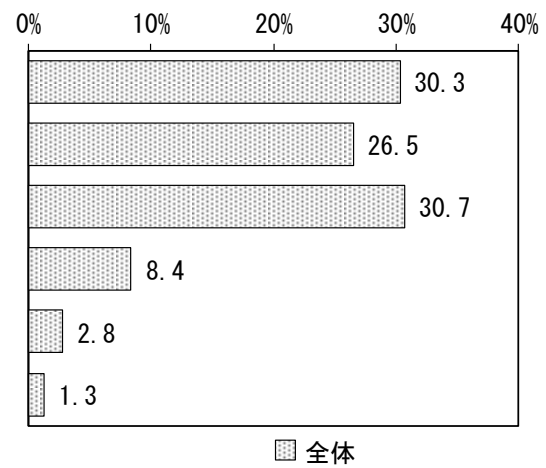


（2）年齢



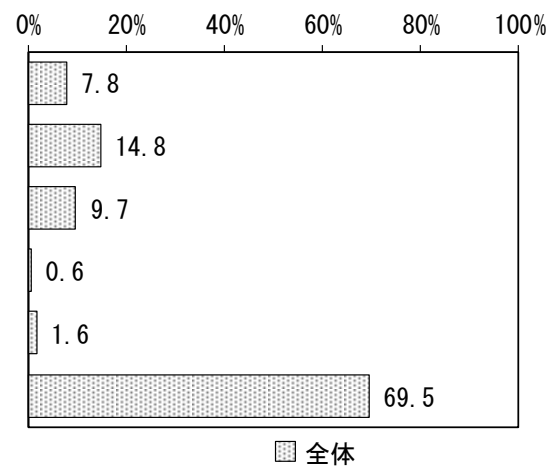
(3) 家族構成

項目	基数(n)	構成比(%)
単身世帯	203	30.3
夫婦世帯	177	26.5
二世帯世帯(親と子)	205	30.7
三世帯世帯(親と子と孫)	56	8.4
その他	19	2.8
無回答	9	1.3
合計	669	100.0

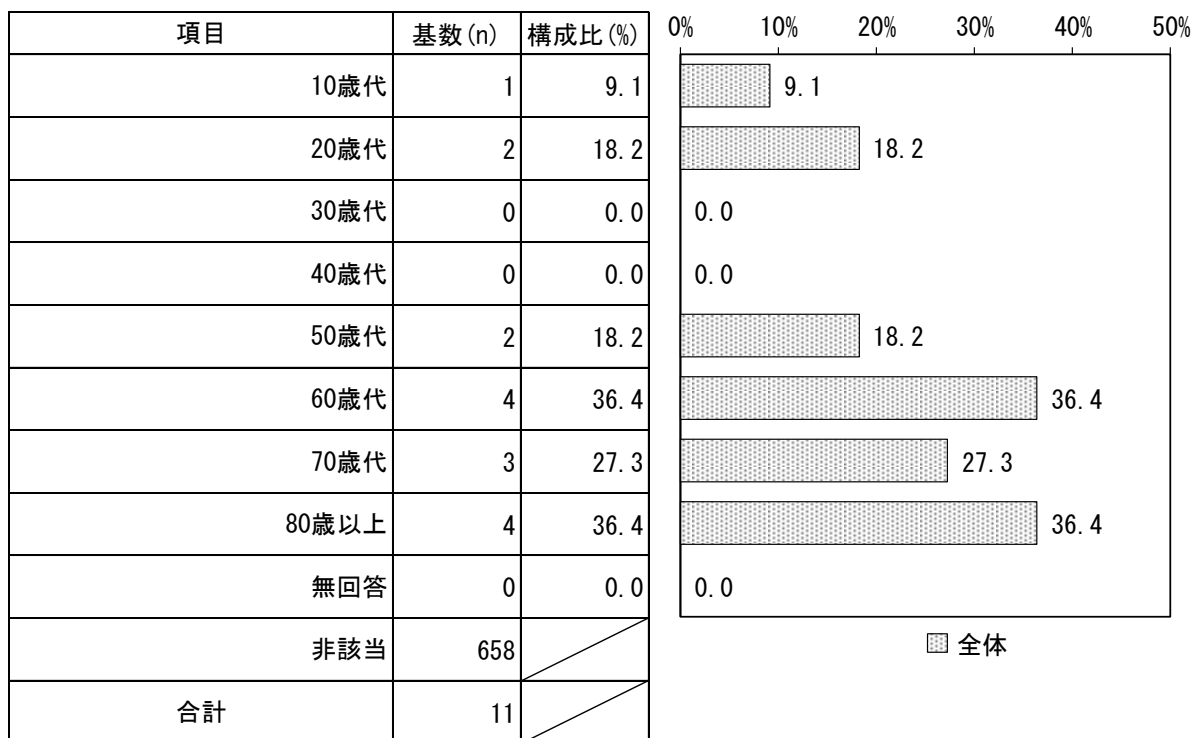


(4) ①世帯の方(あなた自身含む)

項目	基数(n)	構成比(%)
要介護認定を受けている方	52	7.8
18歳未満の子どもがいる方	99	14.8
障がい者手帳を持っている方	65	9.7
外国籍の方	4	0.6
ひきこもり状態の方	11	1.6
無回答	465	69.5
合計	669	



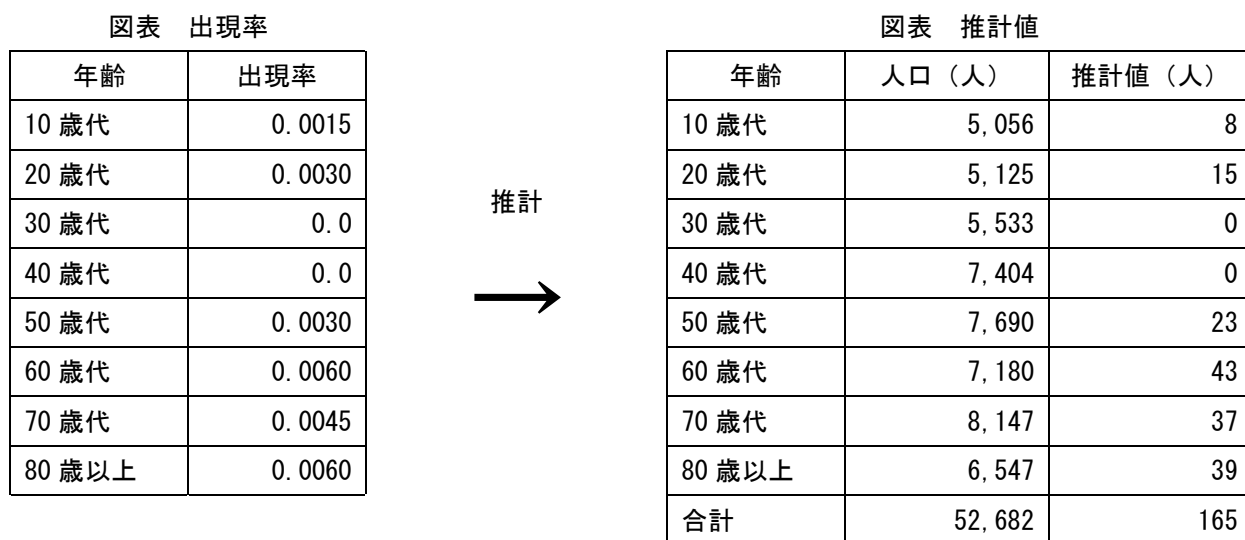
(4) ②ひきこもり状態の方



■ひきこもり状態の方の推計値について

今回の調査で、ひきこもり状態の方（仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態）がいると回答した方は11名おり、複数名と回答した方もいたことから、該当者は合計で16名となりました。

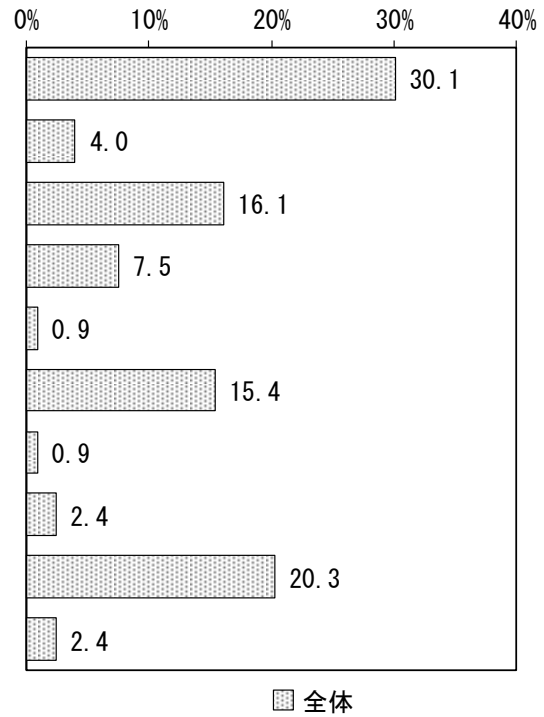
今回の回答者数（669人）と該当者数（16人）から、各年齢の出現率を算出すると、「図表 出現率」のようになります。この年齢別の出現率からひきこもり状態の方の人数を推計すると、市内で160人程度、ひきこもり状態の方がいると想定されます。



※人口は、調査期間と時期が近い令和3年11月末日のデータを使用

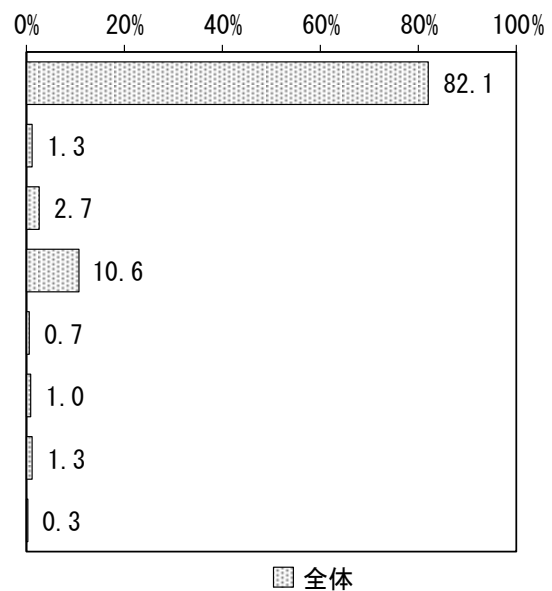
(5) 就労

項目	基数(n)	構成比(%)
正社員・正職員	201	30.1
派遣・契約社員	27	4.0
パートタイム・アルバイト	108	16.1
自営業	50	7.5
家族従業員(家業の手伝い)	6	0.9
家事専業	103	15.4
学生	6	0.9
その他	16	2.4
特に何もしていない	136	20.3
無回答	16	2.4
合計	669	100.0



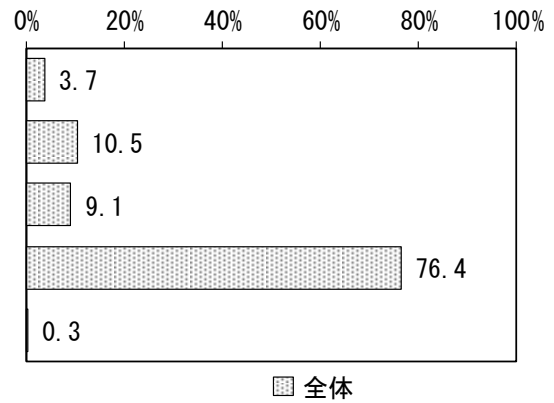
(6) 住まい

項目	基数(n)	構成比(%)
持ち家(一戸建て)	548	82.1
持ち家(分譲マンションなど)	9	1.3
借家(一戸建て)	18	2.7
民間共同賃貸住宅(アパートなど)	71	10.6
公営住宅	5	0.7
社宅・官舎・寮	7	1.0
その他	9	1.3
無回答	2	0.3
合計	669	100.0



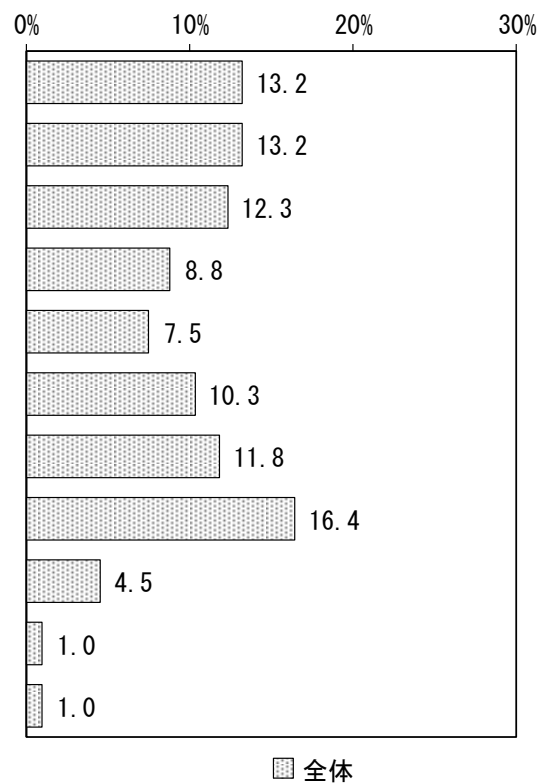
(7) 居住年数

項目	基数(n)	構成比(%)
1年未満	25	3.7
1年以上5年未満	70	10.5
5年以上10年未満	61	9.1
10年以上	511	76.4
無回答	2	0.3
合計	669	100.0



(8) 地区

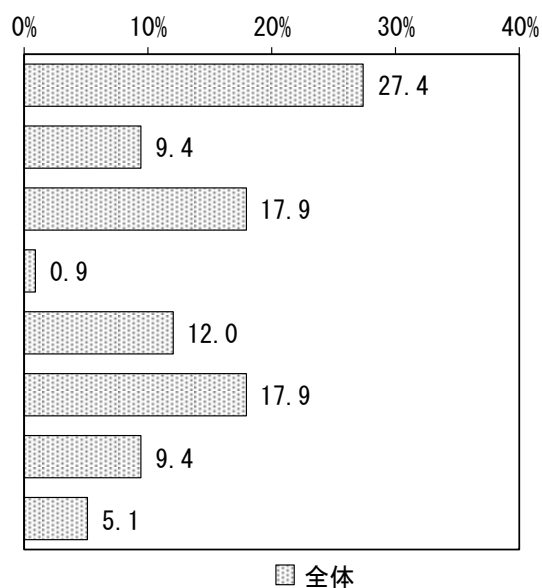
項目	基数(n)	構成比(%)
土岐津	88	13.2
下石	88	13.2
妻木	82	12.3
鶴里	59	8.8
曾木	50	7.5
駄知	69	10.3
肥田	79	11.8
泉	110	16.4
泉西	30	4.5
わからない	7	1.0
無回答	7	1.0
合計	669	100.0



7. 回答者の属性（団体）

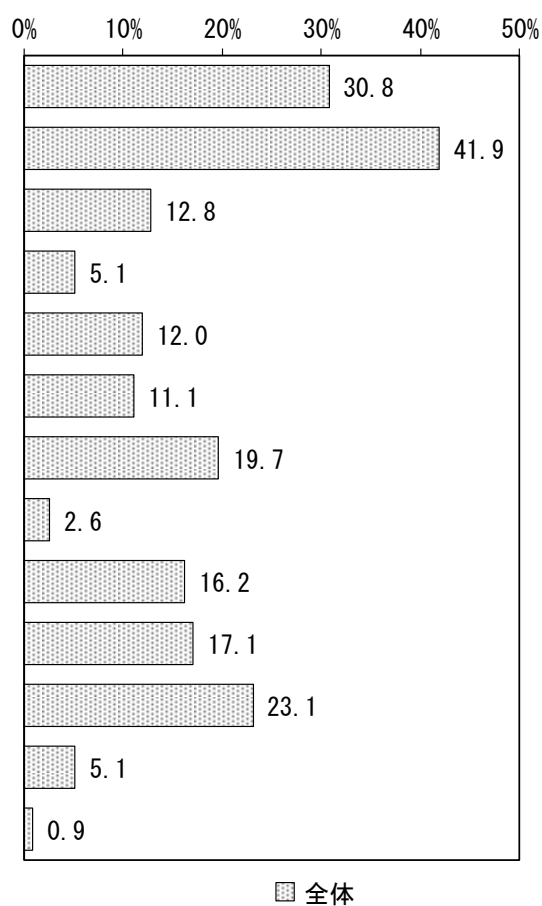
（1）団体・施設・事業所の形態

項目	基数(n)	構成比(%)
地域住民組織	32	27.4
NPO・ボランティア等	11	9.4
社会福祉法人・社会福祉施設等	21	17.9
保健医療機関等	1	0.9
企業・事業所	14	12.0
教育機関等	21	17.9
その他	11	9.4
無回答	6	5.1
合計	117	100.0



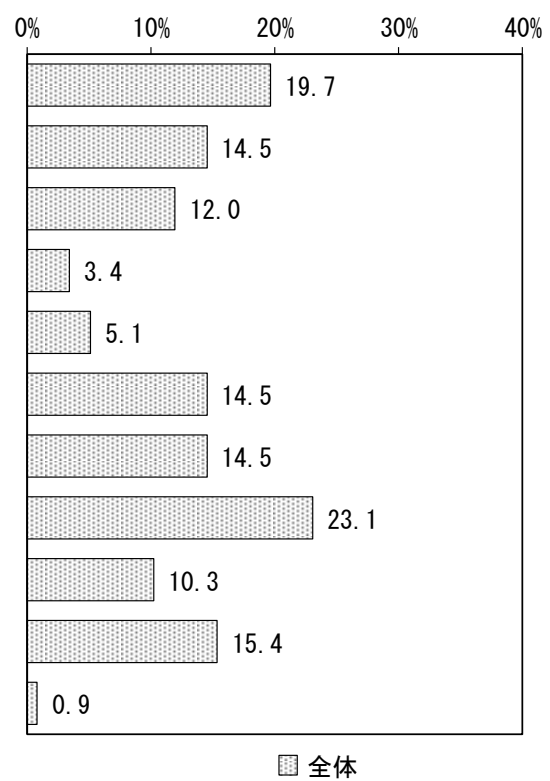
（2）主な活動分野

項目	基数(n)	構成比(%)
子ども・子育て	36	30.8
高齢者福祉	49	41.9
障がい者（児）福祉	15	12.8
貧困・ひきこもり等の支援	6	5.1
環境 （美化・緑化、リサイクル等）	14	12.0
スポーツ	13	11.1
教育	23	19.7
芸術	3	2.6
心身の健康・食育	19	16.2
防災・防犯・交通安全	20	17.1
地域活性化、まちづくり	27	23.1
その他	6	5.1
無回答	1	0.9
合計	117	



(3) 主な活動地区（小学校区）

項目	基数(n)	構成比(%)
土岐津	23	19.7
下石	17	14.5
妻木	14	12.0
鶴里	4	3.4
曾木	6	5.1
駄知	17	14.5
肥田	17	14.5
泉	27	23.1
泉西	12	10.3
特に活動地区を限定していない	18	15.4
無回答	1	0.9
合計	117	

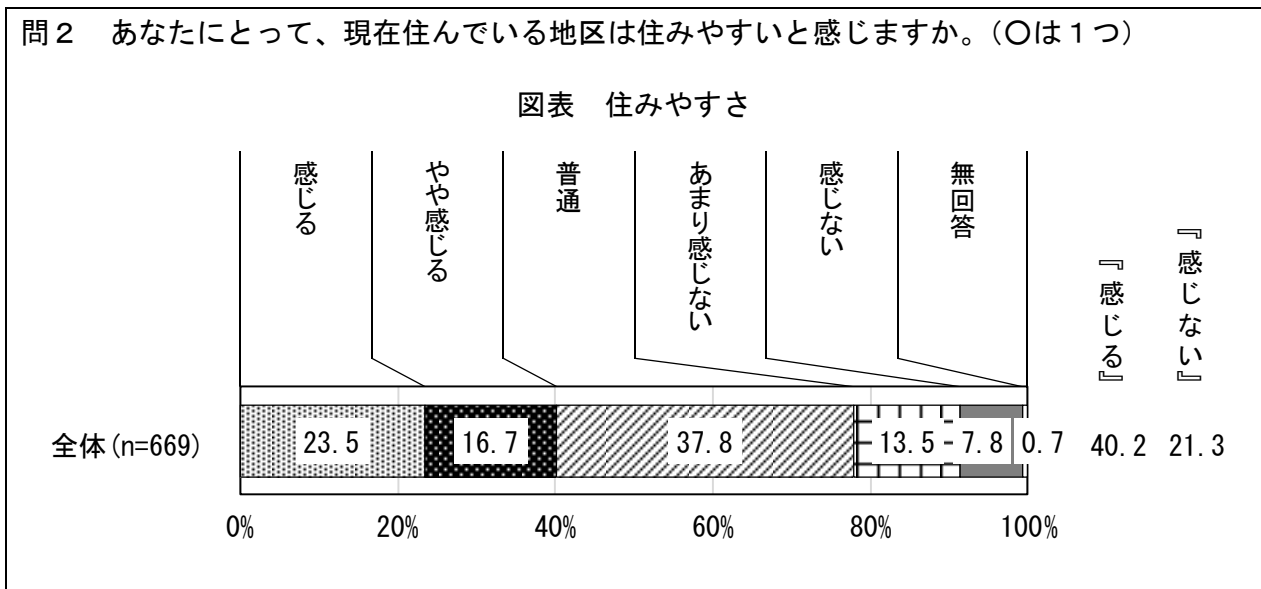


Ⅱ 市民アンケート調査の結果

1. 近所付き合いなどについて

(1) 住みやすさ

■ 『感じる』は約4割、『感じない』は2割強



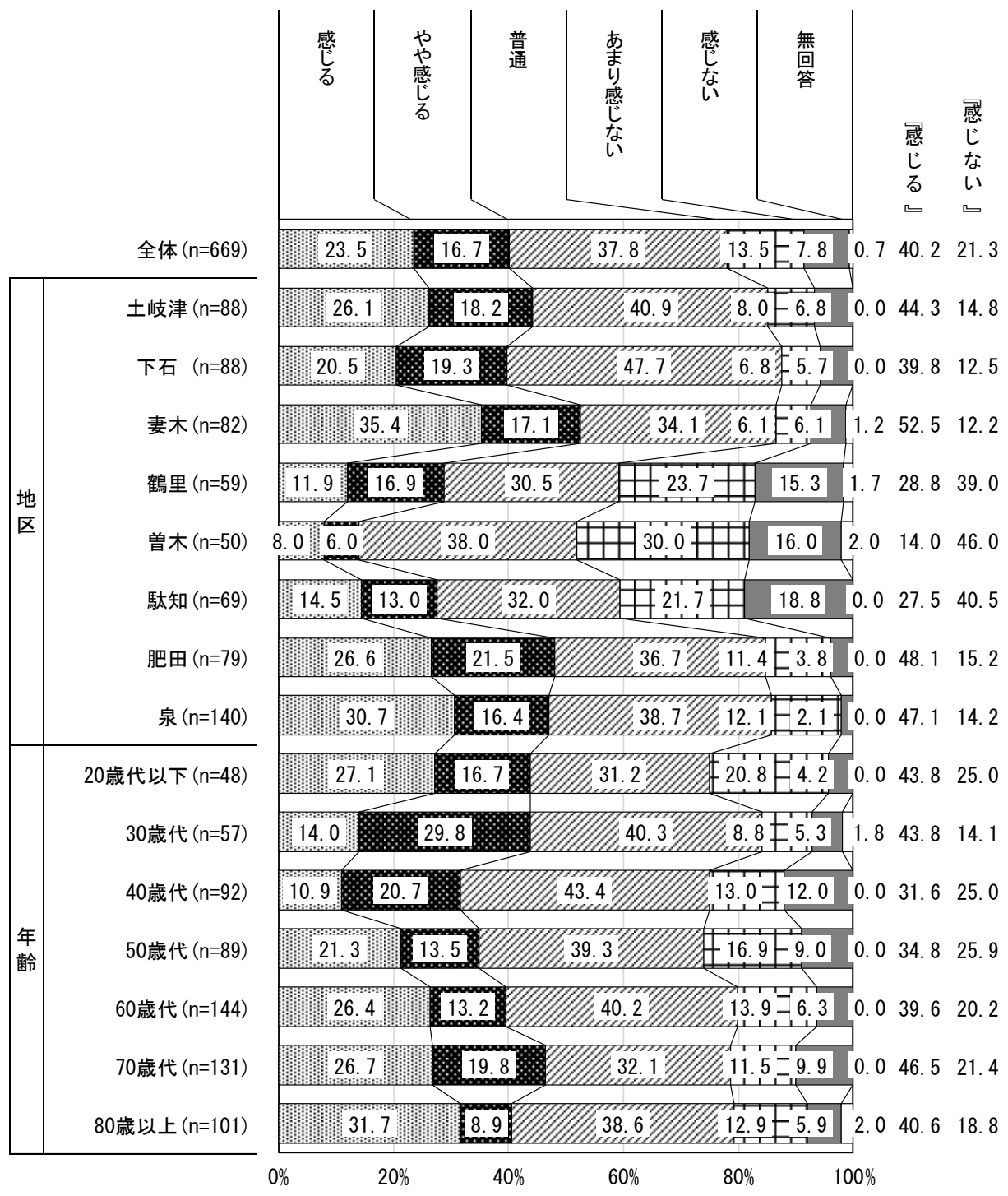
住みやすさについて聞いたところ、「感じる」(23.5%)と「やや感じる」(16.7%)を合計した『感じる』(40.2%)は約4割となっています。一方で、「あまり感じない」(13.5%)と「感じない」(7.8%)を合計した『感じない』(21.3%)は2割強となっています。

『感じる』は『感じない』の約2倍となっています。

地区で見ると、『感じる』は妻木が最も高く5割強（52.5%）となっています。『感じる』が『感じない』を上回っているのは、土岐津、下石、妻木、肥田、泉となっており、下回っているのは鶴里、曾木、駄知となっています。

年齢で見ると、『感じる』は70歳代が最も高く5割近く（46.5%）となっています。全ての年齢で『感じる』が『感じない』を上回っています。

図表 住みやすさ／地区・年齢

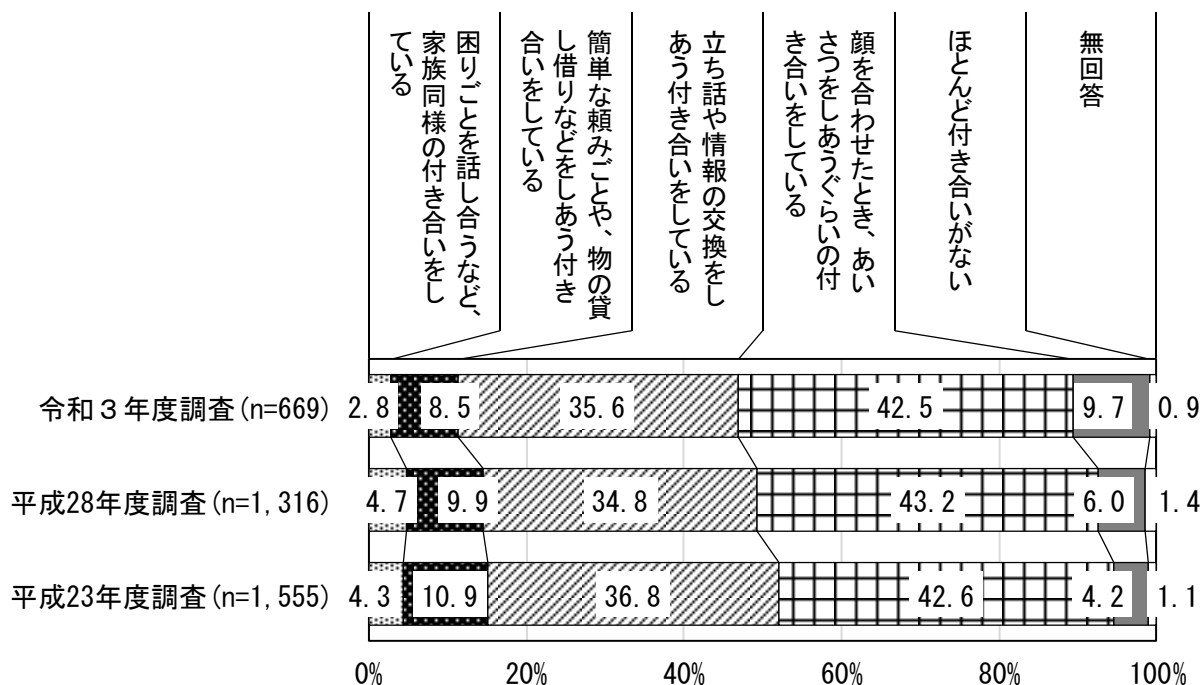


(2) 現状の近所付き合い

■「顔を合わせたとき、あいさつをしあうぐらいの付き合いをしている」が4割強を占める

問3 あなたは隣近所の方と、どの程度お付き合いがありますか。(○は1つ)

図表 現状の近所付き合い



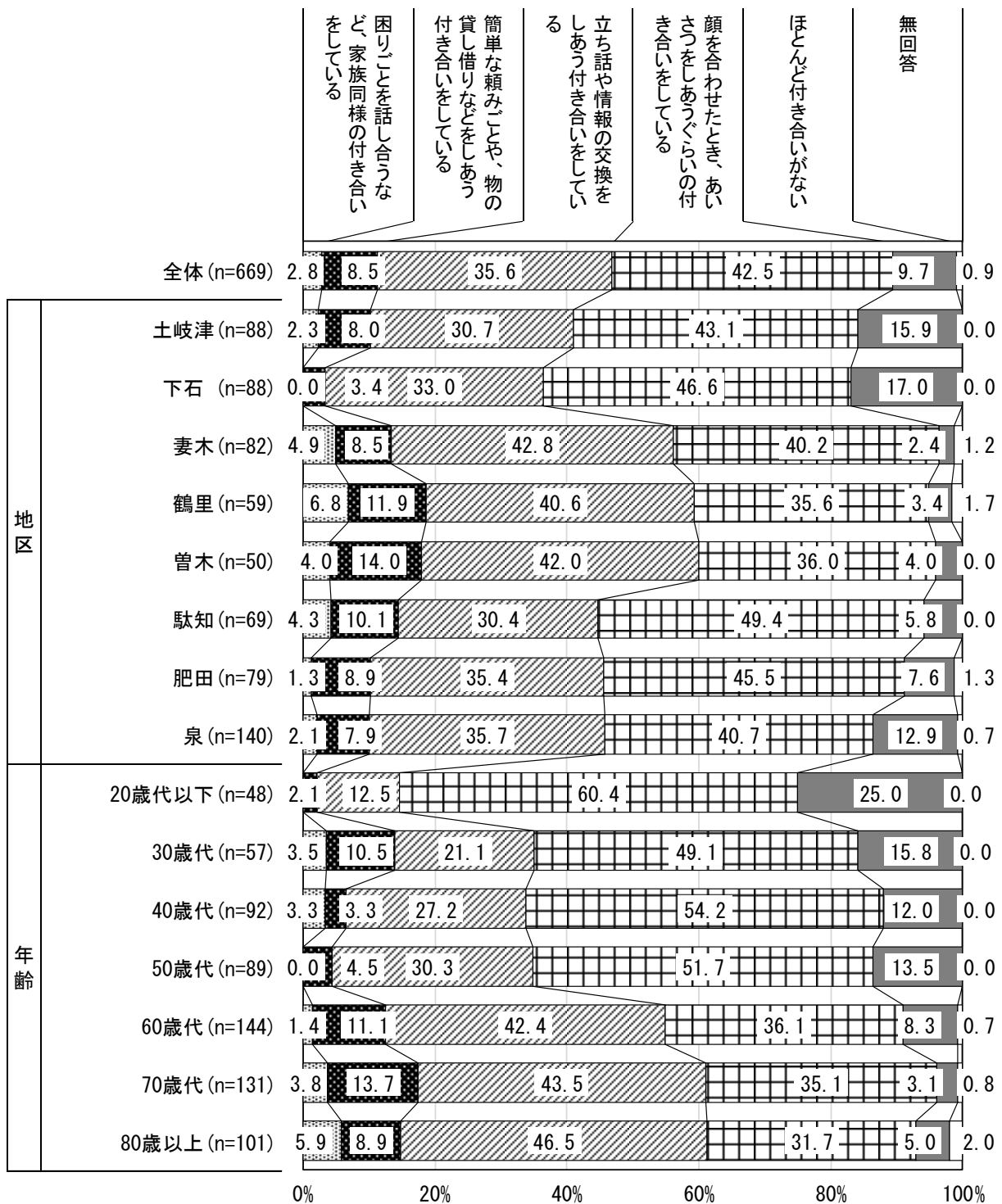
現状の近所付き合いについて聞いたところ、「顔を合わせたとき、あいさつをしあうぐらいの付き合いをしている」(42.5%)が4割強と最も高く、次いで、「立ち話や情報の交換をしあう付き合いをしている」(35.6%)が3割台半ば、「簡単な頼みごとや、物の貸し借りなどをしあう付き合いをしている」(8.5%)、「困りごとを話し合うなど、家族同様の付き合いをしている」(2.8%)となっています。一方で、「ほとんど付き合いがない」(9.7%)が1割未満となっています。

時系列で見ると、「ほとんど付き合いがない」は平成23年(4.2%)から令和3年(9.7%)にかけて5.5ポイント上昇しています。

地区で見ると、「ほとんど付き合いがない」は土岐津（15.9%）、下石（17.0%）、泉（12.9%）で1割を超えて高くなっています。

年齢で見ると、「ほとんど付き合いがない」は20歳代以下が最も高く2割台半ば（25.0%）となっています。また、30歳代（15.8%）、40歳代（12.0%）、50歳代（13.5%）で1割を超えています。

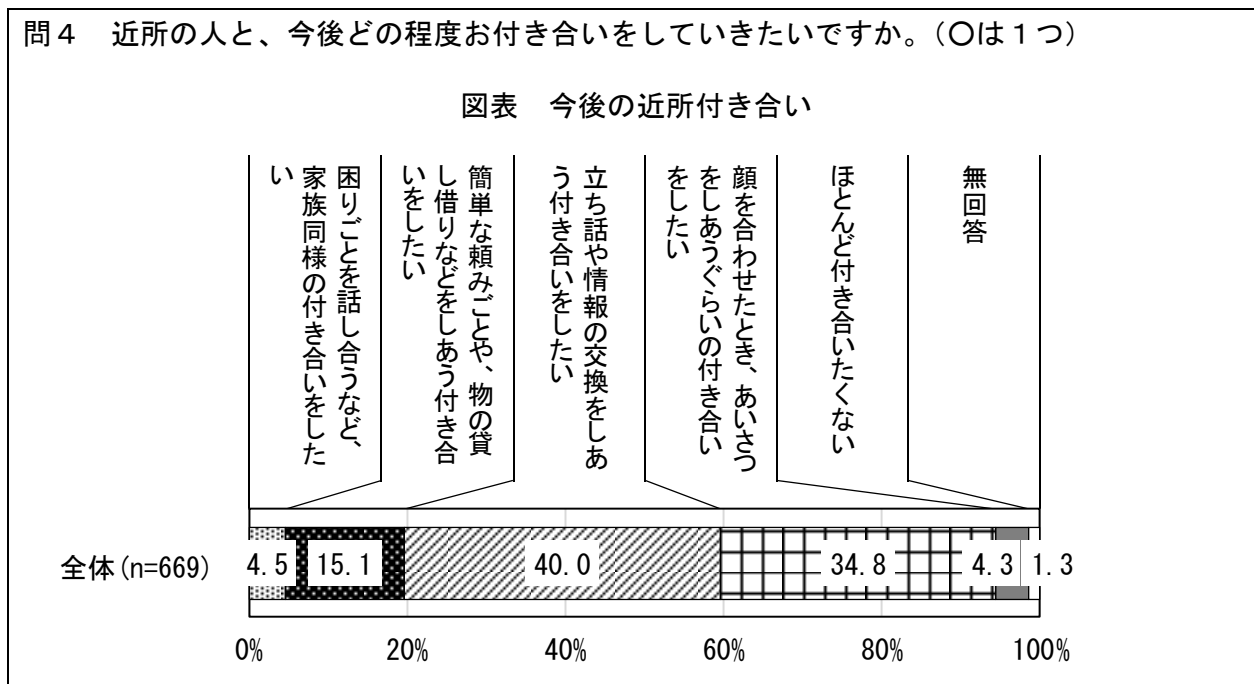
図表 現状の近所付き合い／地区・年齢



(3) 今後の近所付き合い

■「立ち話や情報の交換をしあう付き合いをしたい」が4割と高い

問4 近所の人と、今後どの程度お付き合いをしていきたいですか。(○は1つ)



今後の近所付き合いについて聞いたところ、「立ち話や情報の交換をしあう付き合いをしたい」(40.0%)が4割と最も高く、次いで、「顔を合わせたとき、あいさつをしあうぐらいの付き合いをしたい」(34.8%)が3割台半ば、「簡単な頼みごとや、物の貸し借りなどをしあう付き合いをしたい」(15.1%)が1割台半ば、「困りごとを話し合うなど、家族同様の付き合いをしたい」(4.5%)と「ほとんど付き合いたくない」(4.3%)が1割未満となっています。

■「(2) 現状の近所付き合い」と「(3) 今後の近所付き合い」との比較

現状と今後を比較すると、以下の表のようになります。現状よりも未来はより支え合いに近い近所付き合いを望んでいる方が多いことがわかります。

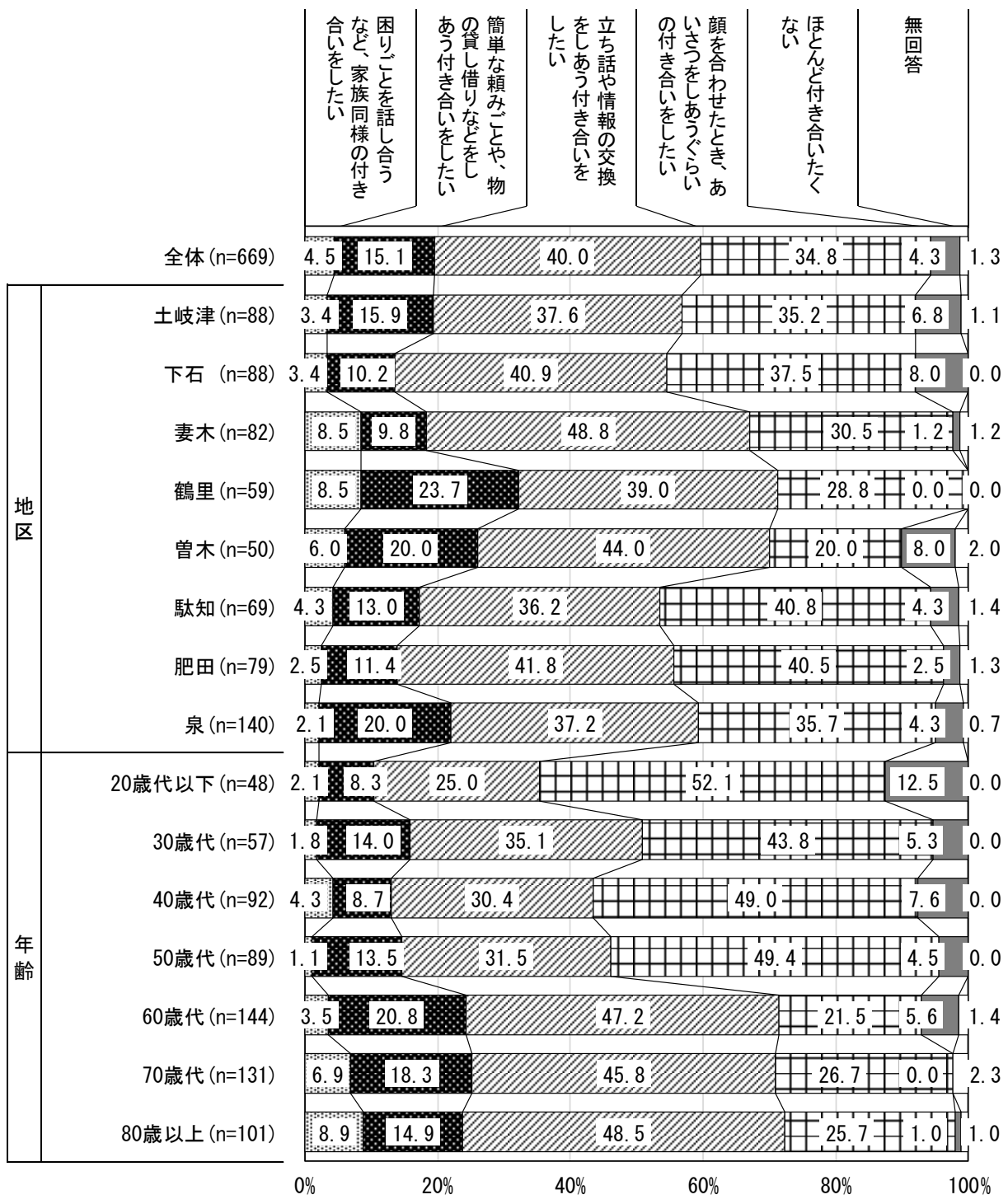
図表 「(2) 現状の近所付き合い」と「(3) 今後の近所付き合い」との比較

単位：%

	現状	今後	現状から今後
困りごとを話し合うなど、家族同様の付き合い	2.8	4.5	↑ 上昇
簡単な頼みごとや、物の貸し借りなどをしあう付き合い	8.5	15.1	↑ 上昇
立ち話や情報の交換をしあう付き合い	35.6	40.0	↑ 上昇
顔を合わせたとき、あいさつをしあうぐらいの付き合い	42.5	34.8	↓ 低下
ほとんど付き合いがない(付き合いたくない)	9.7	4.3	↓ 低下

現状と今後を比較すると、「ほとんど付き合いがない」から「ほとんど付き合いたくない」は、地区・年齢のほとんどの属性で、低下しています。曾木のみ、現状（4.0%）から今後（8.0%）にかけて上昇が見られ、近所付き合いに前向きでない方が多いことが分かります。

図表 今後の近所付き合い／地区・年齢

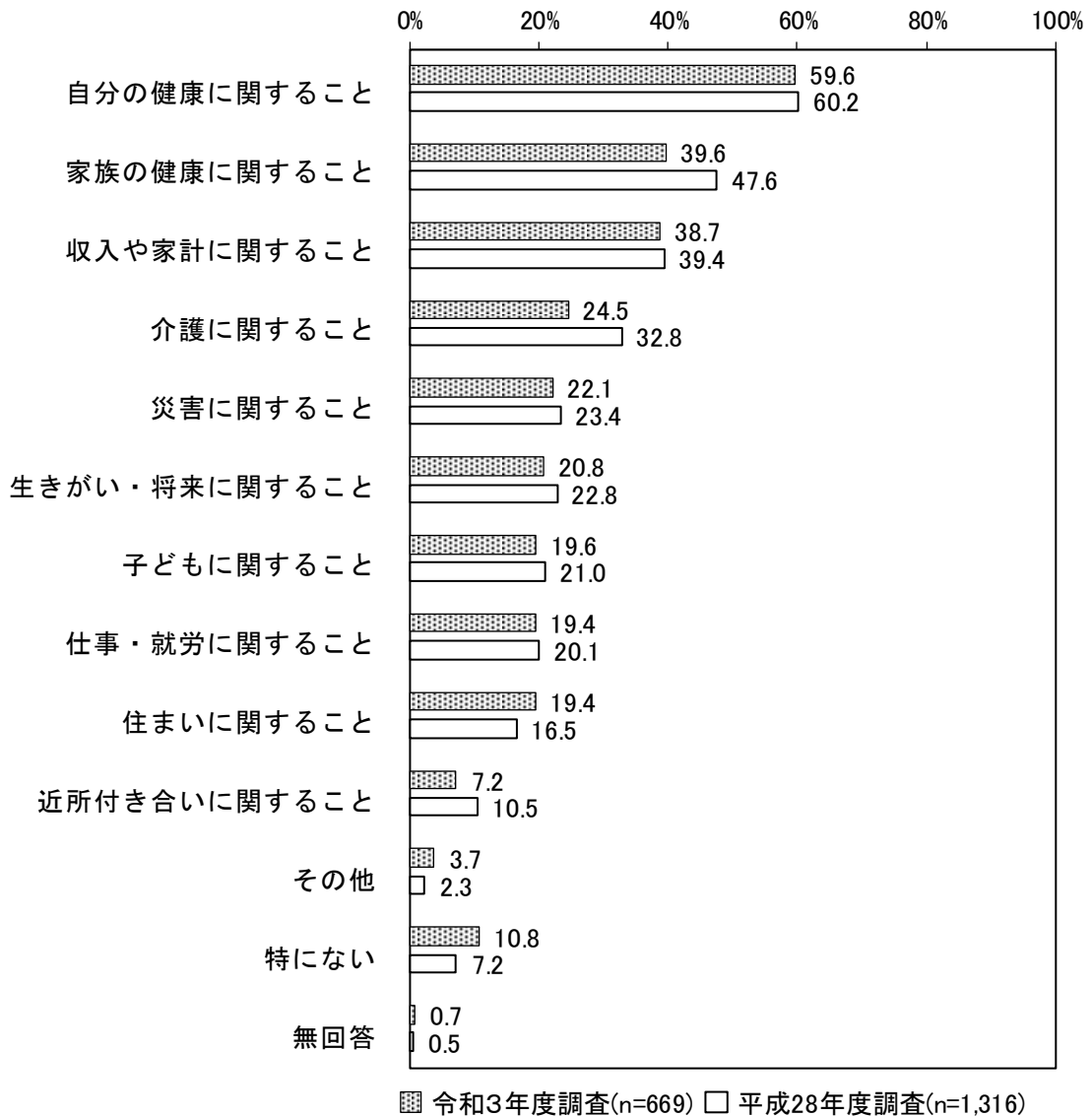


(4) 悩みや不安

■「自分の健康に関すること」「家族の健康に関すること」「収入や家計に関すること」が3割以上

問5 あなたは、ふだんの暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 悩みや不安



悩みや不安について聞いたところ、「自分の健康に関すること」(59.6%)、「家族の健康に関すること」(39.6%)、「収入や家計に関すること」(38.7%)が3割以上と高くなっています。一方で、「特にない」(10.8%)も約1割見られます。

時系列で見ると、平成28年から令和3年にかけて「住まいに関すること」・「その他」・「特にない」が上昇しています。

性別では大きな違いが見られません。

年齢で見ると、「自分の健康に関すること」は30歳代以下で低く、70歳代以上で高くなっています。

一方、「収入や家計に関すること」・「生きがい・将来に関すること」・「子どもに関すること」・「仕事・就労に関すること」は若年層で高く、高齢層で低い傾向があります。

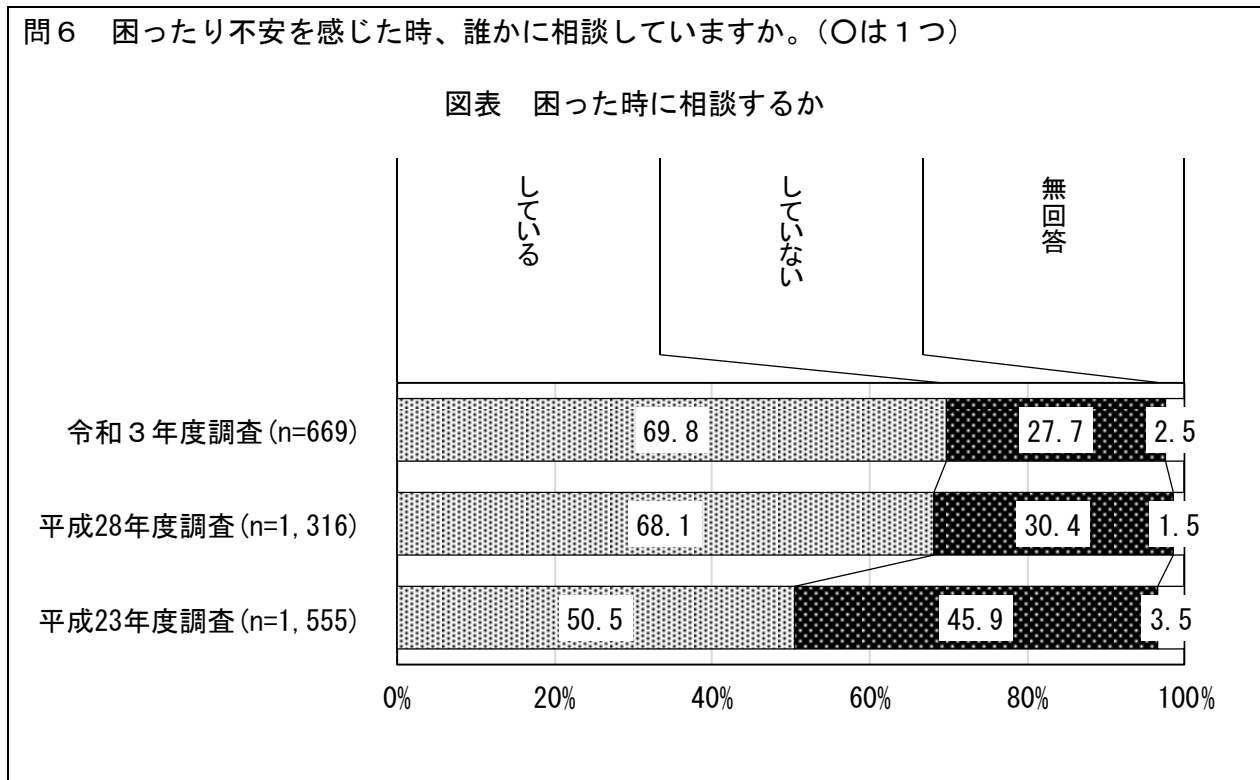
図表 悩みや不安（上位10項目）／性別・年齢

		n (回答者数)	自分の健康に関すること	家族の健康に関すること	収入や家計に関すること	介護に関すること	災害に関すること	生きがい・将来に関すること	子どもに関すること	仕事・就労に関すること	住まいに関すること	近所付き合いに関すること
全体		669	59.6	39.6	38.7	24.5	22.1	20.8	19.6	19.4	19.4	7.2
性別	男性	258	64.0	39.1	43.8	23.6	20.9	27.1	23.6	24.4	20.9	6.6
	女性	356	55.3	38.5	36.8	24.7	24.4	16.9	18.0	18.0	18.0	7.6
年齢	20歳代以下	48	25.0	27.1	50.0	6.3	29.2	45.8	25.0	41.7	20.8	8.3
	30歳代	57	36.8	43.9	59.6	10.5	21.1	19.3	64.9	40.4	22.8	8.8
	40歳代	92	50.0	46.7	65.2	20.7	26.1	23.9	46.7	37.0	30.4	6.5
	50歳代	89	61.8	48.3	44.9	33.7	24.7	24.7	18.0	33.7	21.3	9.0
	60歳代	144	65.3	38.2	38.9	29.9	18.8	22.2	7.6	11.8	20.1	6.9
	70歳代	131	70.2	37.4	22.9	26.0	21.4	16.0	7.6	3.8	13.7	7.6
	80歳以上	101	74.3	34.7	13.9	28.7	20.8	6.9	2.0	0.0	12.9	5.0

(5) 困った時に相談するか

■「している」が7割弱を占める

問6 困ったり不安を感じた時、誰かに相談していますか。(○は1つ)

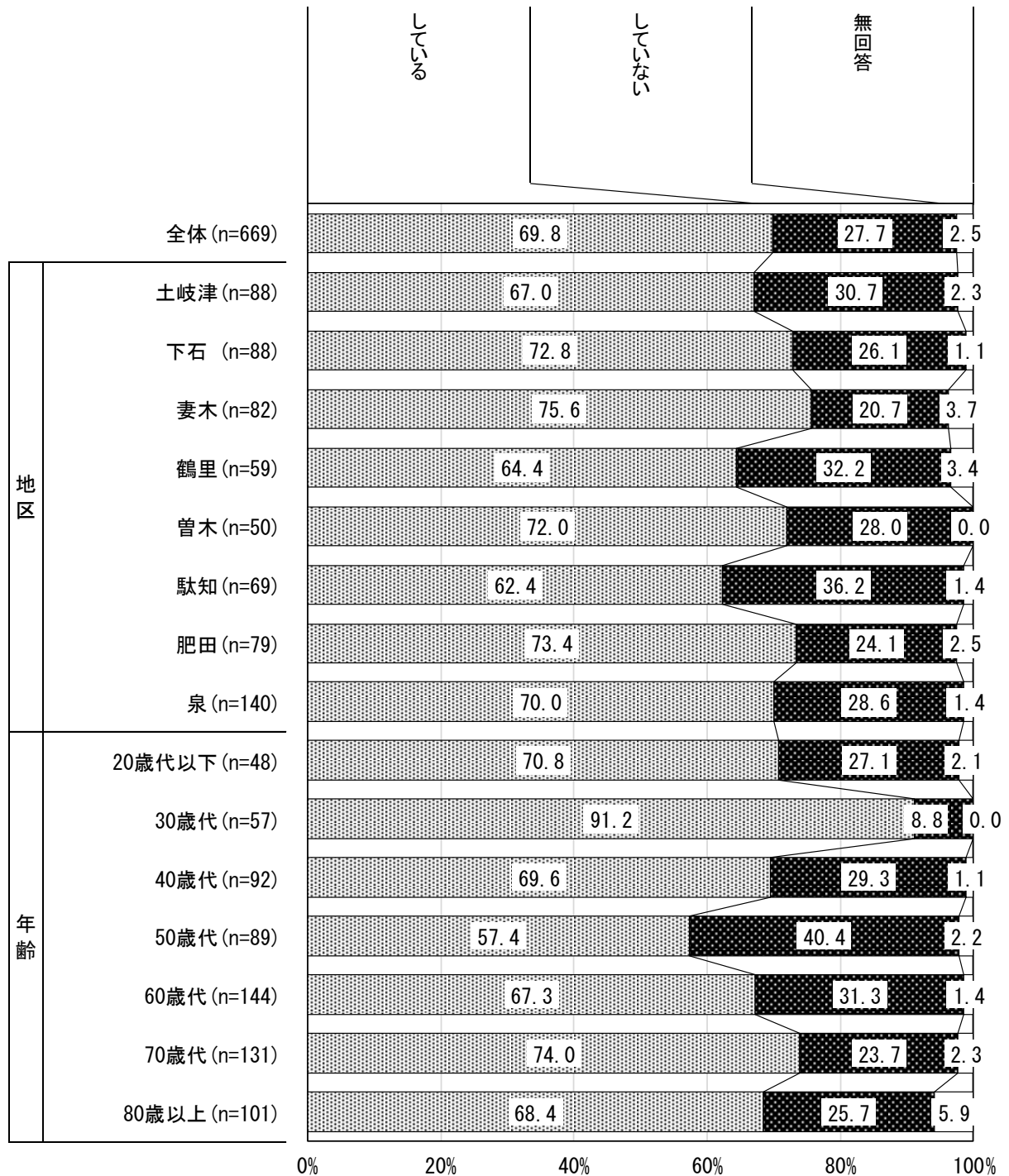


困った時に相談するかについて聞いたところ、「している」(69.8%)が7割弱、「していない」(27.7%)が3割近くとなっています。

時系列で見ると、「している」は上昇傾向にあり、平成23年(50.5%)から令和3年(69.8%)にかけて19.3ポイント上昇しています。

地区・年齢のいずれの属性も、「している」が「していない」を上回っています。地区では、「している」は妻木が最も高く7割台半ば（75.6%）、駄知が最も低く6割強（62.4%）となっています。年齢を見ると、「していない」は50歳代が特に高く約4割（40.4%）となっています。

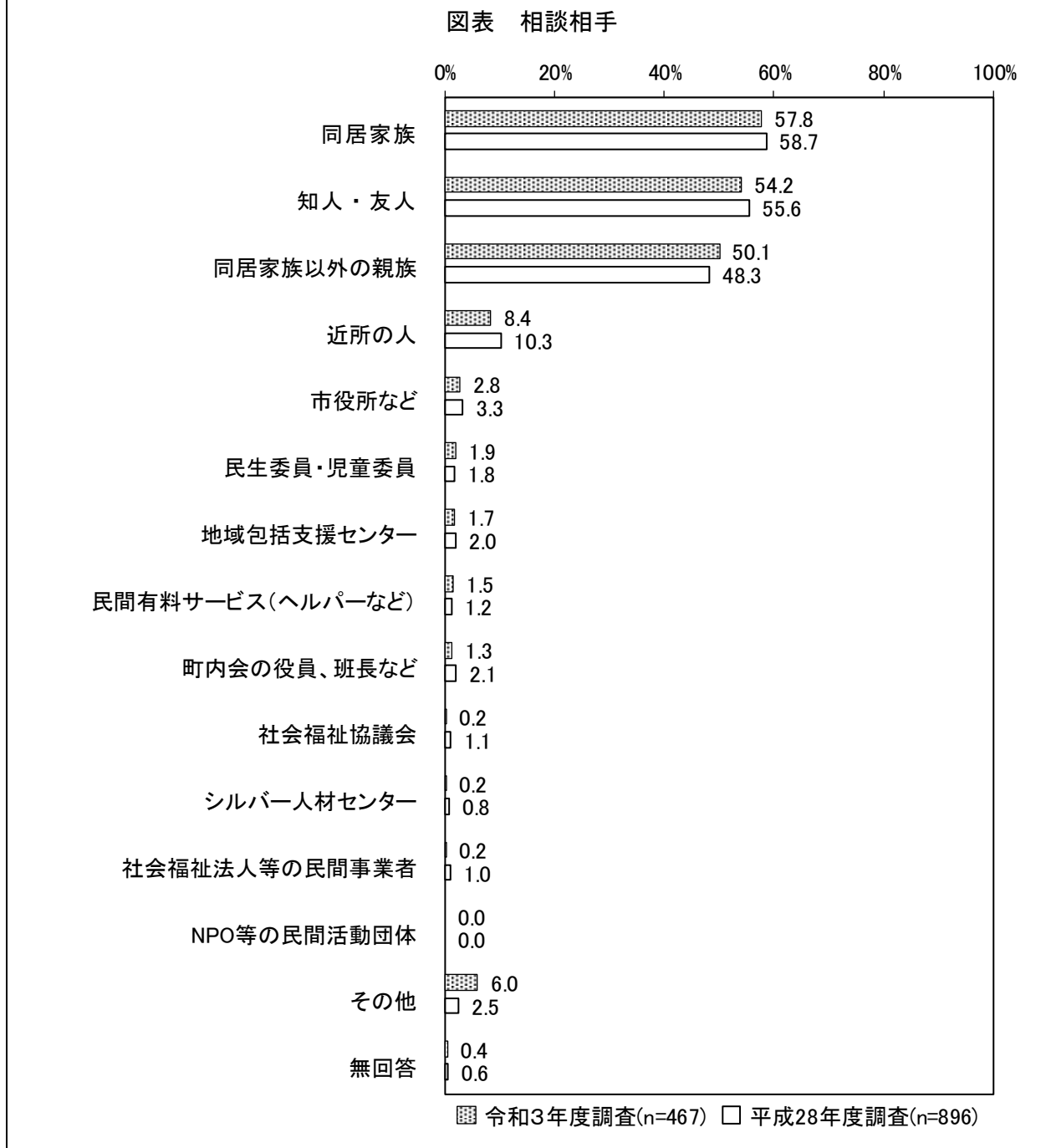
図表 困った時に相談するか／地区・年齢



(6) ①相談相手

■「同居家族」「知人・友人」「同居家族以外の親族」が5割以上と高い

問7ー① 問6で「1 している」を選んだ方に伺います。どなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)



相談相手について聞いたところ、「同居家族」(57.8%)、「知人・友人」(54.2%)、「同居家族以外の親族」(50.1%)が5割以上と高くなっています。

時系列で見ると、「その他」が平成23年(2.5%)から令和3年(6.0%)にかけて3.5ポイント上昇しています。

性別では大きな違いが見られません。

年齢で見ると、「同居家族」は40歳代以下で高く、70歳代以上で低くなっています。また、「知人・友人」は30歳代以下で高く、70歳代以上で低くなっています。

図表 相談相手（上位10項目）／性別・年齢

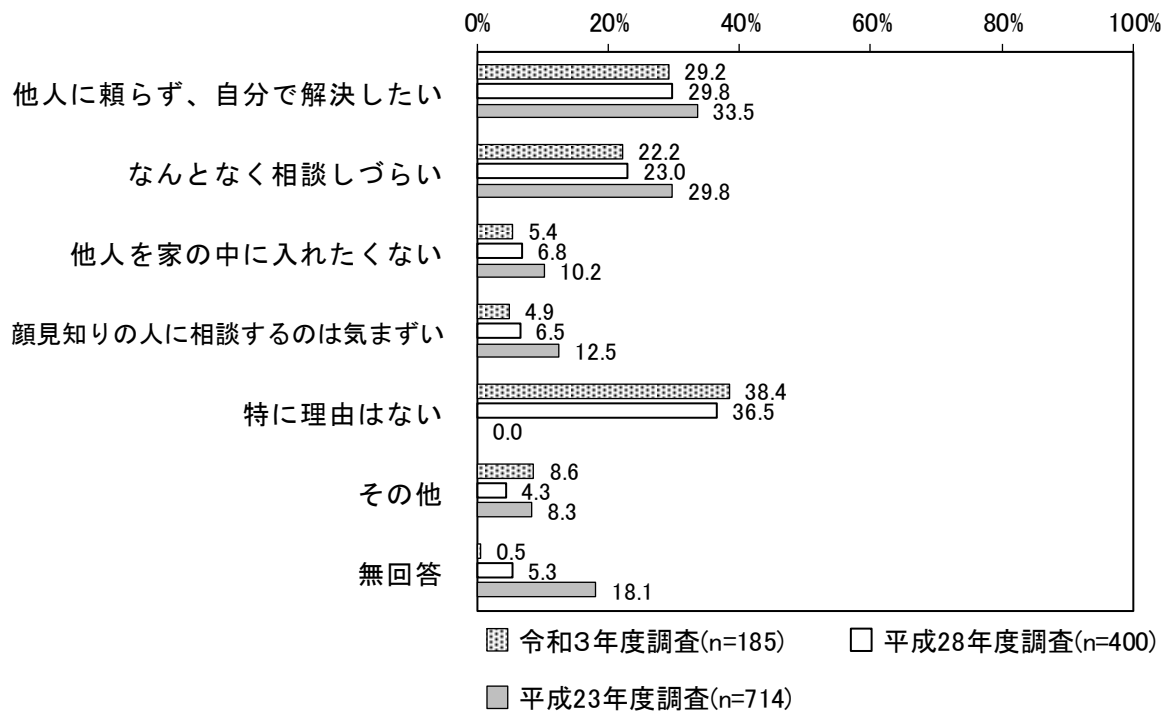
		n (回答者数)	同居家族	知人・友人	同居家族以外の親族	近所の人	市役所など	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	民間有料サービス（ヘルパーなど）	町内会の役員、班長など	社会福祉協議会
全体		467	57.8	54.2	50.1	8.4	2.8	1.9	1.7	1.5	1.3	0.2
性別	男性	144	63.9	52.8	40.3	6.3	2.1	3.5	0.7	2.1	2.8	0.0
	女性	283	56.2	56.5	54.1	9.2	3.5	1.1	2.1	1.4	0.4	0.4
年齢	20歳代以下	34	76.5	82.4	44.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	52	78.8	69.2	57.7	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0
	40歳代	64	73.4	62.5	45.3	6.3	1.6	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0
	50歳代	51	64.7	60.8	41.2	2.0	3.9	0.0	0.0	3.9	2.0	0.0
	60歳代	97	55.7	59.8	51.5	8.2	4.1	2.1	2.1	1.0	1.0	0.0
	70歳代	97	36.1	42.3	53.6	12.4	3.1	2.1	4.1	1.0	1.0	1.0
	80歳以上	69	46.4	24.6	52.2	14.5	1.4	5.8	2.9	4.3	1.4	0.0

(6) ②相談しない理由

■「他人に頼らず、自分で解決したい」「なんとなく相談しづらい」が2割以上と高い

問7-② 問6で「2 していない」を選んだ方に伺います。理由は何ですか。(○は2つまで)

図表 相談しない理由



相談しない理由について聞いたところ、「他人に頼らず、自分で解決したい」(29.2%)、「なんとなく相談しづらい」(22.2%)が2割以上と高くなっています。一方で、「特に理由はない」(38.4%)が4割近くと最も高くなっています。

時系列で見ると、「特に理由はない」は平成28年(36.5%)から令和3年(38.4%)にかけて1.9ポイント上昇しています。

性別で見ると、女性は「他人に頼らず、自分で解決したい」が低く、「なんとなく相談しづらい」が高くなっています。

年齢で見ると、「他人に頼らず、自分で解決したい」は70歳代で高く、30歳代から40歳代で低くなっています。また、「なんとなく相談しづらい」は40歳代で高く、80歳以上で低くなっています。

図表 相談しない理由／性別・年齢

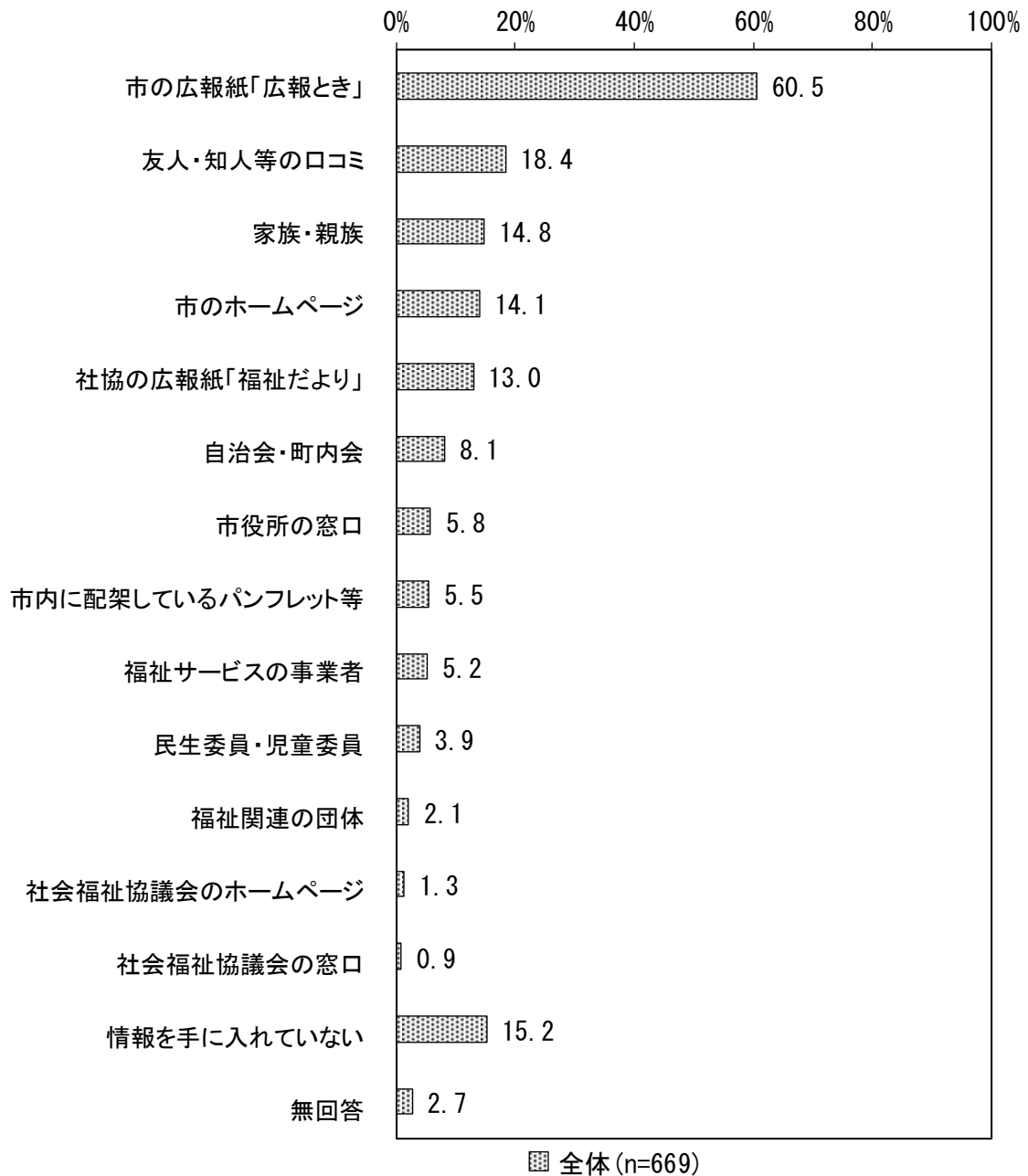
		n (回答者数)	他人に頼らず、 自分で解決したい	なんとなく 相談しづらい	他人を家の中 に入れたくない	顔見知りの人 に相談するのは 気まずい	特に理由はない	その他	無回答
全体		185	29.2	22.2	5.4	4.9	38.4	8.6	0.5
性別	男性	109	35.8	15.6	5.5	3.7	40.4	7.3	0.0
	女性	66	16.7	34.8	6.1	7.6	33.3	12.1	1.5
年齢	20歳代以下	13	30.8	30.8	7.7	7.7	38.5	0.0	0.0
	30歳代	5	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0
	40歳代	27	14.8	37.0	0.0	7.4	37.0	14.8	0.0
	50歳代	36	30.6	19.4	8.3	2.8	38.9	8.3	2.8
	60歳代	45	31.1	26.7	4.4	6.7	33.3	6.7	0.0
	70歳代	31	41.9	12.9	6.5	6.5	35.5	6.5	0.0
	80歳以上	26	30.8	11.5	3.8	0.0	42.3	15.4	0.0

(7) 福祉に関する情報の入手先

■「市の広報紙『広報とき』」が約6割と最も高い

問8 市の福祉に関する情報をどこから手に入れていますか。(〇はいくつでも)

図表 福祉に関する情報の入手先



福祉に関する情報の入手先について聞いたところ、「市の広報紙『広報とき』」(60.5%)が約6割と最も高く、「友人・知人等の口コミ」(18.4%)、「家族・親族」(14.8%)、「市のホームページ」(14.1%)、「社協の広報紙『福祉だより』」(13.0%)が1割以上と高くなっています。一方で、「情報を手に入れていない」(15.2%)も1割台半ばとなっています。

地区で見ると、鶴里では「市のホームページ」が低く、「自治会・町内会」が高くなっています。
 年齢で見ると、「市の広報紙『広報とき』」は20歳代以下・50歳代で低くなっています。また、30歳代のみ「家族・親族」・「市のホームページ」が高くなっています。

図表 福祉に関する情報の入手先（上位10項目）／地区・年齢

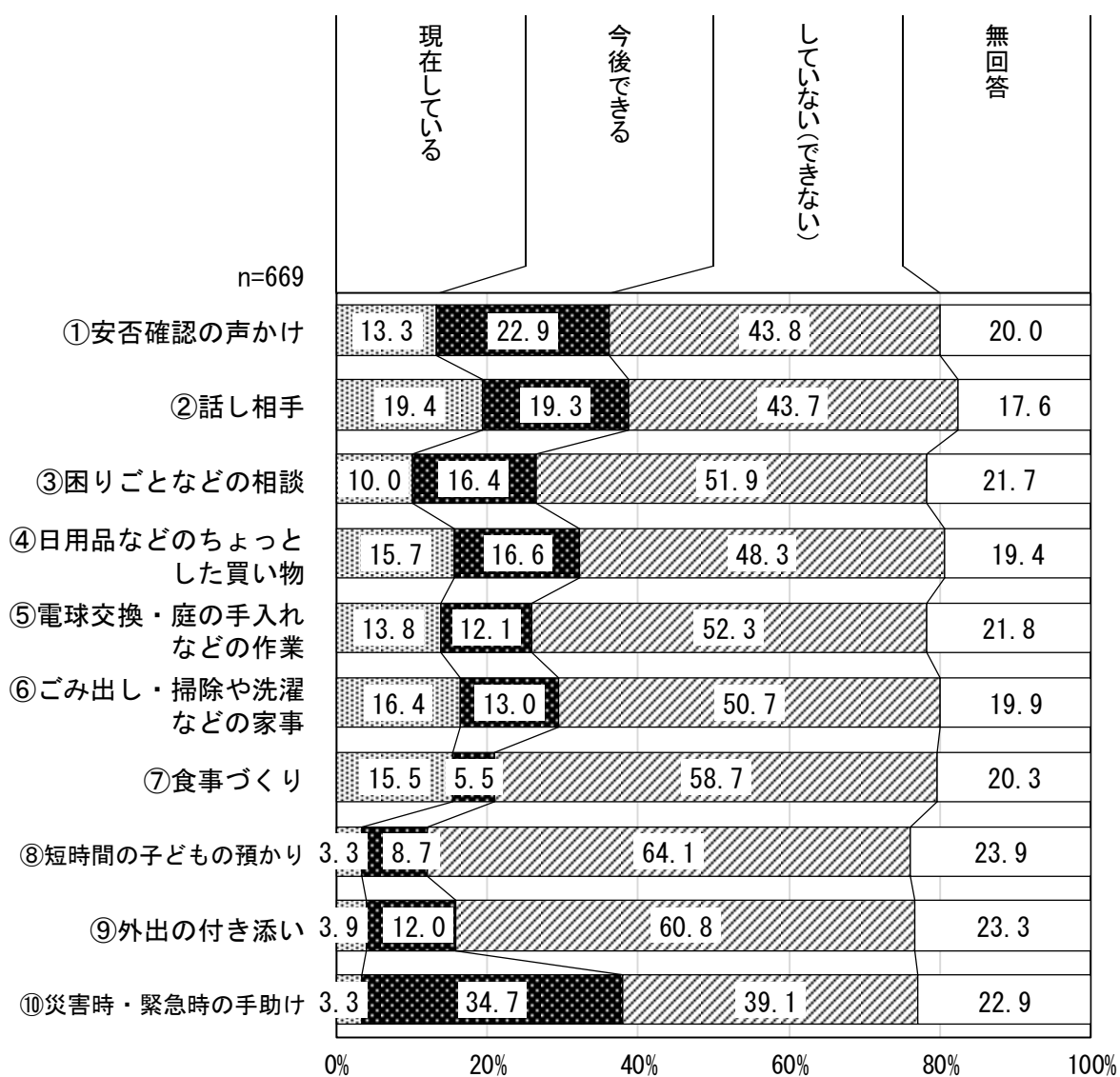
		n (回答者数)	市の広報紙「広報とき」	友人・知人等の口コミ	家族・親族	市のホームページ	社協の広報紙「福祉だより」	自治会・町内会	市役所の窓口	市内に配架しているパンフレット等	福祉サービスの事業者	民生委員・児童委員
全体		669	60.5	18.4	14.8	14.1	13.0	8.1	5.8	5.5	5.2	3.9
地区	土岐津	88	65.9	25.0	10.2	18.2	5.7	4.5	9.1	5.7	5.7	2.3
	下石	88	52.3	14.8	19.3	12.5	10.2	3.4	5.7	5.7	4.5	4.5
	妻木	82	67.1	17.1	18.3	11.0	15.9	6.1	6.1	4.9	8.5	1.2
	鶴里	59	57.6	15.3	13.6	3.4	15.3	20.3	3.4	5.1	10.2	5.1
	曾木	50	64.0	14.0	14.0	10.0	14.0	12.0	2.0	12.0	4.0	12.0
	駄知	69	56.5	15.9	13.0	15.9	17.4	8.7	4.3	4.3	2.9	4.3
	肥田	79	68.4	19.0	11.4	16.5	19.0	8.9	10.1	6.3	2.5	0.0
	泉	140	57.9	22.9	15.7	17.9	11.4	7.9	3.6	4.3	4.3	5.0
年齢	20歳代以下	48	35.4	10.4	16.7	16.7	4.2	6.3	4.2	6.3	2.1	0.0
	30歳代	57	64.9	17.5	28.1	26.3	8.8	7.0	3.5	5.3	1.8	0.0
	40歳代	92	57.6	5.4	14.1	23.9	7.6	9.8	7.6	2.2	4.3	1.1
	50歳代	89	44.9	16.9	13.5	18.0	9.0	6.7	9.0	4.5	7.9	1.1
	60歳代	144	69.4	25.0	11.8	14.6	11.8	9.7	4.9	6.9	4.9	2.8
	70歳代	131	66.4	17.6	11.5	7.6	22.1	6.1	7.6	6.1	4.6	6.9
	80歳以上	101	66.3	27.7	17.8	2.0	15.8	8.9	3.0	6.9	8.9	10.9

(8) ①地域の方を手助けしていること

■「今後できる」は“⑩災害時・緊急時の手助け”が3割台半ばと高い

問9 あなたが、地域の方を「手助けしていること」や今後「手助けできること」はございますか。また、現在もしくは今後、あなた自身が地域の人に「手助けしてもらいたいこと」はございますか。それぞれについてあてはまるものをお答えください。(ABそれぞれ○は1つ)

図表 地域の方を手助けしていること



地域の方を手助けしていることについて聞いたところ、“①安否確認の声かけ”から“⑦食事づくり”で「現在している」は1割以上となっています。特に、“②話し相手”(19.4%)は2割弱と高くなっています。

また、「今後できる」は“⑩災害時・緊急時の手助け”(34.7%)が最も高く3割台半ば、次いで“①安否確認の声かけ”(22.9%)が2割強と高くなっています。

図表 「現在している」／地区別

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=88	n=88	n=82	n=59	n=50	n=69	n=79	n=140
地区	①安否確認の声かけ	14.8	13.6	12.2	11.9	24.0	13.0	12.7	10.0
	②話し相手	15.9	20.5	19.5	27.1	34.0	14.5	20.3	15.0
	③困りごとなどの相談	9.1	9.1	12.2	15.3	18.0	10.1	5.1	7.1
	④日用品などのちょっとした買い物	19.3	17.0	19.5	20.3	12.0	18.8	5.1	15.0
	⑤電球交換・庭の手入れなどの作業	17.0	15.9	15.9	22.0	12.0	14.5	8.9	9.3
	⑥ごみ出し・掃除や洗濯などの家事	20.5	14.8	17.1	16.9	14.0	23.2	10.1	15.7
	⑦食事づくり	19.3	14.8	19.5	13.6	10.0	18.8	8.9	16.4
	⑧短時間の子どもの預かり	4.5	3.4	4.9	6.8	2.0	2.9	1.3	2.1
	⑨外出の付き添い	5.7	6.8	8.5	5.1	0.0	2.9	0.0	1.4
	⑩災害時・緊急時の手助け	2.3	3.4	4.9	8.5	2.0	5.8	0.0	1.4

※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

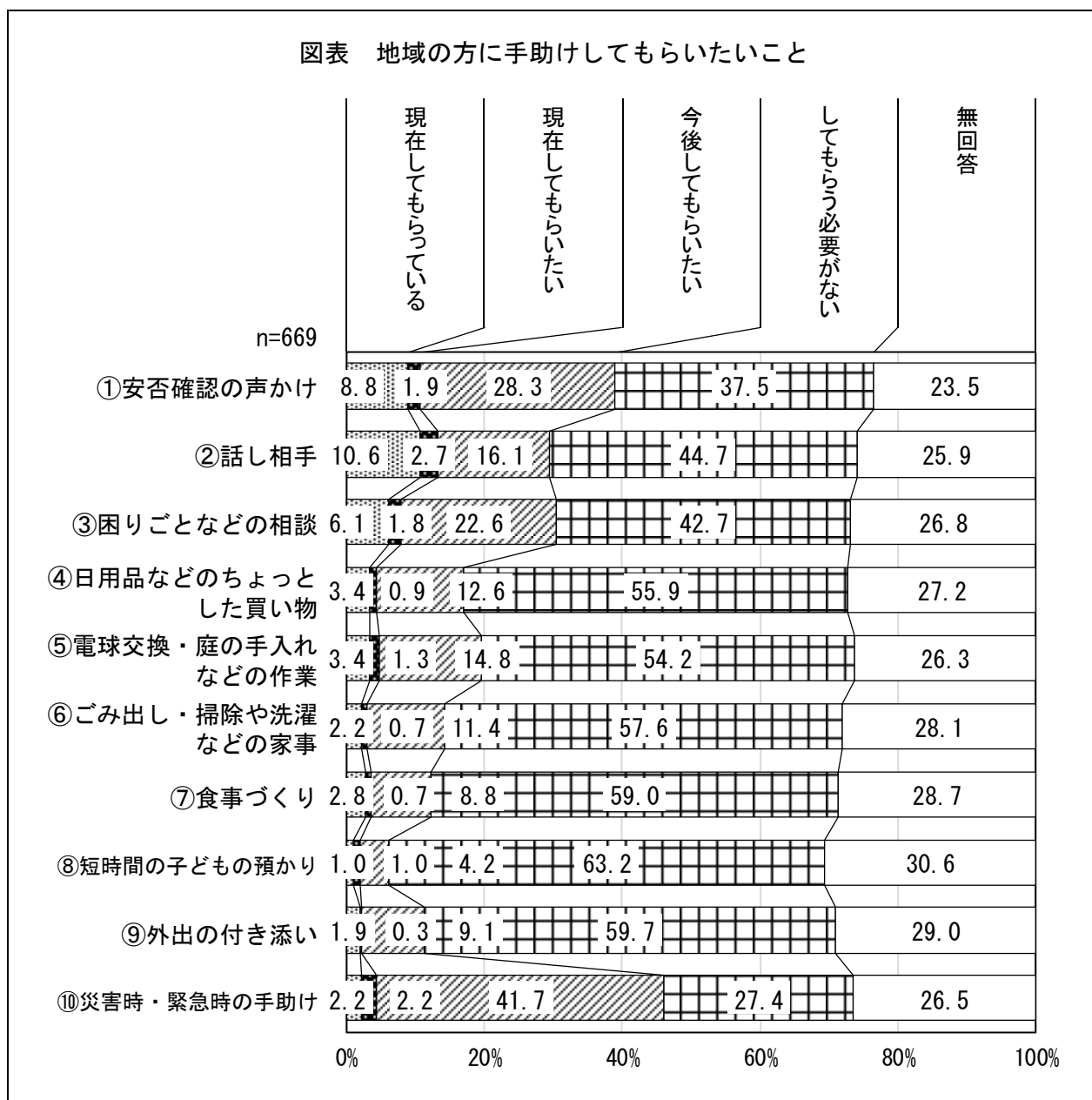
図表 「今後できる」／地区別

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=88	n=88	n=82	n=59	n=50	n=69	n=79	n=140
地区	①安否確認の声かけ	19.3	21.6	18.3	28.8	26.0	18.8	26.6	25.7
	②話し相手	18.2	18.2	18.3	18.6	20.0	20.3	22.8	19.3
	③困りごとなどの相談	11.4	20.5	11.0	16.9	20.0	15.9	19.0	17.9
	④日用品などのちょっとした買い物	11.4	13.6	9.8	22.0	20.0	14.5	22.8	19.3
	⑤電球交換・庭の手入れなどの作業	10.2	13.6	6.1	13.6	20.0	13.0	15.2	10.7
	⑥ごみ出し・掃除や洗濯などの家事	6.8	13.6	8.5	20.3	14.0	13.0	16.5	14.3
	⑦食事づくり	2.3	4.5	2.4	11.9	6.0	5.8	3.8	7.9
	⑧短時間の子どもの預かり	5.7	6.8	4.9	11.9	12.0	11.6	10.1	9.3
	⑨外出の付き添い	11.4	9.1	8.5	22.0	12.0	13.0	12.7	11.4
	⑩災害時・緊急時の手助け	34.1	35.2	23.2	42.4	38.0	33.3	41.7	35.0

※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

(8) ②地域の方に手助けしてもらいたいこと

■「今後してもらいたい」は“⑩災害時・緊急時の手助け”が4割強と高い



地域の方に手助けしてもらいたいことについて聞いたところ、「現在してもらいたい」が1.0%以上見られた項目は、“①安否確認の声かけ” (1.9%)・“②話し相手” (2.7%)・“③困りごとなどの相談” (1.8%)・“⑤電球交換・庭の手入れなどの作業” (1.3%)・“⑧短時間の子どもの預かり” (1.0%)・“⑩災害時・緊急時の手助け” (2.2%) となっています。

また、「現在してもらっている」は“②話し相手” (10.6%) が約1割と高くなっています。

「今後してもらいたい」は“⑩災害時・緊急時の手助け” (41.7%) が4割強と高くなっており、“①安否確認の声かけ” (28.3%)・“③困りごとなどの相談” (22.6%) も2割台と高くなっています。

図表 「現在してもらっている」／地区別

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=88	n=88	n=82	n=59	n=50	n=69	n=79	n=140
地区	①安否確認の声かけ	10.2	5.7	7.3	5.1	10.0	8.7	11.4	10.7
	②話し相手	9.1	12.5	9.8	16.9	8.0	5.8	13.9	10.0
	③困りごとなどの相談	4.5	4.5	11.0	8.5	4.0	5.8	6.3	5.0
	④日用品などのちょっとした買い物	4.5	3.4	1.2	1.7	0.0	4.3	6.3	2.9
	⑤電球交換・庭の手入れなどの作業	3.4	5.7	3.7	1.7	0.0	2.9	6.3	2.1
	⑥ごみ出し・掃除や洗濯などの家事	2.3	3.4	2.4	1.7	0.0	1.4	3.8	1.4
	⑦食事づくり	4.5	2.3	2.4	5.1	0.0	1.4	3.8	2.1
	⑧短時間の子どもの預かり	1.1	2.3	1.2	1.7	0.0	0.0	2.5	0.0
	⑨外出の付き添い	1.1	1.1	2.4	3.4	0.0	1.4	2.5	2.1
	⑩災害時・緊急時の手助け	1.1	3.4	2.4	3.4	0.0	4.3	3.8	0.7

※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

図表 「現在してもらいたい」／地区別

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=88	n=88	n=82	n=59	n=50	n=69	n=79	n=140
地区	①安否確認の声かけ	2.3	4.5	1.2	1.7	4.0	1.4	0.0	0.7
	②話し相手	4.5	2.3	2.4	3.4	4.0	2.9	2.5	1.4
	③困りごとなどの相談	1.1	1.1	1.2	3.4	2.0	1.4	2.5	1.4
	④日用品などのちょっとした買い物	2.3	1.1	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.4
	⑤電球交換・庭の手入れなどの作業	2.3	1.1	1.2	1.7	2.0	0.0	1.3	1.4
	⑥ごみ出し・掃除や洗濯などの家事	0.0	1.1	0.0	1.7	0.0	0.0	1.3	1.4
	⑦食事づくり	0.0	2.3	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	1.4
	⑧短時間の子どもの預かり	0.0	2.3	1.2	1.7	2.0	0.0	0.0	1.4
	⑨外出の付き添い	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑩災害時・緊急時の手助け	1.1	4.5	2.4	0.0	0.0	0.0	5.1	2.1

※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

図表 「今後してもらいたい」／地区別

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=88	n=88	n=82	n=59	n=50	n=69	n=79	n=140
地区	①安否確認の声かけ	22.7	26.1	20.7	32.2	28.0	27.5	35.4	33.6
	②話し相手	13.6	18.2	9.8	22.0	22.0	5.8	21.5	17.9
	③困りごとなどの相談	21.6	23.9	12.2	25.4	26.0	15.9	29.1	26.4
	④日用品などのちょっとした買い物	11.4	10.2	4.9	20.3	18.0	15.9	13.9	12.9
	⑤電球交換・庭の手入れなどの作業	13.6	12.5	4.9	22.0	20.0	21.7	17.7	14.3
	⑥ごみ出し・掃除や洗濯などの家事	12.5	9.1	4.9	16.9	12.0	15.9	13.9	10.7
	⑦食事づくり	8.0	6.8	7.3	11.9	12.0	8.7	11.4	8.6
	⑧短時間の子どもの預かり	0.0	8.0	3.7	5.1	6.0	5.8	5.1	2.9
	⑨外出の付き添い	12.5	8.0	8.5	8.5	6.0	14.5	12.7	5.7
	⑩災害時・緊急時の手助け	44.4	42.1	29.3	45.8	36.0	39.2	45.5	47.9

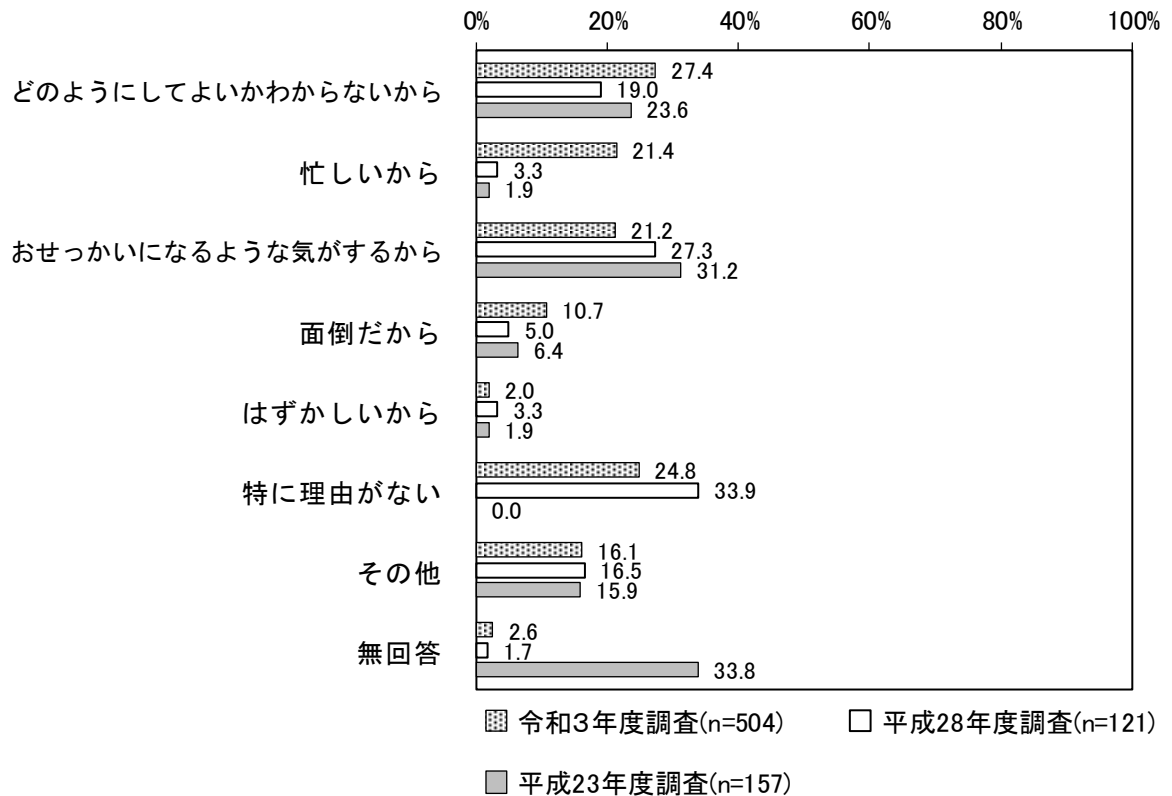
※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

(9) 手助けできない理由

■「どのようにしてよいかわからないから」「忙しいから」「おせっかいになるような気がするから」が2割以上と高い

問10 問9Aで「3 していない(できない)」を1つでも選んだ方に伺います。理由は何ですか。(○は2つまで)

図表 手助けできない理由



※平成28年以前は、「あなたは、まちで困っている人をみかけたとき、手助けをしていますか。」という設問で、「特になにもしない」と回答した方に、本設問をお聞きしています。

手助けできない理由について聞いたところ、「どのようにしてよいかわからないから」(27.4%)、「忙しいから」(21.4%)、「おせっかいになるような気がするから」(21.2%)が2割以上と高くなっています。一方で、「特に理由がない」(24.8%)も2割台半ばと高くなっています。

時系列で見ると、平成28年以前とは前提となる設問が異なる点に留意する必要がありますが、「忙しいから」を理由に地域の方の手助け等できない方が多くいると分かります。

性別では、大きな違いが見られません。

年齢で見ると、「忙しいから」は30歳代から40歳代で高くなっており、70歳代以上で低くなっています。また、20歳代以下で「面倒だから」が高くなっています。

図表 手助けできない理由／性別・年齢

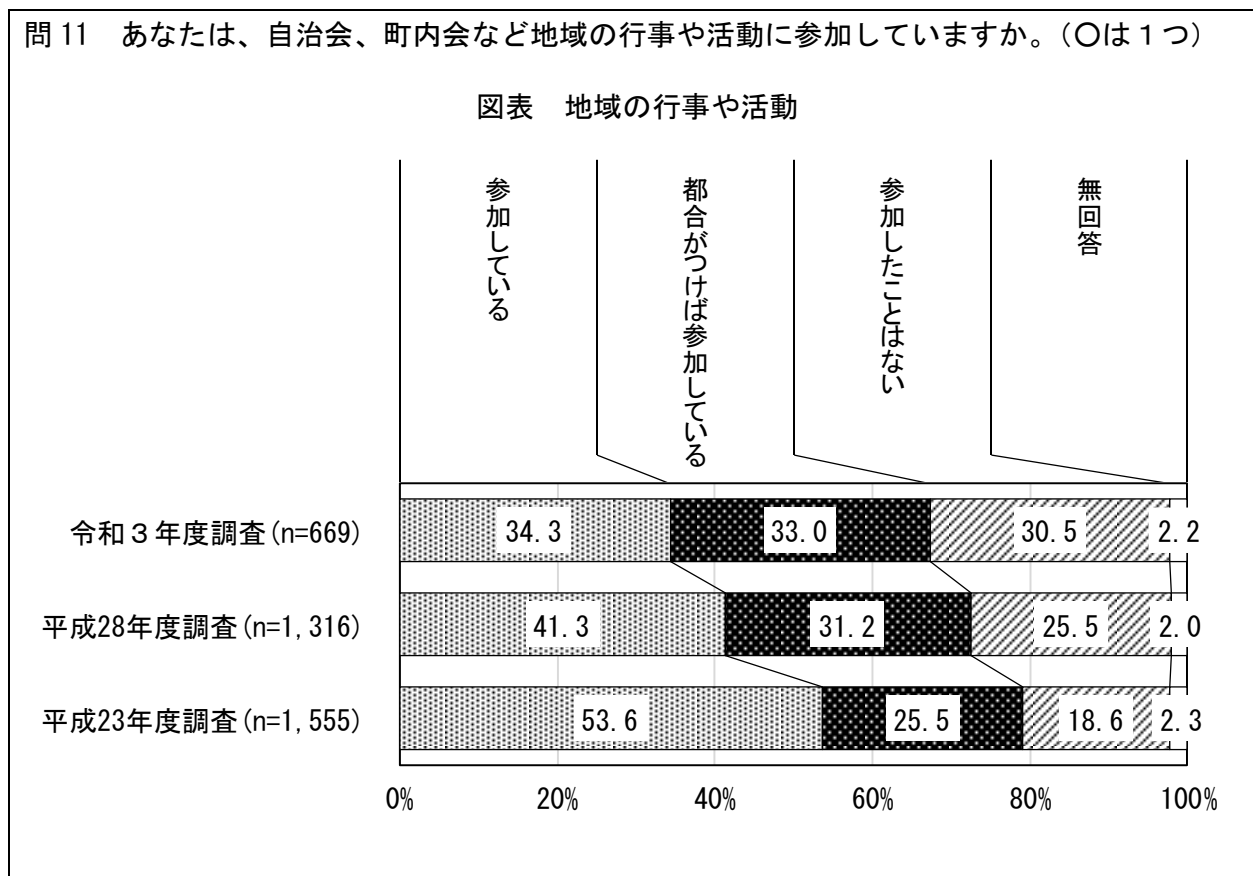
		n (回答者数)	どのよう にしてよ いかわ からない から	特に理 由がな い	忙し いから	おせ つか いにな るよう な気が するから	面倒 だから	はず かしい から	その他	無回 答
全体		504	27.4	24.8	21.4	21.2	10.7	2.0	16.1	2.6
性別	男性	212	27.4	27.4	22.6	20.8	17.5	0.9	10.4	0.9
	女性	262	27.1	23.7	22.1	20.6	5.7	3.1	21.0	2.7
年齢	20歳代以下	46	32.6	17.4	26.1	15.2	26.1	8.7	6.5	0.0
	30歳代	53	32.1	17.0	35.8	24.5	7.5	3.8	15.1	0.0
	40歳代	83	24.1	22.9	44.6	19.3	15.7	0.0	12.0	0.0
	50歳代	82	23.2	26.8	26.8	20.7	9.8	1.2	15.9	2.4
	60歳代	111	28.8	30.6	11.7	24.3	6.3	1.8	15.3	3.6
	70歳代	85	31.8	23.5	4.7	22.4	9.4	1.2	16.5	5.9
	80歳以上	43	18.6	30.2	2.3	16.3	2.3	0.0	37.2	4.7

2. 地域活動への取り組みや助け合いについて

(1) 地域の行事や活動

■ 「参加している」「都合がつけば参加している」「参加したことはない」がいずれも3割台

問11 あなたは、自治会、町内会など地域の行事や活動に参加していますか。(○は1つ)



地域の行事や活動について聞いたところ、「参加している」(34.3%)が3割台半ば、「都合がつけば参加している」(33.0%)が3割強となっています。一方、「参加したことはない」(30.5%)が約3割となっています。

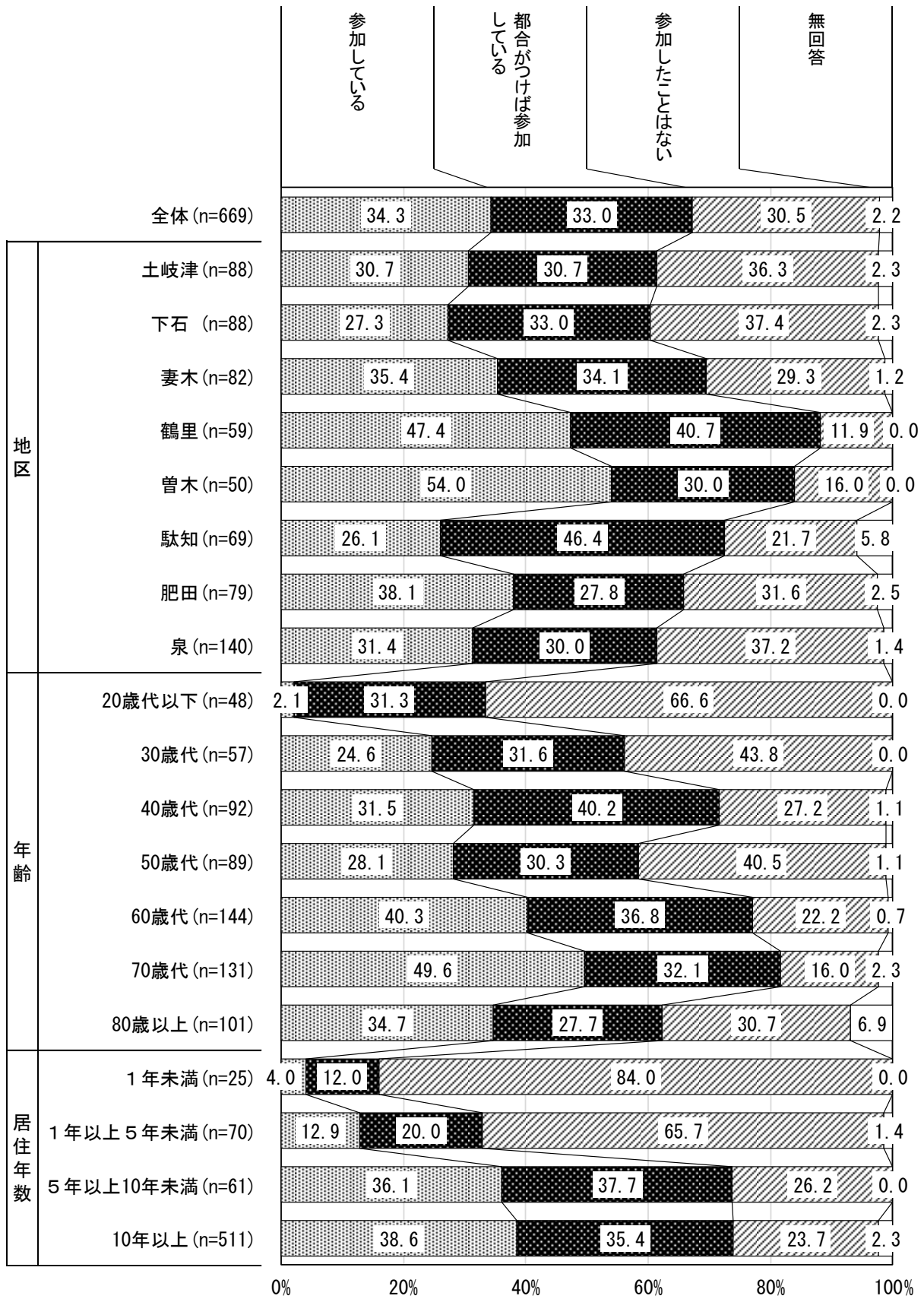
時系列で見ると、「参加している」は低下傾向に、「都合がつけば参加している」・「参加したことはない」は上昇傾向にあります。「参加している」は平成23年(53.6%)から令和3年(34.3%)にかけて19.3ポイント低下しています。

地区で見ると、「参加している」は曾木が最も高く5割台半ば(54.0%)、次いで、鶴里も5割近く(47.4%)と高くなっています。

年齢で見ると、「参加したことはない」は20歳代以下が最も高く7割近く(66.6%)、30歳代(43.8%)・50歳代(40.5%)も4割を超えて高くなっています。

居住年数で見ると、「参加したことはない」は1年未満が最も高く8割台半ば(84.0%)、1年以上5年未満が6割台半ば(65.7%)と半数を超えています。

図表 地域の行事や活動／地区・年齢・居住年数

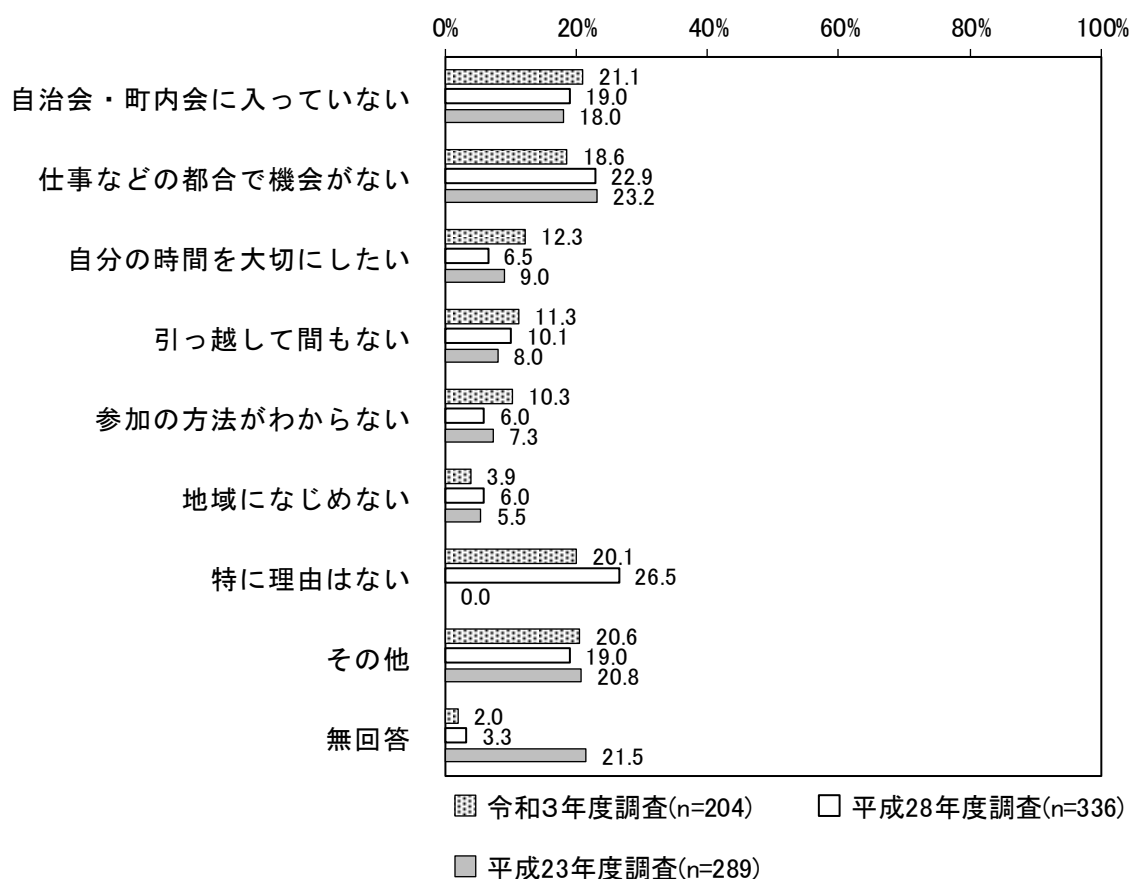


(2) ①地域の行事や活動に参加しない理由

■「自治会・町内会に入っていない」が2割強と高い

問12-① 問11で「3 参加したことはない」を選んだ方に伺います。理由は何ですか。(〇は2つまで)

図表 地域の行事や活動に参加しない理由



地域の行事や活動に参加しない理由について聞いたところ、「自治会・町内会に入っていない」(21.1%)が2割強と最も高く、次いで、「仕事などの都合で機会がない」(18.6%)も2割近くと高くなっています。一方で、「特に理由はない」(20.1%)が約2割と高くなっています。

時系列で見ると、「特に理由はない」は平成28年(26.5%)から令和3年(20.1%)にかけて6.4ポイント低下しています。一方で、「自治会・町内会に入っていない」・「自分の時間を大切にしたい」・「引っ越して間もない」・「参加の方法がわからない」は上昇しています。

年齢で見ると、年代ごとに参加しない理由に違いが見られます。

20歳代以下では「自分の時間を大切にしたい」が、30歳代では「引っ越して間もない」が、40歳代では「参加の方法がわからない」が、50歳代では「自治会・町内会に入っていない」などがそれぞれ高くなっています。

図表 地域の行事や活動に参加しない理由／年齢

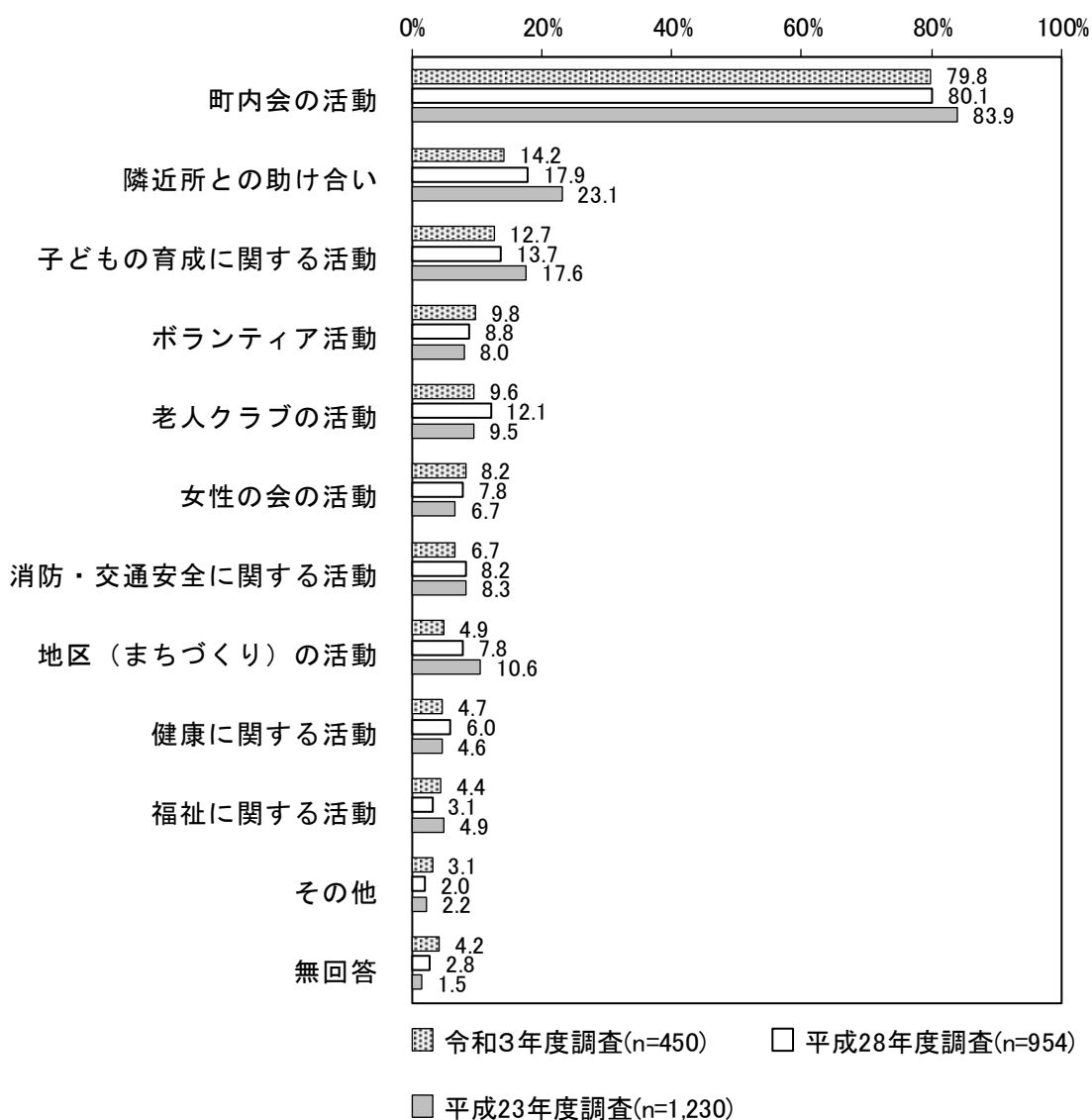
	n (回答者数)	自治会・町内会に入っていない	仕事などの都合で機会がない	自分の時間を大切にしたい	引っ越して間もない	参加の方法がわからない	地域になじめない	特に理由はない	その他	無回答	
全体	204	21.1	18.6	12.3	11.3	10.3	3.9	20.1	20.6	2.0	
年齢	20歳代以下	32	15.6	21.9	28.1	15.6	9.4	3.1	31.3	9.4	0.0
	30歳代	25	20.0	28.0	16.0	24.0	12.0	0.0	12.0	16.0	0.0
	40歳代	25	20.0	28.0	12.0	4.0	24.0	12.0	8.0	12.0	0.0
	50歳代	36	33.3	22.2	13.9	8.3	8.3	0.0	8.3	33.3	0.0
	60歳代	32	28.1	12.5	6.3	15.6	9.4	6.3	21.9	12.5	3.1
	70歳代	21	23.8	19.0	0.0	9.5	4.8	9.5	33.3	4.8	4.8
	80歳以上	31	6.5	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0	29.0	48.4	6.5

(2) ②参加している活動

■「町内会の活動」が8割弱と特に高い

問12-② 問11で「1 参加している」「2 都合がつけば参加している」を選んだ方に伺います。あなたは地域でどのような活動をされていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 参加している活動



参加している活動について聞いたところ、「町内会の活動」(79.8%)が8割弱と特に高く、「隣近所との助け合い」(14.2%)・「子どもの育成に関する活動」(12.7%)も1割台と高くなっています。

時系列で見ると、「町内会の活動」・「隣近所との助け合い」・「子どもの育成に関する活動」・「消防・交通安全に関する活動」・「地区(まちづくり)の活動」で低下傾向が見られます。

年齢で見ると、「隣近所との助け合い」は70歳代が高くなっています。また、「子どもの育成に関する活動」は30歳代から40歳代で高くなっています。

80歳以上は「老人クラブの活動」が高くなっている一方、「町内会の活動」は低くなっています。

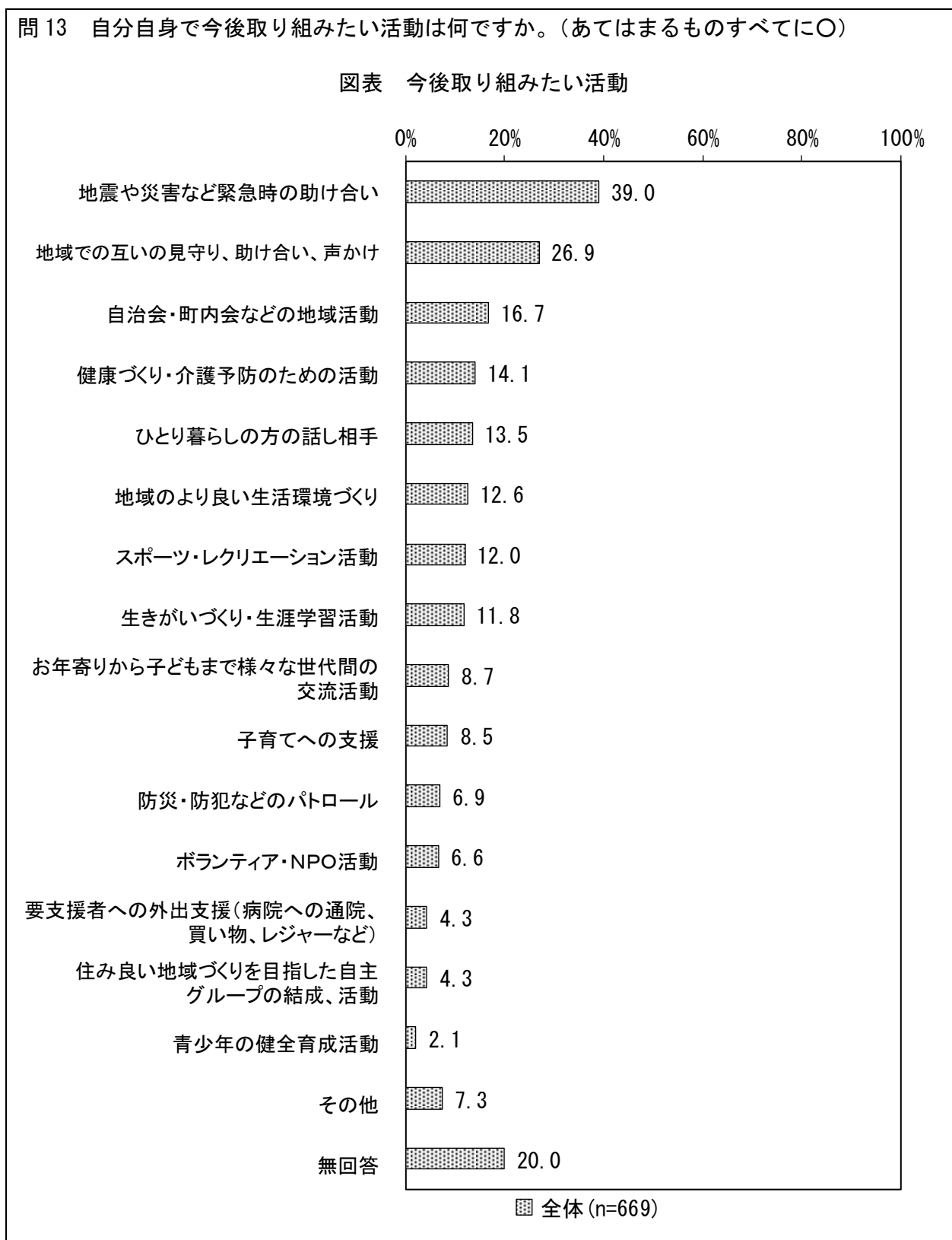
図表 参加している活動（上位10項目）／年齢

	n (回答者数)	町内会の活動	隣近所との助け合い	子どもの育成に関する活動	ボランティア活動	老人クラブの活動	女性の会の活動	消防・交通安全に関する活動	地区（まちづくり）の活動	健康に関する活動	福祉に関する活動
全体	450	79.8	14.2	12.7	9.8	9.6	8.2	6.7	4.9	4.7	4.4
年齢	20歳代以下	16	87.5	0.0	0.0	18.8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	30歳代	32	81.3	15.6	43.8	6.3	0.0	9.4	6.3	0.0	0.0
	40歳代	66	86.4	9.1	37.9	4.5	0.0	9.1	9.1	6.1	0.0
	50歳代	52	86.5	9.6	5.8	5.8	0.0	13.5	11.5	1.9	0.0
	60歳代	111	83.8	9.9	5.4	9.9	2.7	13.5	9.9	5.4	5.4
	70歳代	107	79.4	25.2	4.7	11.2	17.8	2.8	2.8	6.5	8.4
	80歳以上	63	57.1	15.9	6.3	12.7	31.7	4.8	3.2	3.2	7.9

(3) 今後取り組みたい活動

■「地震や災害など緊急時の助け合い」が4割弱と最も高い

問13 自分自身で今後取り組みたい活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



今後取り組みたい活動について聞いたところ、「地震や災害など緊急時の助け合い」(39.0%)が4割弱と最も高く、次いで、「地域での互いの見守り、助け合い、声かけ」(26.9%)が3割近くと高くなっています。

地区では大きな違いが見られません。

年齢で見ると、年代ごとに回答に違いが見られます。20歳代以下は「自治会・町内会などの地域活動」が低くなっている一方、「スポーツ・レクリエーション活動」が高くなっています。30歳代は「地震や災害など緊急時の助け合い」・「子育てへの支援」が高くなっています。

図表 今後取り組みたい活動（上位10項目）／地区・年齢

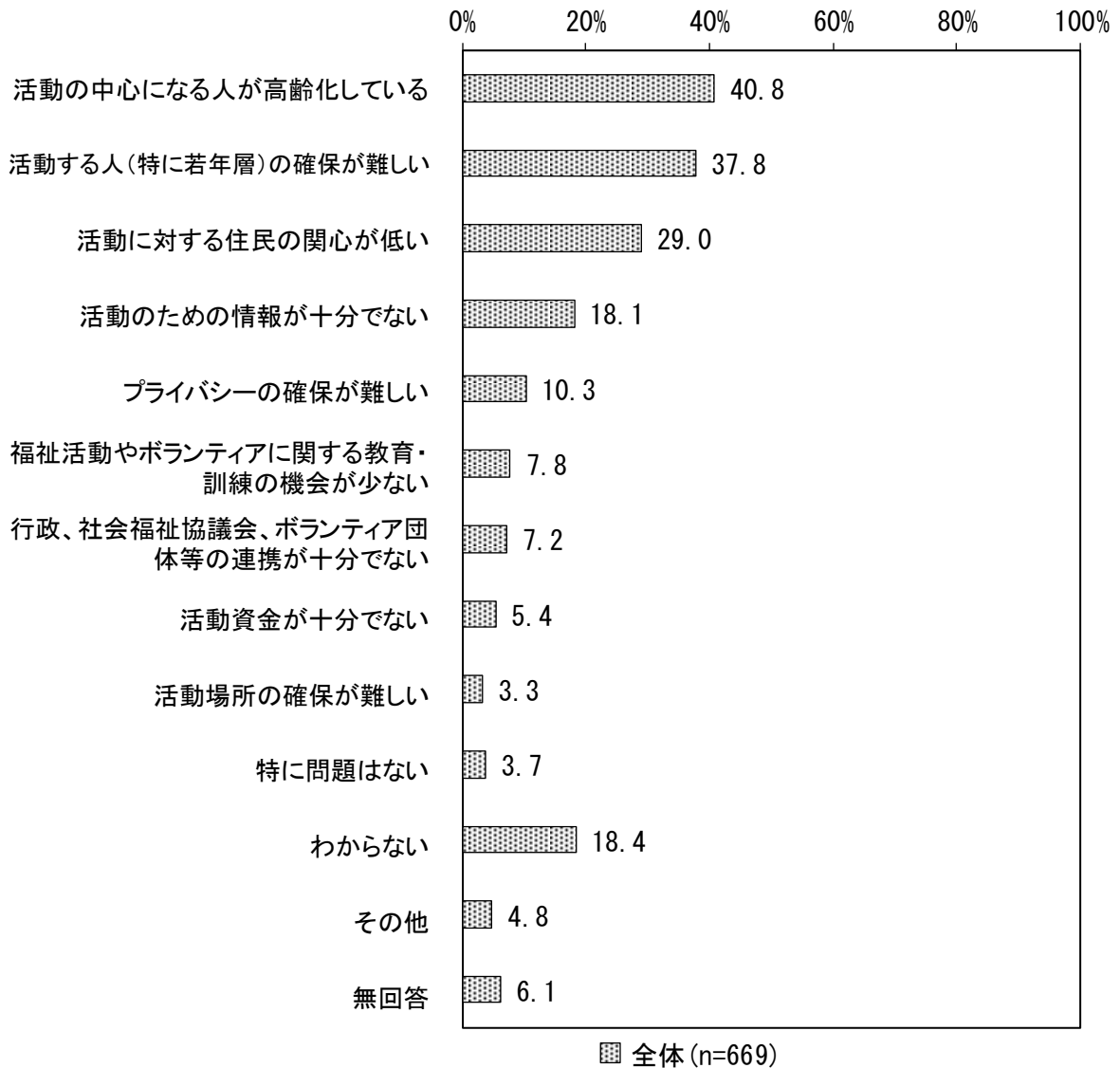
	n (回答者数)	地震や災害など緊急時の助け合い	地域での互いの見守り、助け合い、声かけ	自治会・町内会などの地域活動	健康づくり・介護予防のための活動	ひとり暮らしの方の話し相手	地域のより良い生活環境づくり	スポーツ・レクリエーション活動	生きがいづくり・生涯学習活動	お年寄りから子どもまで様々な世代間の交流活動	子育てへの支援	
全体	669	39.0	26.9	16.7	14.1	13.5	12.6	12.0	11.8	8.7	8.5	
地区	土岐津	88	34.1	27.3	20.5	14.8	20.5	6.8	11.4	12.5	5.7	4.5
	下石	88	34.1	20.5	11.4	14.8	9.1	11.4	13.6	11.4	6.8	11.4
	妻木	82	43.9	29.3	18.3	7.3	13.4	15.9	9.8	13.4	8.5	7.3
	鶴里	59	39.0	30.5	13.6	13.6	15.3	13.6	11.9	10.2	10.2	8.5
	曾木	50	36.0	26.0	16.0	18.0	6.0	18.0	10.0	12.0	6.0	6.0
	駄知	69	34.8	18.8	17.4	20.3	10.1	14.5	10.1	14.5	10.1	7.2
	肥田	79	41.8	32.9	21.5	10.1	15.2	11.4	16.5	15.2	10.1	8.9
	泉	140	45.7	28.6	15.7	16.4	14.3	12.1	11.4	7.9	10.7	11.4
年齢	20歳代以下	48	45.8	33.3	2.1	4.2	14.6	18.8	31.3	8.3	14.6	14.6
	30歳代	57	50.9	19.3	7.0	5.3	5.3	19.3	7.0	5.3	14.0	40.4
	40歳代	92	42.4	16.3	13.0	8.7	8.7	9.8	13.0	9.8	5.4	13.0
	50歳代	89	38.2	24.7	14.6	12.4	7.9	13.5	10.1	12.4	7.9	3.4
	60歳代	144	44.4	35.4	22.2	18.8	15.3	13.2	13.9	16.0	9.0	6.3
	70歳代	131	37.4	31.3	28.2	23.7	18.3	11.5	10.7	14.5	9.9	0.0
	80歳以上	101	22.8	21.8	11.9	10.9	17.8	8.9	5.0	9.9	5.0	3.0

(4) 地域活動の問題点

■「活動の中心になる人が高齢化している」が約4割と最も高い

問14 あなたは、地域の活動における問題点は何だと思えますか。(〇は3つまで)

図表 地域活動の問題点



地域活動の問題点について聞いたところ、「活動の中心になる人が高齢化している」(40.8%)が約4割と最も高く、次いで、「活動する人(特に若年層)の確保が難しい」(37.8%)が4割近く、「活動に対する住民の関心が低い」(29.0%)が3割弱と高くなっています。

「特に問題はない」(3.7%)もわずかに見られます。

地区で見ると、曾木・駄知で「活動の中心になる人が高齢化している」・「活動する人（特に若年層）の確保が難しい」のいずれも高くなっています。

図表 地域活動の問題点（上位10項目）／地区

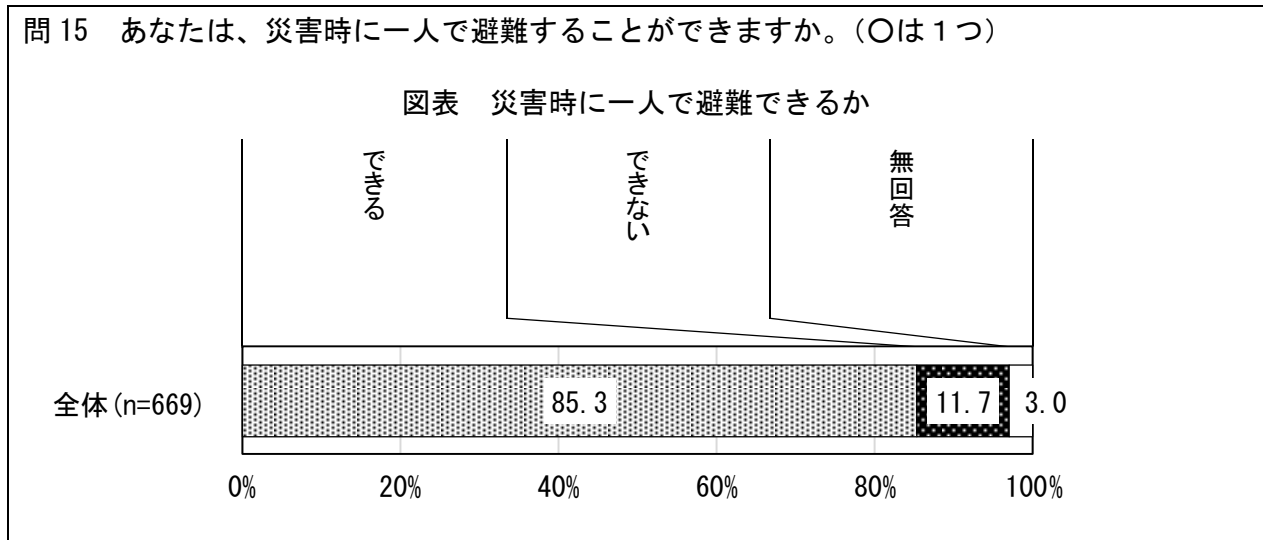
	n （回答者数）	活動の中心になる人が高齢化している	活動する人（特に若年層）の確保が難しい	活動に対する住民の関心が低い	活動のための情報が十分でない	プライバシーの確保が難しい	福祉活動やボランティアに関する教育・訓練の機会が少ない	行政、社会福祉協議会、ボランティア団体等の連携が十分でない	活動資金が十分でない	活動場所の確保が難しい	特に問題はない	
全体	669	40.8	37.8	29.0	18.1	10.3	7.8	7.2	5.4	3.3	3.7	
地区	土岐津	88	40.9	36.4	27.3	13.6	12.5	14.8	5.7	2.3	3.4	2.3
	下石	88	36.4	31.8	30.7	12.5	11.4	8.0	5.7	5.7	4.5	4.5
	妻木	82	36.6	35.4	28.0	20.7	9.8	2.4	6.1	3.7	2.4	4.9
	鶴里	59	49.2	44.1	22.0	13.6	3.4	8.5	10.2	11.9	0.0	1.7
	曾木	50	54.0	56.0	22.0	12.0	4.0	10.0	4.0	4.0	0.0	4.0
	駄知	69	52.2	47.8	30.4	17.4	5.8	4.3	7.2	7.2	1.4	1.4
	肥田	79	39.2	40.5	30.4	25.3	13.9	8.9	10.1	5.1	6.3	3.8
	泉	140	35.0	29.3	32.9	22.9	15.0	5.7	7.1	5.7	5.0	5.0

3. 安全な暮らしを守るための取組について

(1) 災害時に一人で避難できるか

■ 「できない」が1割強

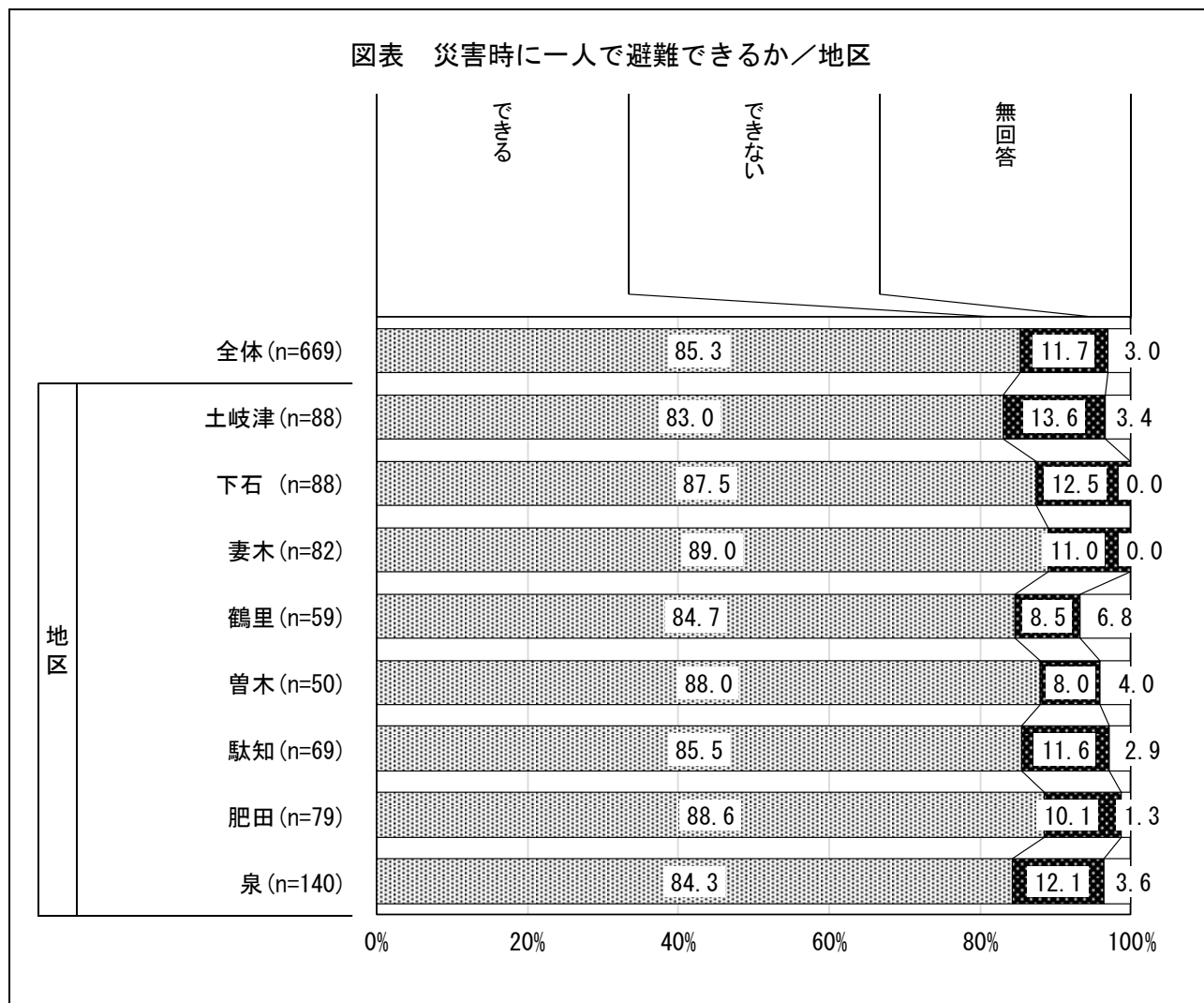
問 15 あなたは、災害時に一人で避難することができますか。(○は1つ)



災害時に一人で避難できるかについて聞いたところ、「できる」(85.3%)が8割台半ばを占めている一方で、「できない」も1割強見られます。

地区で見ると、全ての地区で「できる」は8割台となっています。「できない」はおおむね1割程度となっており、土岐津が最も高く1割強（13.6%）となっています。

図表 災害時に一人で避難できるか／地区

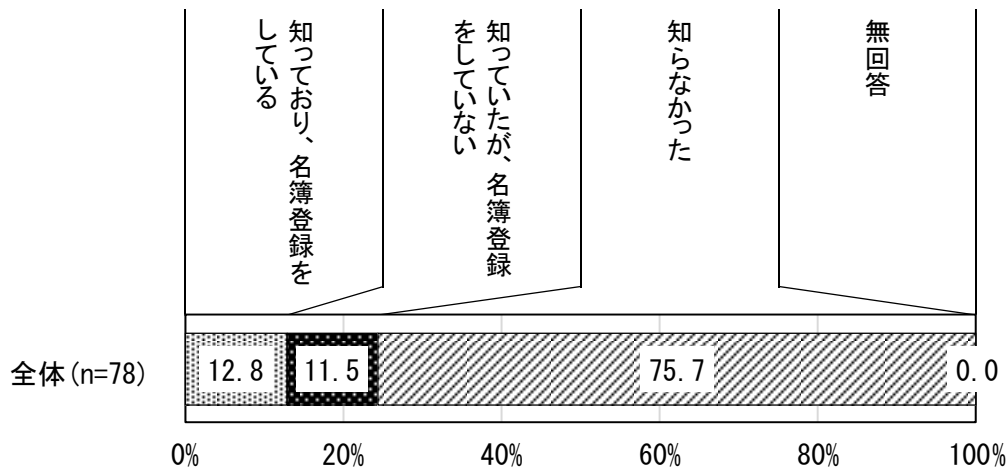


(2) 「避難行動要支援者制度」の認知度

■ 「知らなかった」が7割台半ばを占める

問16 問15で「2 できない」を選んだ方に伺います。高齢者や障がい者の方など、災害発生時に特に支援を必要とする方（避難行動要支援者）に対して、自治会および町内会組織・自主防災組織・消防団・民生児童委員等の近隣住民や警察等が連携して支援をしていく「避難行動要支援者制度」について、あてはまる状況をお答えください。（○は1つ）

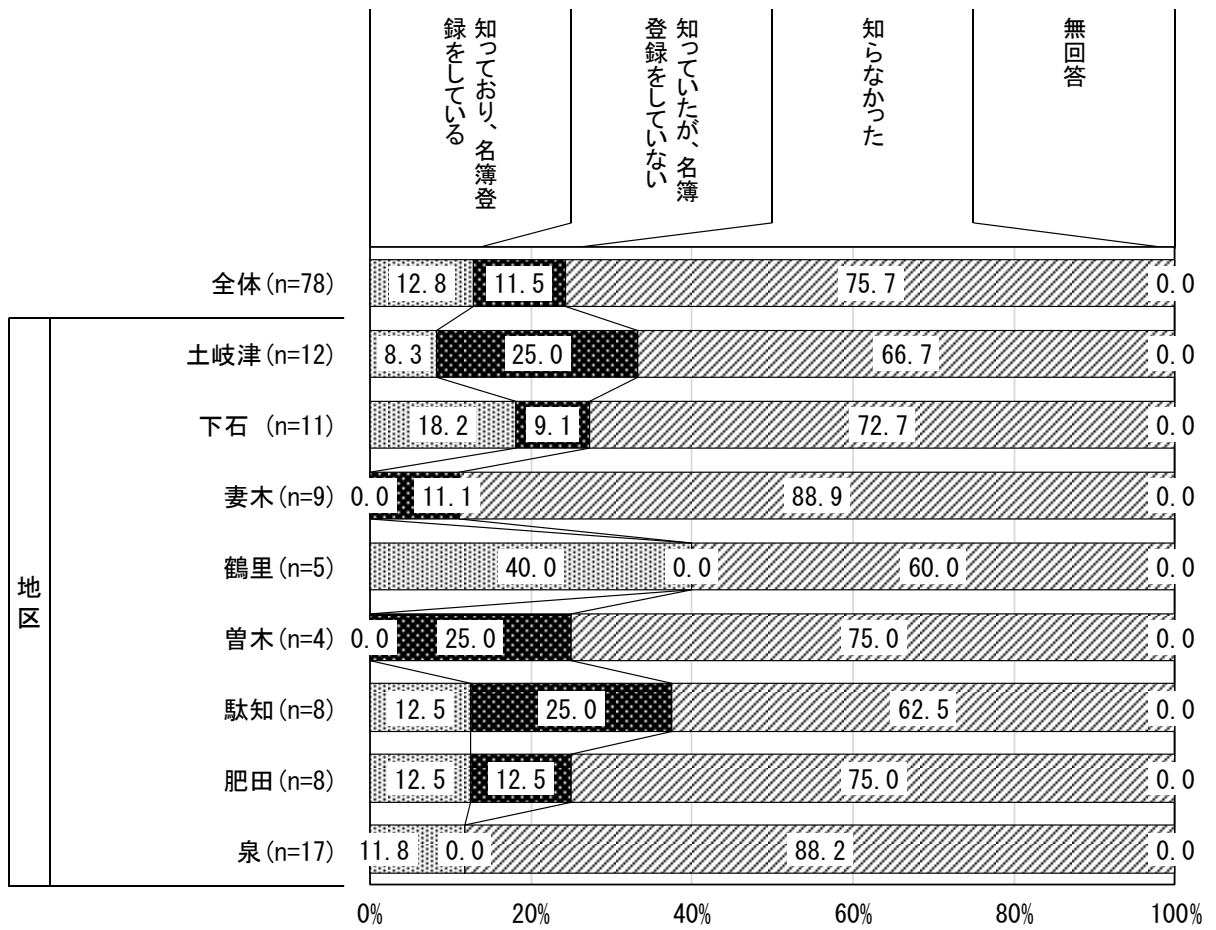
図表 「避難行動要支援者制度」の認知度



「避難行動要支援者制度」の認知度について聞いたところ、「知っており、名簿登録をしている」(12.8%)が1割強となっている一方、「知っていたが、名簿登録をしていない」(11.5%)も1割強となっています。また、「知らなかった」(75.7%)が7割台半ばと最も高くなっています。

地区で見ると、「知っていたが、名簿登録をしていない」は土岐津（25.0%）・曾木（25.0%）・駄知（25.0%）がいずれも2割台と高くなっています。

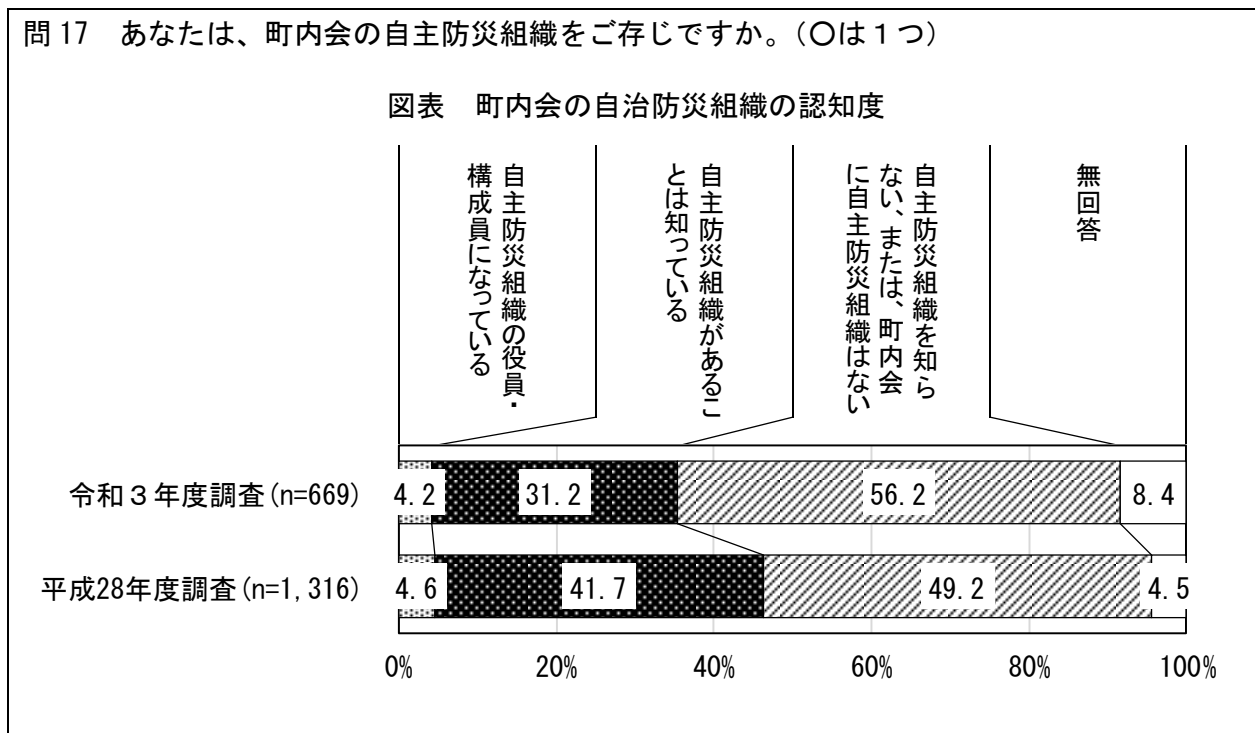
図表 「避難行動要支援者制度」の認知度／地区



(3) 町内会の自治防災組織の認知度

■「自主防災組織を知らない、または、町内会に自主防災組織はない」が6割近くと高い

問17 あなたは、町内会の自主防災組織をご存じですか。(○は1つ)



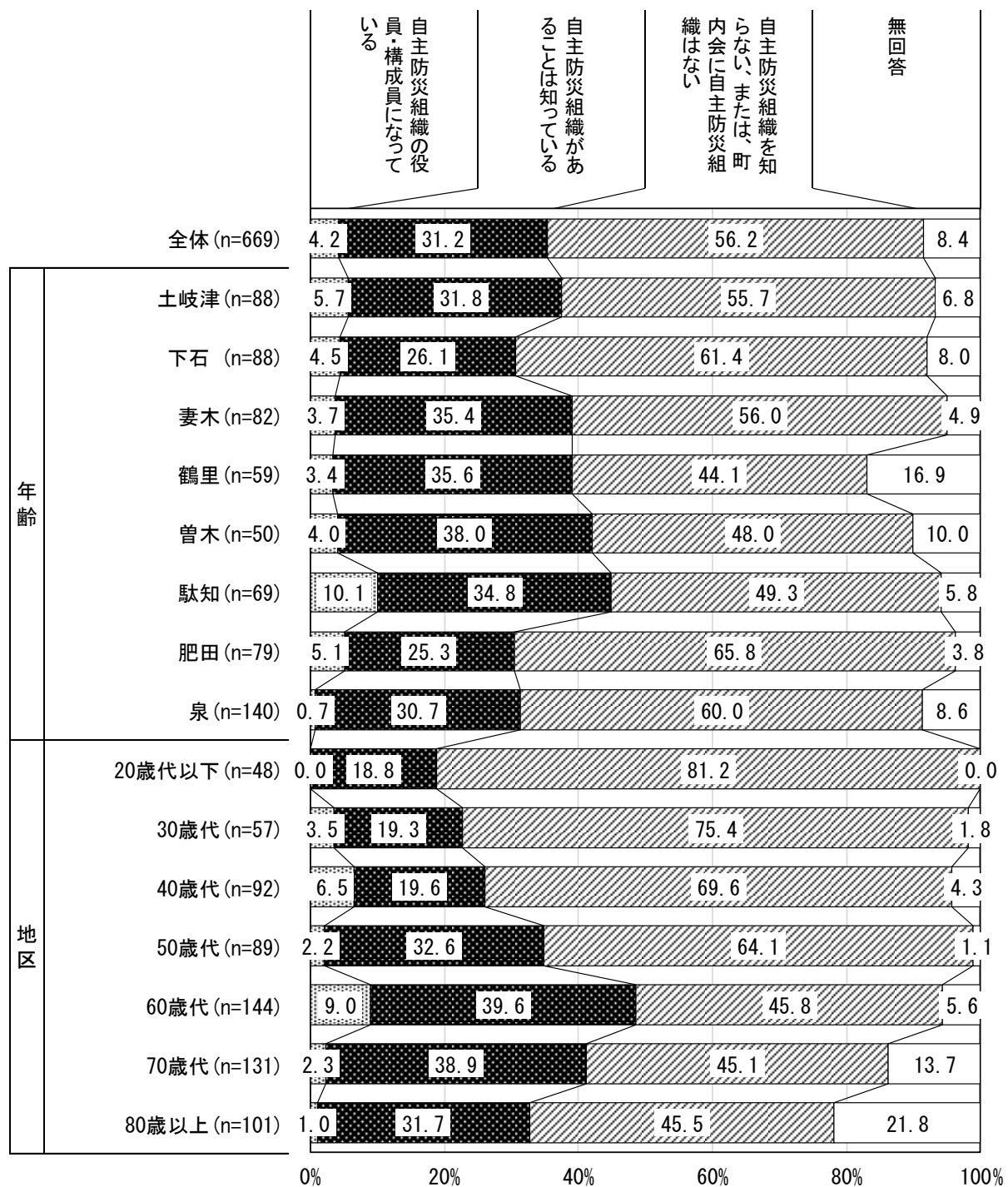
町内会の自治防災組織の認知度について聞いたところ、「自主防災組織の役員・構成員になっている」(4.2%)が1割未満、「自主防災組織があることは知っている」(31.2%)が3割強となっています。一方で、「自主防災組織を知らない、または、町内会に自主防災組織はない」(56.2%)が6割近くと最も高くなっています。

時系列で見ると、「自主防災組織の役員・構成員になっている」はほとんど変化が見られません。一方で、「自主防災組織があることは知っている」は平成28年(41.7%)から令和3年(31.2%)にかけて10.5ポイント低下しています。

地区で見ると、「自主防災組織を知らない、または、町内会に自主防災組織はない」は下石 (61.4%)・肥田 (65.8%)・泉 (60.0%) が6割台と高くなっています。

年齢で見ると、「自主防災組織を知らない、または、町内会に自主防災組織はない」は20歳代以下 (81.2%) から60歳代 (45.8%) にかけて低下し、それ以降の年代ではおおむね一定で推移しています。

図表 町内会の自治防災組織の認知度／地区・年齢

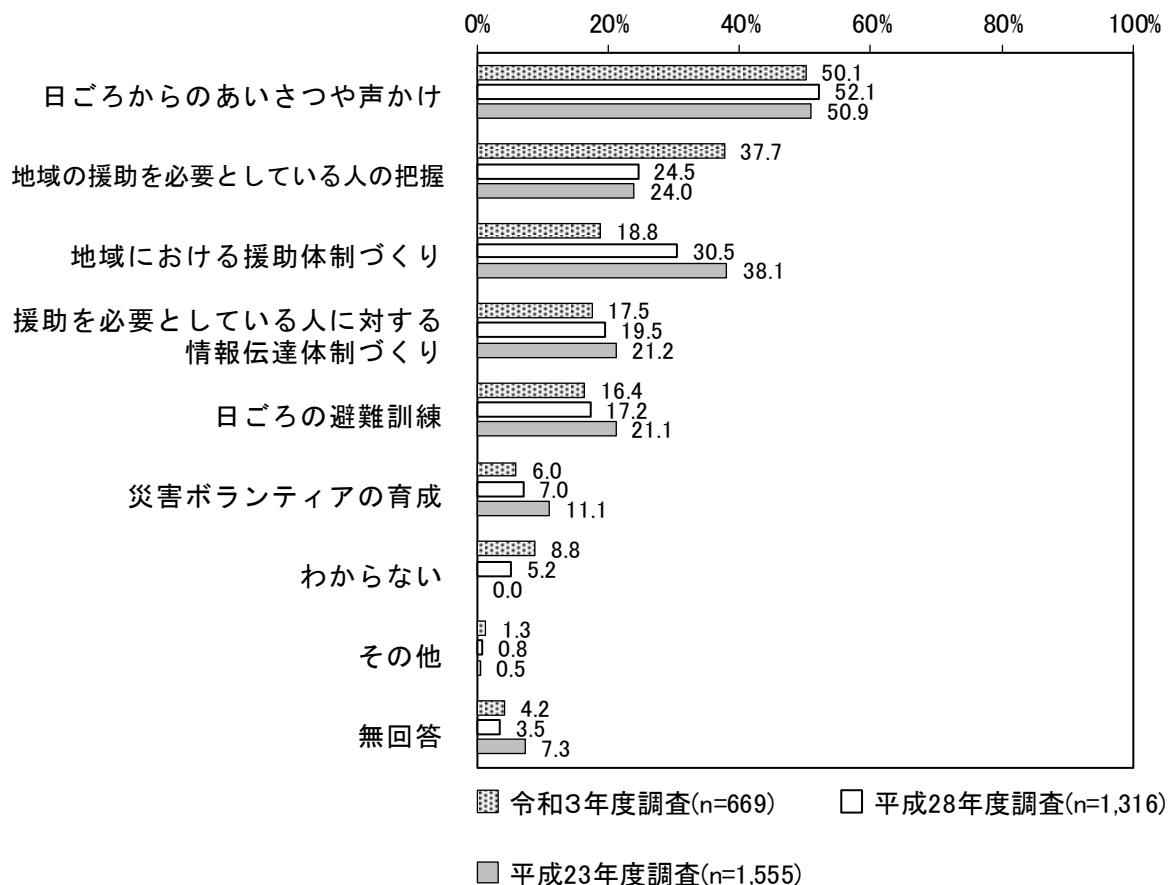


(4) 災害時における助け合いが必要なこと

■「日ごろからのあいさつや声かけ」が約5割と高い

問 18 災害時における助け合いを行う上でどのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

図表 災害時における助け合いが必要なこと



災害時における助け合いが必要なことについて聞いたところ、「日ごろからのあいさつや声かけ」(50.1%)が約5割と最も高く、次いで、「地域の援助を必要としている人の把握」(37.7%)が4割近くと高くなっています。

時系列で見ると、「地域の援助を必要としている人の把握」は上昇傾向に、「地域における援助体制づくり」・「援助を必要としている人に対する情報伝達体制づくり」・「災害ボランティアの育成」は低下傾向にあります。「地域における援助体制づくり」は平成23年(38.1%)から令和3年(18.8%)にかけて19.3ポイント低下しています。

地区で大きな違いは見られません。

図表 災害時における助け合いに必要なこと／地区

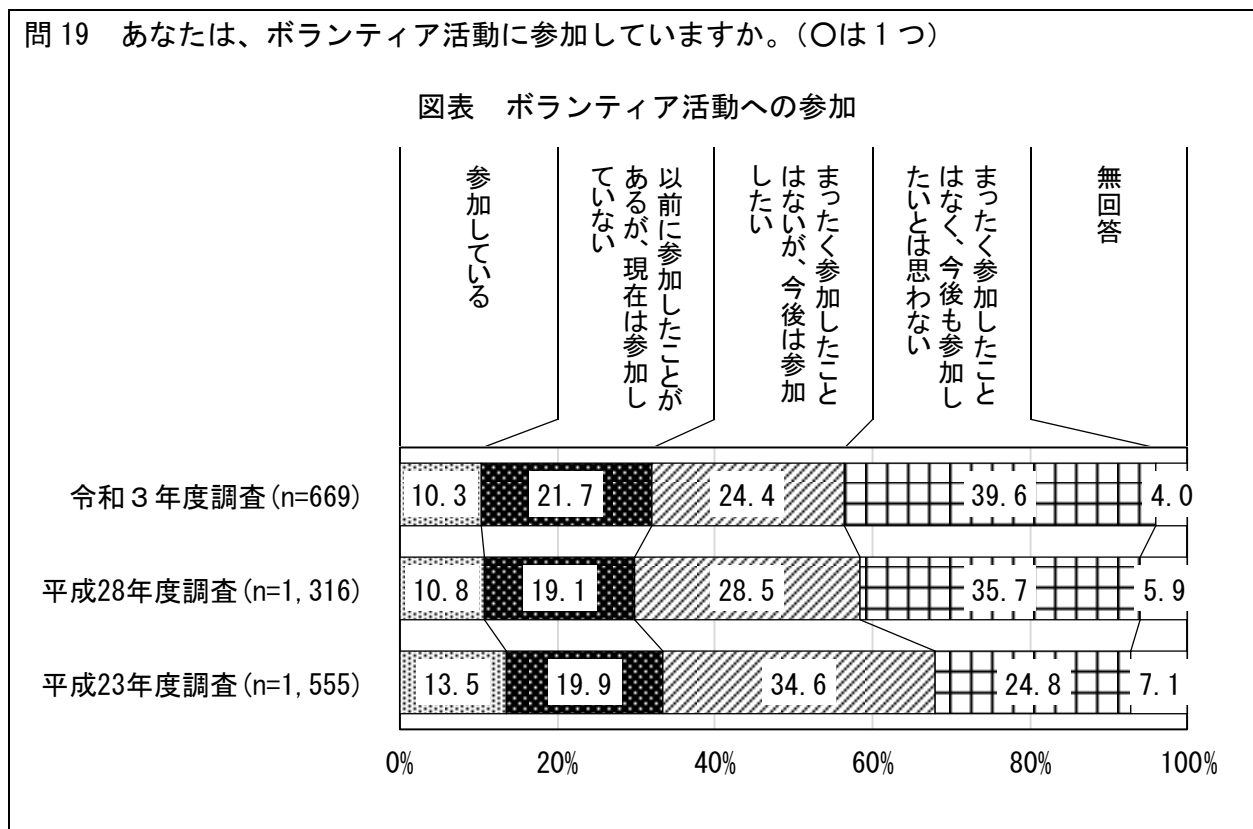
	n (回答者数)	日 ご ろ か ら の あ い さ つ や 声 か け	地 域 の 援 助 を 必 要 と し て い る 人 の 把 握	地 域 に お け る 援 助 体 制 づ く り	援 助 を 必 要 と し て い る 人 に 対 す る 情 報 伝 達 体 制 づ く り	日 ご ろ の 避 難 訓 練	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア の 育 成	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答	
全体	669	50.1	37.7	18.8	17.5	16.4	6.0	8.8	1.3	4.2	
地区	土岐津	88	55.7	28.4	19.3	12.5	23.9	2.3	11.4	2.3	4.5
	下石	88	47.7	37.5	19.3	19.3	17.0	8.0	8.0	2.3	3.4
	妻木	82	58.5	40.2	19.5	14.6	15.9	6.1	3.7	2.4	2.4
	鶴里	59	59.3	37.3	10.2	15.3	16.9	6.8	8.5	1.7	6.8
	曾木	50	46.0	40.0	20.0	16.0	18.0	4.0	6.0	2.0	4.0
	駄知	69	49.3	39.1	11.6	21.7	14.5	8.7	10.1	0.0	2.9
	肥田	79	44.3	41.8	25.3	26.6	11.4	3.8	8.9	0.0	1.3
	泉	140	45.7	40.7	20.7	17.1	14.3	7.1	10.0	0.7	5.0

4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への参加

■「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が4割弱

問19 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。(○は1つ)

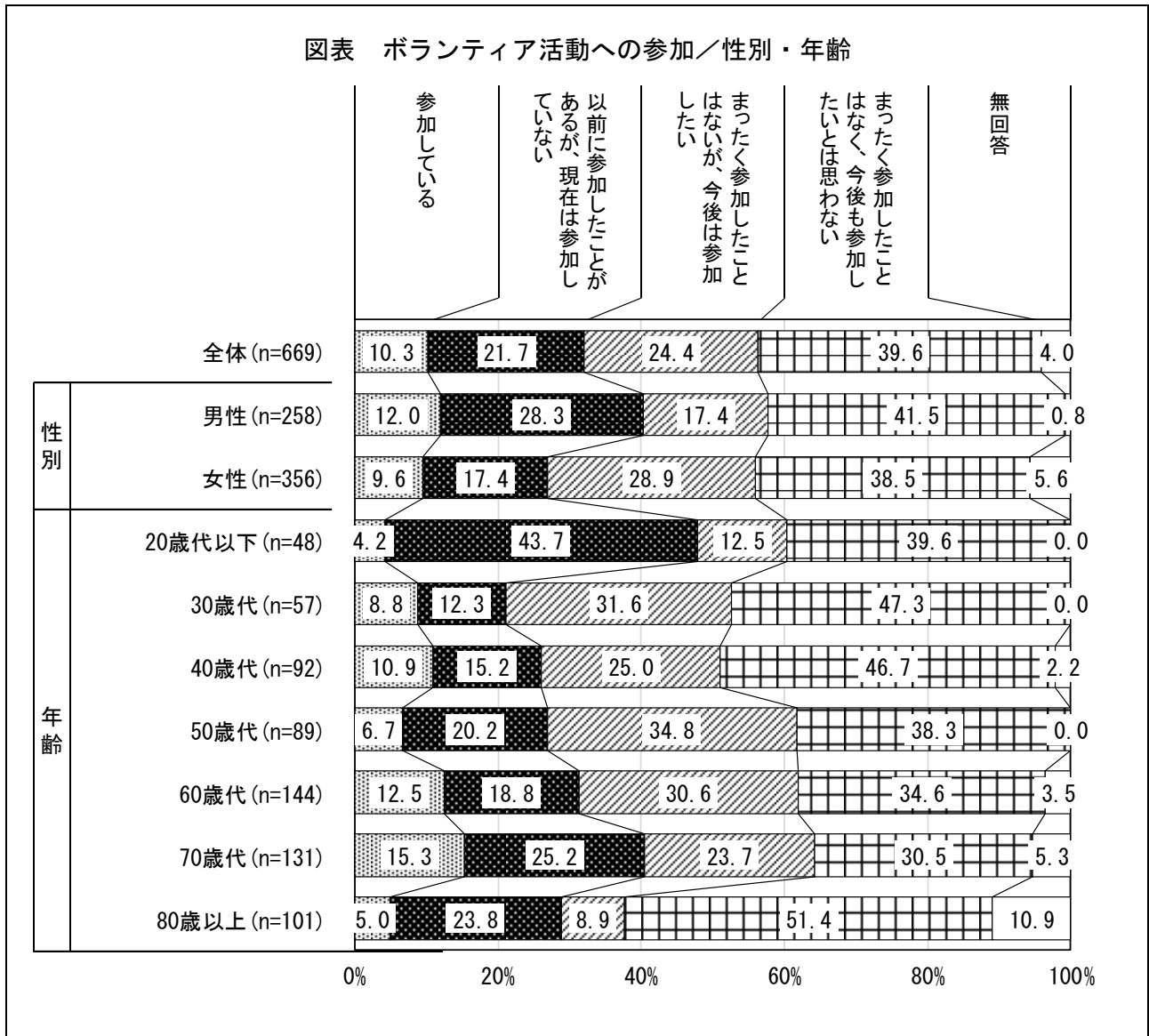


ボランティア活動への参加について聞いたところ、「参加している」(10.3%)が約1割、「以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」(21.7%)が2割強、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」(24.4%)が2割台半ばとなっています。一方、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(39.6%)が4割弱と最も高くなっています。

時系列で見ると、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」が特に低下しており、平成23年(34.6%)から令和3年(24.4%)にかけて10.2ポイント低下しています。一方、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が特に上昇しており、平成23年(24.8%)から令和3年(39.6%)にかけて14.8ポイント上昇しています。

性別で見ると、男性は「以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」が3割近く（28.3%）、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」が2割近く（17.4%）となっています。女性はこの反対で、「以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」が2割近く（17.4%）、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」が3割近く（28.9%）となっています。

年齢で見ると、「以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」は20歳代以下が最も高く4割強（43.7%）となっています。また、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」は30歳代から70歳代においていずれも2割以上と高くなっています。

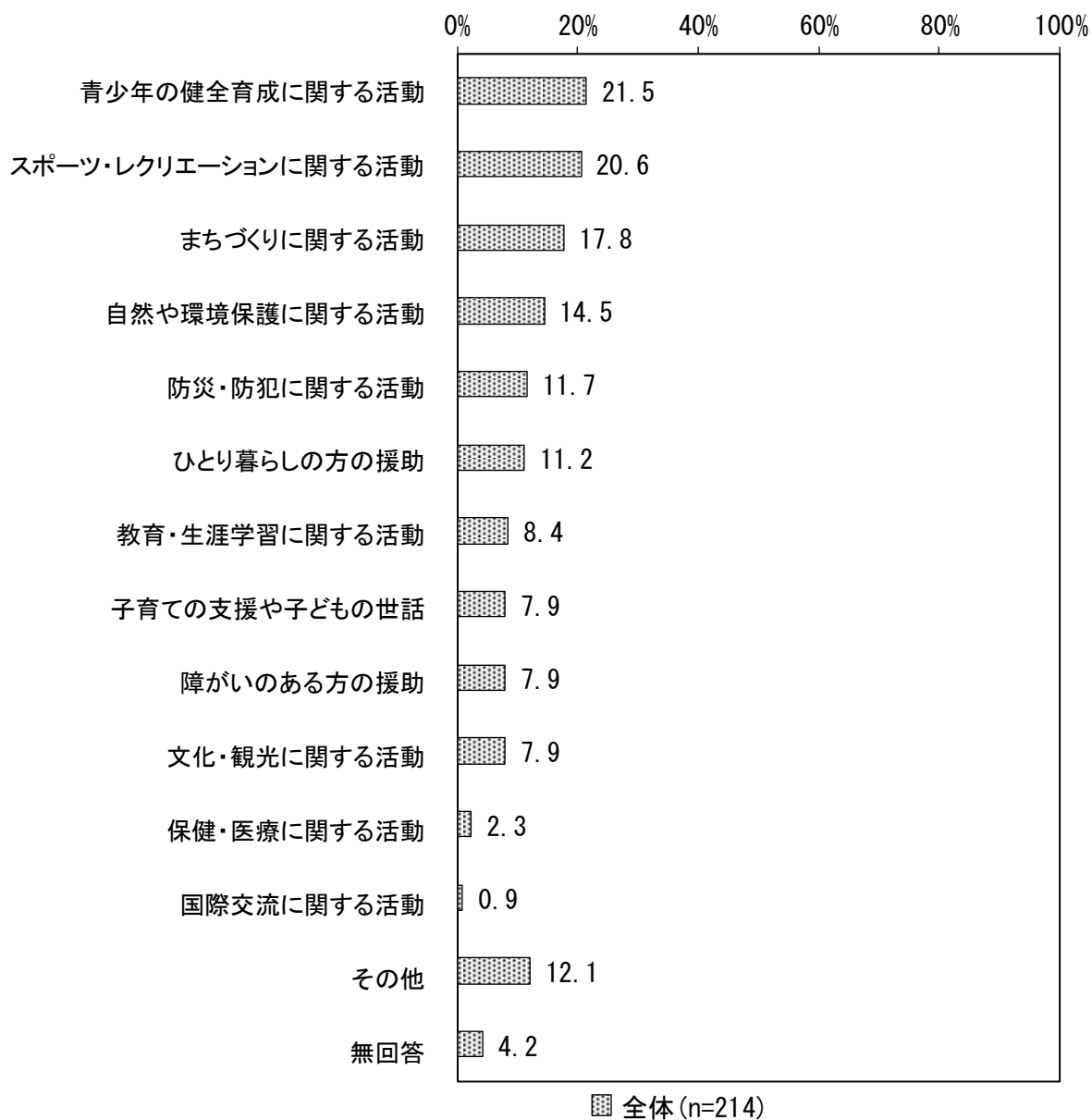


(2) ①ボランティア活動の内容

■「青少年の健全育成に関する活動」が2割強と最も高い

問20-① 問19で「1 参加している」「2 以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」を選んだ方に伺います。それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 ボランティア活動の内容



ボランティア活動の内容について聞いたところ、「青少年の健全育成に関する活動」(21.5%)が2割強と最も高く、次いで、「スポーツ・レクリエーションに関する活動」(20.6%)も2割台と高くなっています。

性別で大きな違いは見られません。

年齢で見ると、80歳以上は「スポーツ・レクリエーションに関する活動」(31.0%)・「ひとり暮らしの方の援助」(24.1%)がそれぞれ高くなっています。

図表 ボランティア活動の内容（上位10項目）／性別・年齢

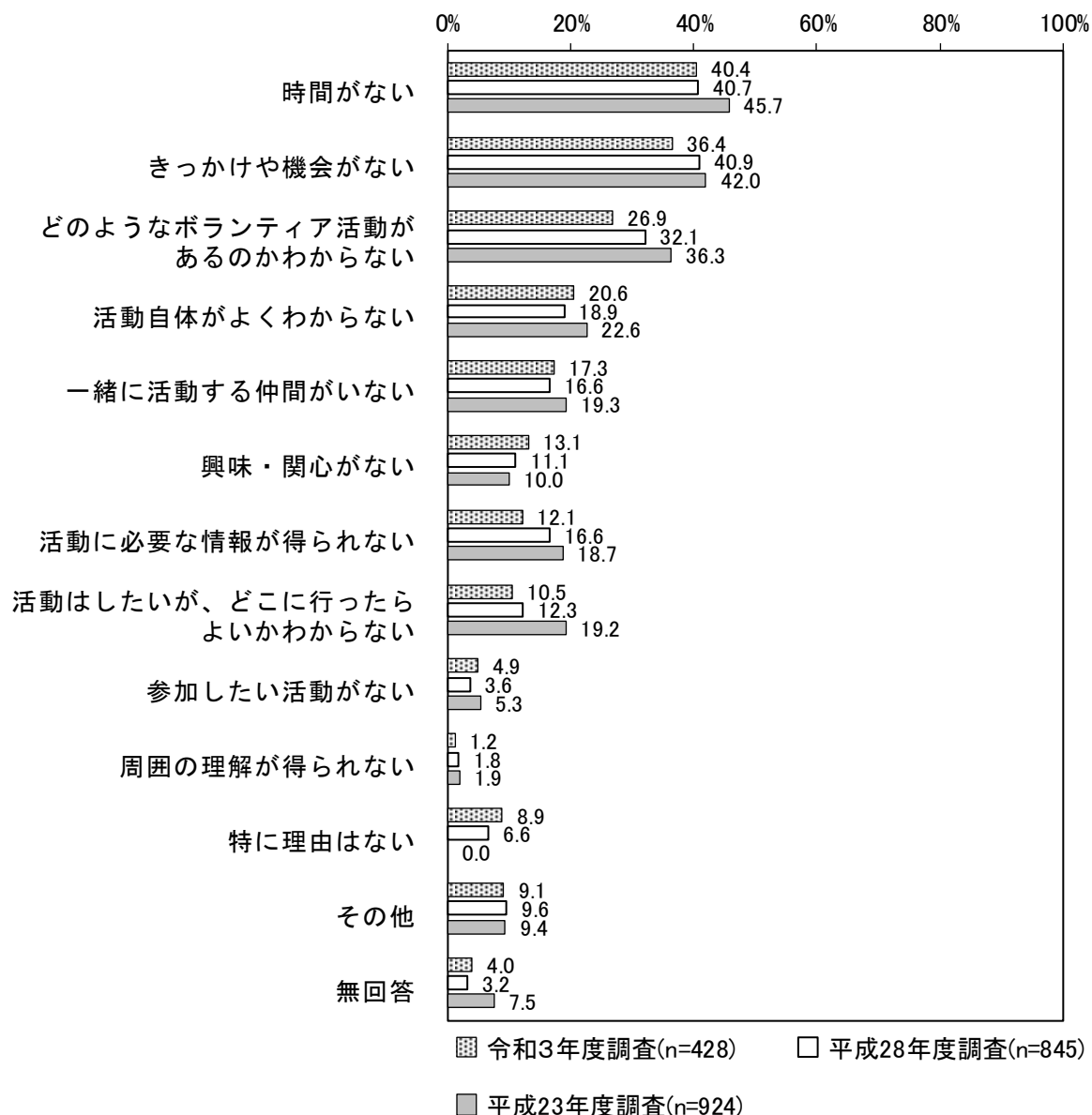
		n (回答者数)	青少年の健全育成に関する活動	スポーツ・レクリエーションに関する活動	まちづくりに関する活動	自然や環境保護に関する活動	防災・防犯に関する活動	ひとり暮らしの方の援助	教育・生涯学習に関する活動	子育ての支援や子どもの世話	障がいのある方の援助	文化・観光に関する活動
全体		214	21.5	20.6	17.8	14.5	11.7	11.2	8.4	7.9	7.9	7.9
性別	男性	104	28.8	26.9	22.1	19.2	21.2	3.8	9.6	3.8	2.9	6.7
	女性	96	16.7	12.5	12.5	9.4	3.1	19.8	7.3	12.5	12.5	8.3
年齢	20歳代以下	23	13.0	17.4	21.7	17.4	13.0	4.3	4.3	4.3	13.0	13.0
	30歳代	12	25.0	16.7	8.3	25.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	40歳代	24	20.8	25.0	16.7	8.3	25.0	0.0	16.7	12.5	4.2	12.5
	50歳代	24	25.0	16.7	20.8	8.3	12.5	4.2	8.3	8.3	12.5	0.0
	60歳代	45	28.9	22.2	17.8	6.7	13.3	17.8	2.2	6.7	8.9	8.9
	70歳代	53	20.8	15.1	18.9	22.6	9.4	11.3	9.4	9.4	3.8	9.4
	80歳以上	29	17.2	31.0	10.3	17.2	0.0	24.1	13.8	3.4	10.3	6.9

(2) ②ボランティア活動へ参加しない理由

■「時間がない」が約4割と高い

問20-② 問19で「3 まったく参加したことはないが、今後は参加したい」「4 まったく参加したことはない、今後も参加したいとは思わない」を選んだ方に伺います。参加しない又は参加しなかったのは、どのような理由ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 ボランティア活動へ参加しない理由



ボランティア活動へ参加しない理由について聞いたところ、「時間がない」(40.4%)が約4割と最も高く、次いで、「きっかけや機会がない」(36.4%)が4割近くと高くなっています。

時系列で見ると、「興味・関心がない」・「特に理由はない」が上昇傾向にあります。

性別で大きな違いは見られません。

年齢で見ると、「時間がない」は50歳代以下で高くなっており、70歳代以上で低くなっています。20歳代以下・40歳代はこのほかにも他の年代と比べて高い項目が多くなっており、20歳代以下は「一緒に活動する仲間がいない」・「興味・関心がない」が高くなっています。また、40歳代は「きっかけや機会がない」・「どのようなボランティア活動があるのかわからない」・「興味・関心がない」が高くなっています。

図表 ボランティア活動へ参加しない理由（上位10項目）／性別・年齢

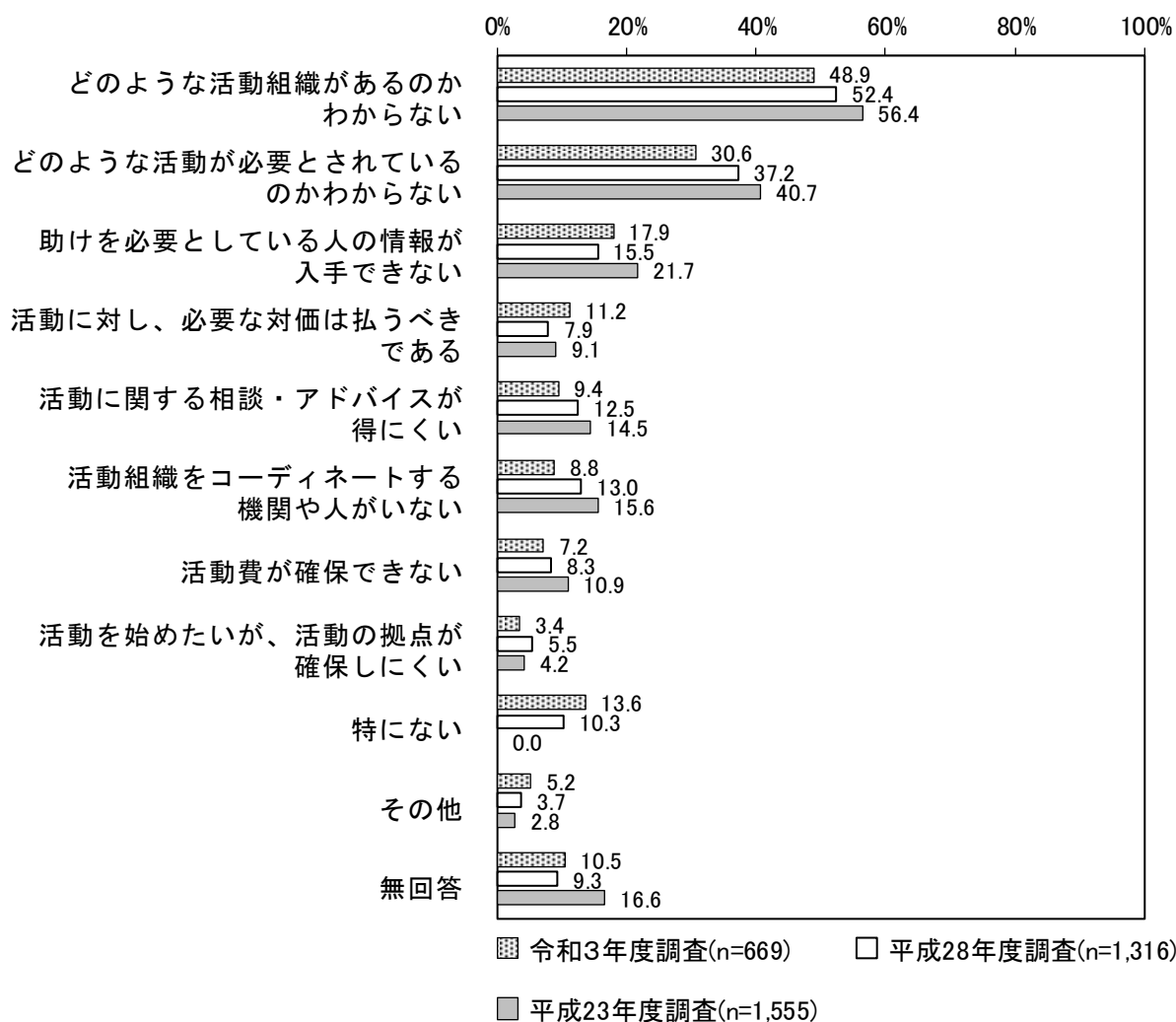
		n (回答者数)	時間がない	きっかけや機会がない	どのようなボランティア活動があるのかわからない	活動自体がよくわからない	一緒に活動する仲間がいない	興味・関心がない	活動に必要な情報が得られない	活動はしたいが、どこに行ったらよいかわからない	参加したい活動がない	周囲の理解が得られない
全体		428	40.4	36.4	26.9	20.6	17.3	13.1	12.1	10.5	4.9	1.2
性別	男性	152	47.4	38.2	23.0	19.7	17.1	20.4	12.5	7.2	6.6	2.6
	女性	240	38.3	35.4	30.0	22.1	16.7	9.2	12.1	12.5	3.8	0.4
年齢	20歳代以下	25	56.0	44.0	28.0	20.0	28.0	28.0	16.0	8.0	0.0	0.0
	30歳代	45	62.2	42.2	20.0	15.6	15.6	11.1	11.1	6.7	2.2	2.2
	40歳代	66	60.6	48.5	37.9	27.3	24.2	24.2	10.6	9.1	4.5	1.5
	50歳代	65	61.5	35.4	26.2	15.4	7.7	18.5	12.3	13.8	7.7	1.5
	60歳代	94	31.9	44.7	25.5	25.5	18.1	8.5	13.8	13.8	5.3	1.1
	70歳代	71	22.5	28.2	33.8	16.9	22.5	4.2	16.9	8.5	8.5	0.0
	80歳以上	61	8.2	14.8	14.8	18.0	9.8	8.2	4.9	9.8	1.6	1.6

(3) ボランティア活動の問題点

■「どのような活動組織があるのかわからない」が5割近くと高い

問 21 ボランティア活動の問題点をあげるとすれば、どのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

図表 ボランティア活動の問題点



ボランティア活動の問題点について聞いたところ、「どのような活動組織があるのかわからない」(48.9%)が5割近くと最も高く、次いで、「どのような活動が必要とされているのかわからない」(30.6%)が約3割と高くなっています。

時系列で見ると、「活動に対し、必要な対価は払うべきである」・「その他」・「特にない」で上昇が見られます。

性別で大きな違いは見られません。

年齢で見ると、80歳以上で「どのような活動組織があるのかわからない」が低くなっています。

20歳代以下で、「どのような活動が必要とされているのかわからない」が低くなっている一方、「活動に対し、必要な対価は払うべきである」・「活動費が確保できない」が高くなっています。

図表 ボランティア活動の問題点（上位10項目）／性別・年齢

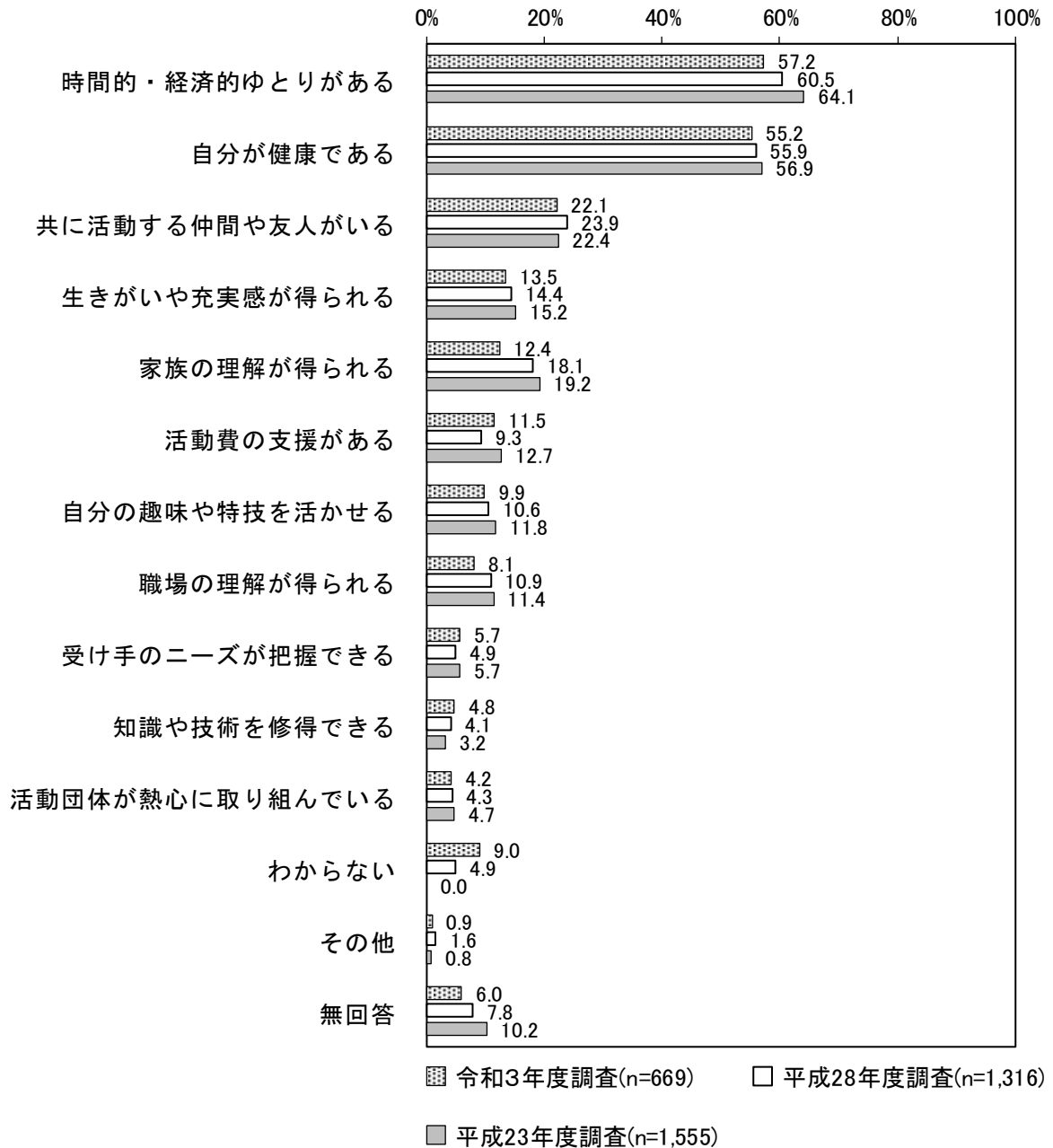
		n (回答者数)	どのような活動組織があるのかわからない	いどのような活動が必要とされているのかわからない	助けを必要としている人の情報が入手できない	活動に対し、必要な対価は払うべきである	活動に関する相談・アドバイスが得にくい	活動組織をコーディネートする機関や人がいない	活動費が確保できない	活動を始めたいが、活動の拠点が確保しにくい	特 に ない	そ の 他
全体		669	48.9	30.6	17.9	11.2	9.4	8.8	7.2	3.4	13.6	5.2
性別	男性	258	44.2	30.2	15.9	17.8	9.7	9.3	10.9	3.5	14.7	5.8
	女性	356	53.9	32.3	20.5	7.9	9.8	9.3	5.6	3.4	12.1	4.8
年齢	20歳代以下	48	54.2	14.6	27.1	25.0	6.3	12.5	18.8	6.3	12.5	6.3
	30歳代	57	57.9	36.8	19.3	12.3	7.0	14.0	12.3	7.0	8.8	5.3
	40歳代	92	55.4	29.3	22.8	19.6	5.4	12.0	14.1	3.3	14.1	4.3
	50歳代	89	55.1	28.1	12.4	16.9	13.5	11.2	6.7	1.1	13.5	3.4
	60歳代	144	50.7	37.5	15.3	6.3	10.4	9.7	6.3	2.8	13.9	6.9
	70歳代	131	43.5	34.4	21.4	3.8	9.9	6.1	2.3	4.6	17.6	3.1
	80歳以上	101	34.7	24.8	13.9	7.9	9.9	2.0	0.0	2.0	11.9	6.9

(4) ボランティア活動へ参加するために必要な条件

■「時間的・経済的ゆとりがある」「自分が健康である」が5割以上と高い

問 22 ボランティア活動を続けたり、新たに活動に参加するために必要な条件は、どのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

図表 ボランティア活動へ参加するために必要な条件



ボランティア活動へ参加するために必要な条件について聞いたところ、「時間的・経済的ゆとりがある」(57.2%)、「自分が健康である」(55.2%)が5割以上と高くなっています。

時系列で見ると、「知識や技術を修得できる」・「わからない」が平成28年から令和3年にかけて上昇しています。

性別で大きな違いは見られません。

年齢で見ると、「時間的・経済的ゆとりがある」・「共に活動する仲間や友人がいる」は若年層で高く、高齢層で低い傾向にあります。一方、「自分が健康である」は若年層が低く、高齢層で高い傾向にあります。

また、20歳代以下・50歳代で「活動費の支援がある」が高くなっています。

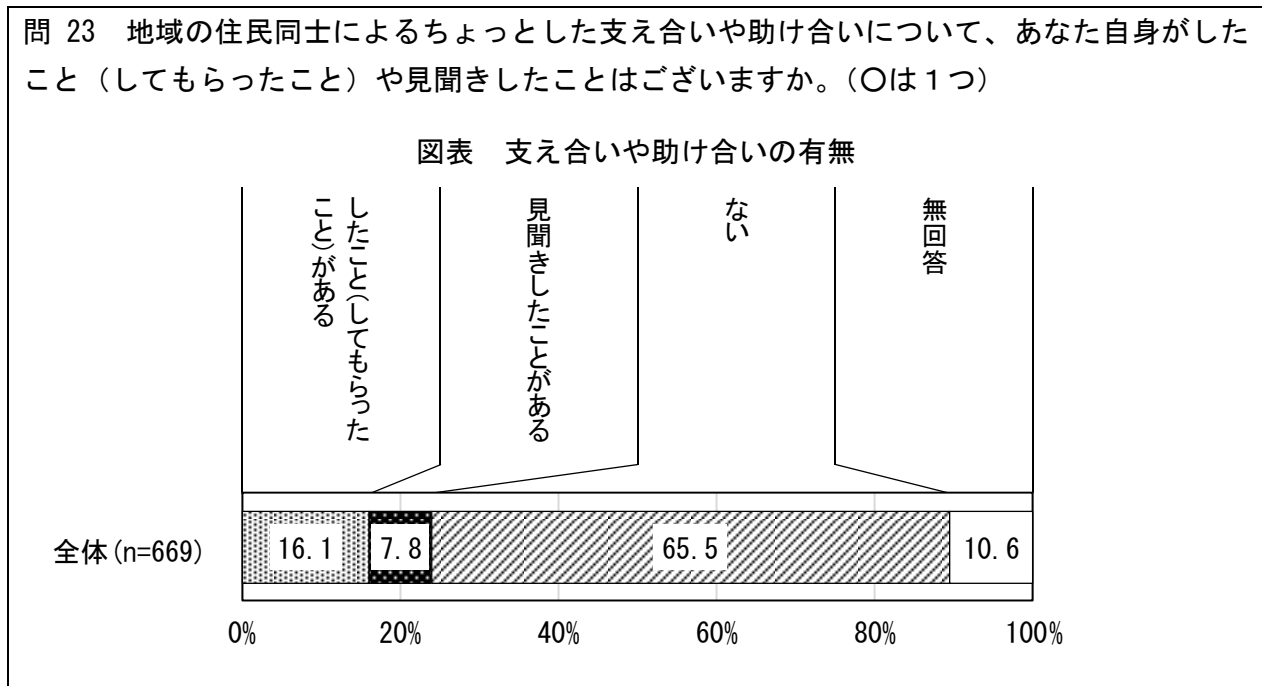
図表 ボランティア活動へ参加するために必要な条件（上位10項目）／性別・年齢

		n (回答者数)	時間的・経済的ゆとりがある	自分が健康である	共に活動する仲間や友人がいる	生きがいや充実感が得られる	家族の理解が得られる	活動費の支援がある	自分の趣味や特技を活かせる	職場の理解が得られる	受け手のニーズが把握できる	知識や技術を修得できる
全体		669	57.2	55.2	22.1	13.5	12.4	11.5	9.9	8.1	5.7	4.8
性別	男性	258	63.6	50.4	19.8	13.6	14.3	17.8	12.0	11.2	5.8	5.0
	女性	356	57.6	57.3	25.0	12.9	11.0	8.1	9.0	5.9	6.2	5.3
年齢	20歳代以下	48	64.6	27.1	33.3	16.7	4.2	22.9	16.7	6.3	12.5	10.4
	30歳代	57	77.2	31.6	33.3	8.8	15.8	21.1	5.3	10.5	8.8	10.5
	40歳代	92	71.7	38.0	19.6	8.7	17.4	19.6	6.5	15.2	9.8	5.4
	50歳代	89	77.5	49.4	19.1	11.2	10.1	22.5	7.9	16.9	7.9	7.9
	60歳代	144	56.9	70.8	20.1	18.8	10.4	4.9	13.9	5.6	4.2	4.2
	70歳代	131	45.0	73.3	26.7	13.0	11.5	3.1	11.5	2.3	2.3	1.5
	80歳以上	101	28.7	57.4	11.9	13.9	15.8	4.0	6.9	5.0	1.0	1.0

(5) 支え合いや助け合いの有無

■「したこと（してもらったこと）がある」が2割近く

問 23 地域の住民同士によるちょっとした支え合いや助け合いについて、あなた自身がしたこと（してもらったこと）や見聞きしたことはございますか。（○は1つ）

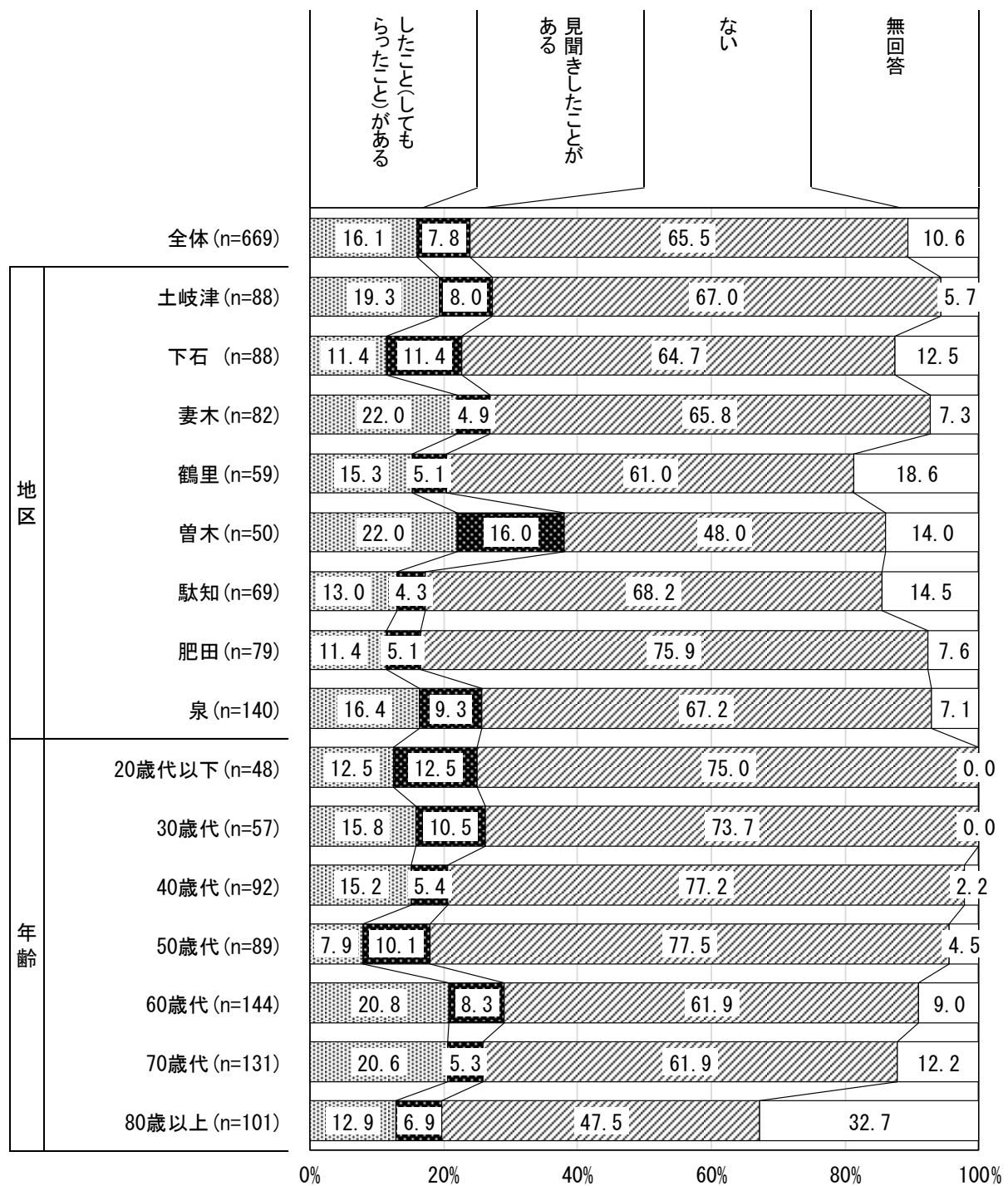


支え合いや助け合いの有無について聞いたところ、「したこと（してもらったこと）がある」（16.1%）が2割近く、「見聞きしたことがある」（7.8%）が1割未満となっています。一方、「ない」（65.5%）が6割台半ばと最も高くなっています。

地区で見ると、妻木・曾木は「したこと(してもらったこと)がある」が最も高く2割強(22.0%)、となっており、地域における支え合いや助け合いが多く行われていると考えられます。「ない」は肥田が最も高く7割台半ば(75.9%)となっています。

年齢で見ると、「したこと(してもらったこと)がある」は60歳代(20.8%)・70歳代(20.6%)で2割台と高く、50歳代(7.9%)で1割未満と最も低くなっています。

図表 支え合いや助け合いの有無／地区・年齢



(6) 支え合いや助け合いの内容

■「家事」が最も多く 28 件

問 24 問 23 で「1 したこと（してもらったこと）がある」「2 見聞きしたことがある」を選んだ方に伺います。それは具体的に、どのような内容ですか。

図表 支え合いや助け合いの内容（抜粋）

分類	記載例	件数
家事	家の回りの草刈	28
地域活動	町内のお祭り等、地域の方に助けてもらい活動している。	26
声かけ	高齢者同士がコミュニケーションを取り、連絡がつかない人の自宅に安否確認をしに行っている事を聞きました。	25
緊急	老人がころんで動けなくなっていた為119通報して助けることが出来たと聞きました	19
見守り	老人会による子供の通学の見守り	17
送迎	買い物に行った時、車に乗せてもらって助かった	15
食事	おかずのおすそわけをしたり、野菜をもらったり	15
付き添い	片親世帯(シングルマザー)の親さんが体調を崩した際に幼い子供さんの見守りや、病院への付添いに協力した。	14
ごみ捨て	高齢の方の家の資源ゴミを出してあげた	13
買い物	近所の高齢者と一緒に買い物に行っていると聞いた事があります	11
子育て	子供が小さい時に、外で散歩したりしていると、色々とお話かけてもらった。おもちゃなどをくれた。	8
ボランティア	ボランティア活動でふれあいサロンを始めた。今も続いてやっています。泉ヶ丘のふれあいサロンです。もう20年以上になると思います。	5
民生委員	近所のおばあさんがお友達の家で調子(体調)が悪くなり、民生委員の方がかけつけてくださったと聞いた。	5
傾聴	話を聞いてもらった。(介護の不安)	3
わからない・ない	地域の住同士には行っていないのでわかりません。	3
その他	高校生の頃、大雪で自宅に戻ったところ、親が不在で鍵が置いておらず、近所の家で親の帰宅を待たせていただいたことがありました。	16

支え合いや助け合いの内容について聞いたところ、146 件の記入がありました。これらの意見を分類したところ、16 カテゴリー・223 件となりました。(複数のカテゴリーに分類したものを含む)

「家事」が最も多く 28 件となっています。

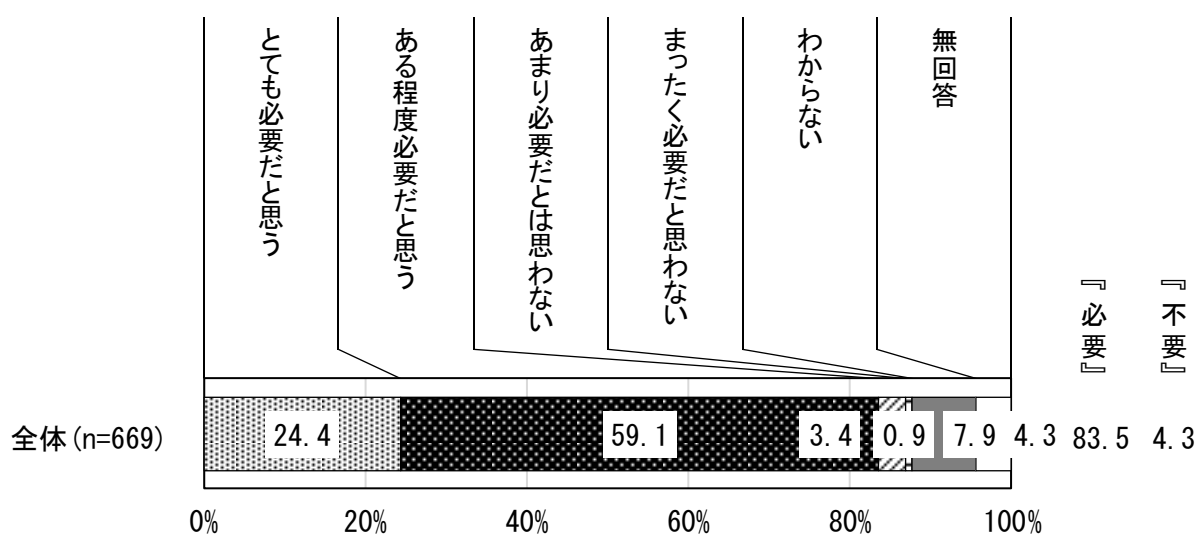
5. 地域福祉に関することについて

(1) 支え合いや助け合いは必要か

■ 『必要』が8割強を占める

問 25 あなたは、地域で生じている様々な福祉分野の生活課題（高齢者・障がいのある人の生活、子育て、健康づくりに関する問題など）に対し、地域住民が自主的にお互いに支え合い、助け合う関係が必要だと思いますか。（○は1つ）

図表 支え合いや助け合いは必要か



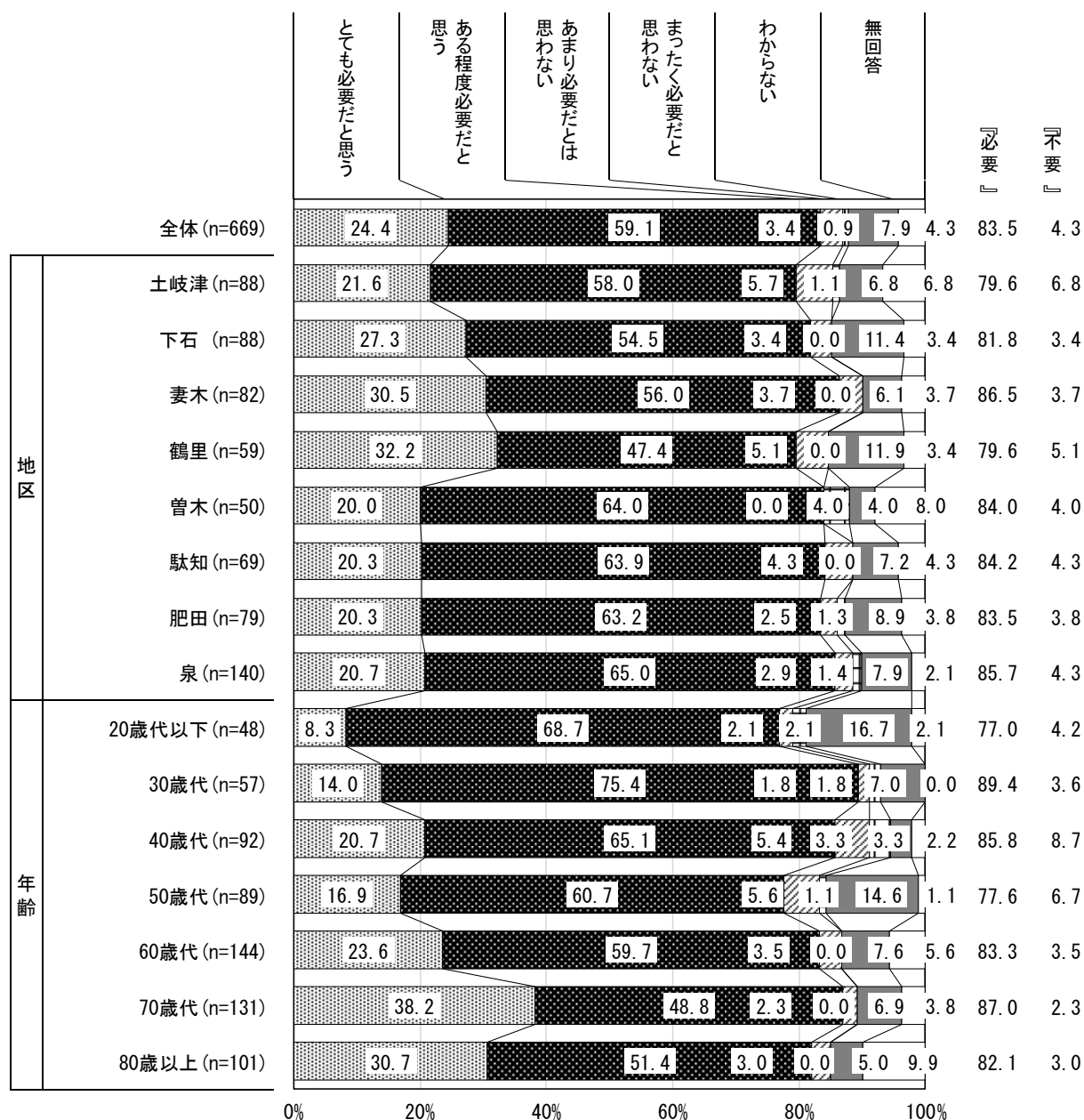
支え合いや助け合いは必要かについて聞いたところ、「とても必要だと思う」(24.4%)と「ある程度必要だと思う」(59.1%)を合計した『必要』(83.5%)が8割強となっています。一方で、「あまり必要だとは思わない」(3.4%)と「まったく必要だと思わない」(0.9%)を合計した『不要』(4.3%)が1割未満となっています。

『不要』(4.3%)は1割未満とわずかにしか見られません。

地区で見ると、『必要』は土岐津（79.6%）・鶴里（79.6%）を除いた地区が8割以上と高くなっています。

年齢で見ると、『必要』は20歳代以下（77.0%）・50歳代（77.6%）を除いた年齢が8割以上と高くなっています。

図表 支え合いや助け合いは必要か／地区・年齢

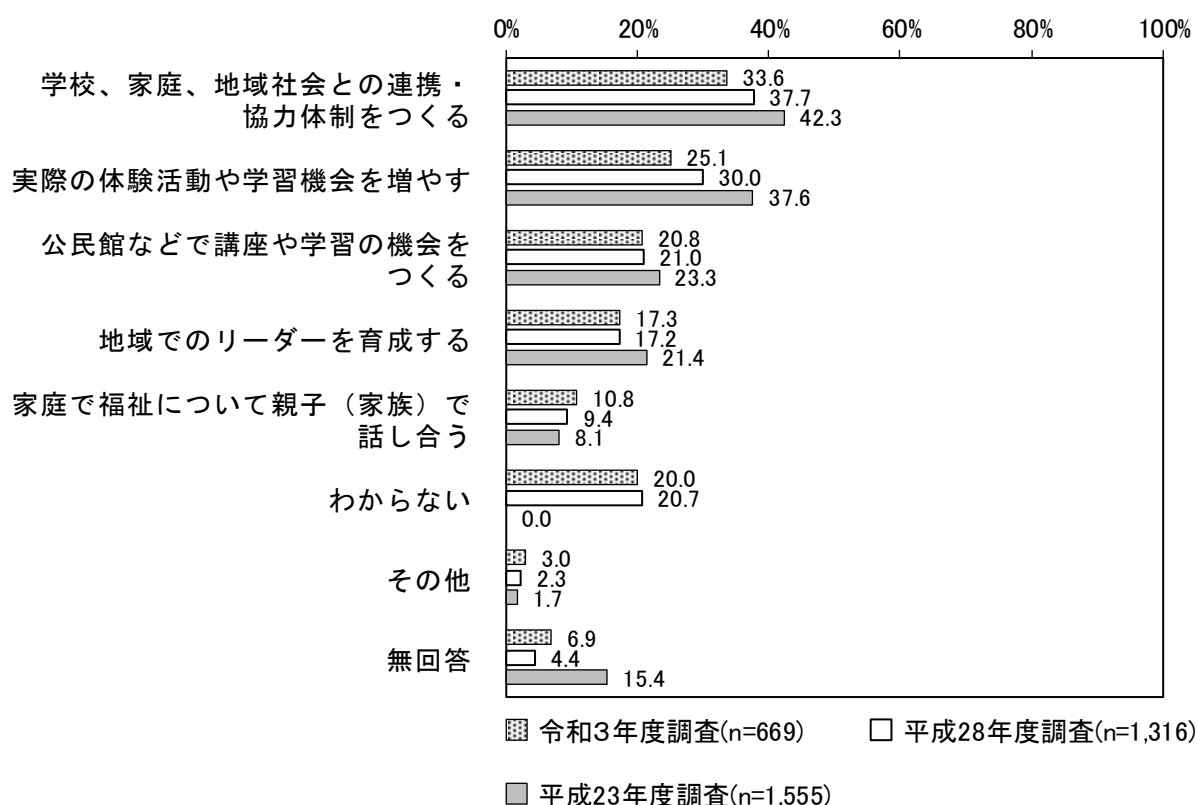


(2) 福祉意識醸成に必要な取組

■「学校、家庭、地域社会との連携・協力体制をつくる」が3割強と高い

問 26 市民の中に福祉に関する意識を育てるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図表 福祉意識醸成に必要な取組



福祉意識醸成に必要な取組について聞いたところ、「学校、家庭、地域社会との連携・協力体制をつくる」(33.6%)が最も高く3割強、「実際の体験活動や学習機会を増やす」(25.1%)、「公民館などで講座や学習の機会をつくる」(20.8%)が2割以上と高くなっています。一方で、「わからない」(20.0%)も2割となっています。

時系列で見ると、「家庭で福祉について親子(家族)で話し合う」のみが上昇傾向となっています。

性別で大きな違いは見られません。

年齢で見ると、「学校、家庭、地域社会との連携・協力体制をつくる」は若年層で高く、高齢層で低い傾向にあります。一方、「地域でのリーダーを育成する」は若年層が低く、高齢層で高い傾向にあります。

また、20歳代以下で「公民館などで講座や学習の機会をつくる」が低くなっています。

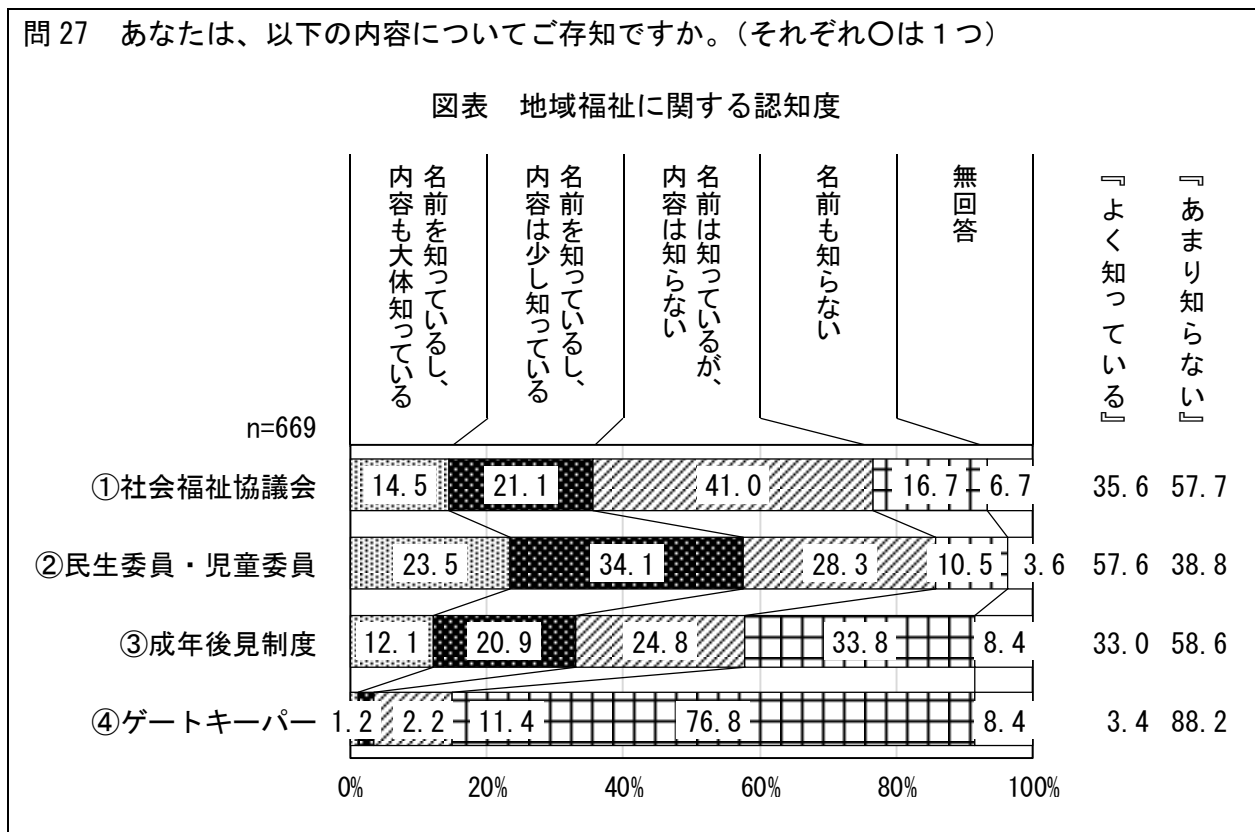
図表 福祉意識醸成に必要な取組／性別・年齢

		n (回答者数)	学校、家庭、 地域社会との 連携・協力体制 をつくる	実際の体験活動 や学習機会を増 やす	公民館などで講 座や学習の機会 をつくる	地域でのリーダ ーを育成する	家庭で福祉につ いて親子(家族) で話し合う	わからない	その他	無回答
全体		669	33.6	25.1	20.8	17.3	10.8	20.0	3.0	6.9
性別	男性	258	32.6	21.3	16.3	19.4	9.3	23.3	4.3	5.0
	女性	356	36.2	28.1	24.2	13.2	10.4	19.4	2.2	8.1
年齢	20歳代以下	48	43.8	31.3	8.3	6.3	8.3	27.1	0.0	4.2
	30歳代	57	54.4	29.8	14.0	10.5	10.5	19.3	5.3	0.0
	40歳代	92	53.3	30.4	16.3	6.5	8.7	16.3	5.4	3.3
	50歳代	89	29.2	16.9	18.0	19.1	13.5	31.5	5.6	2.2
	60歳代	144	29.9	28.5	25.0	18.1	6.9	20.8	2.8	6.3
	70歳代	131	26.7	26.7	25.2	21.4	13.0	19.8	1.5	6.1
	80歳以上	101	17.8	16.8	24.8	27.7	13.9	10.9	0.0	19.8

(3) 地域福祉に関する認知度

■ 『あまり知らない』は、“④ゲートキーパー”が9割近くと高い

問27 あなたは、以下の内容についてご存知ですか。(それぞれ○は1つ)



「名前を知っているし、内容も大体知っている」と「名前を知っているし、内容は少し知っている」を合計した『よく知っている』は、“②民生委員・児童委員” (57.6%) が最も高く6割近くとなっています。

一方、「名前は知っているが、内容は知らない」と「名前もしらない」を合計した『あまり知らない』は、“④ゲートキーパー” (88.2%) が最も高く9割近くとなっています。

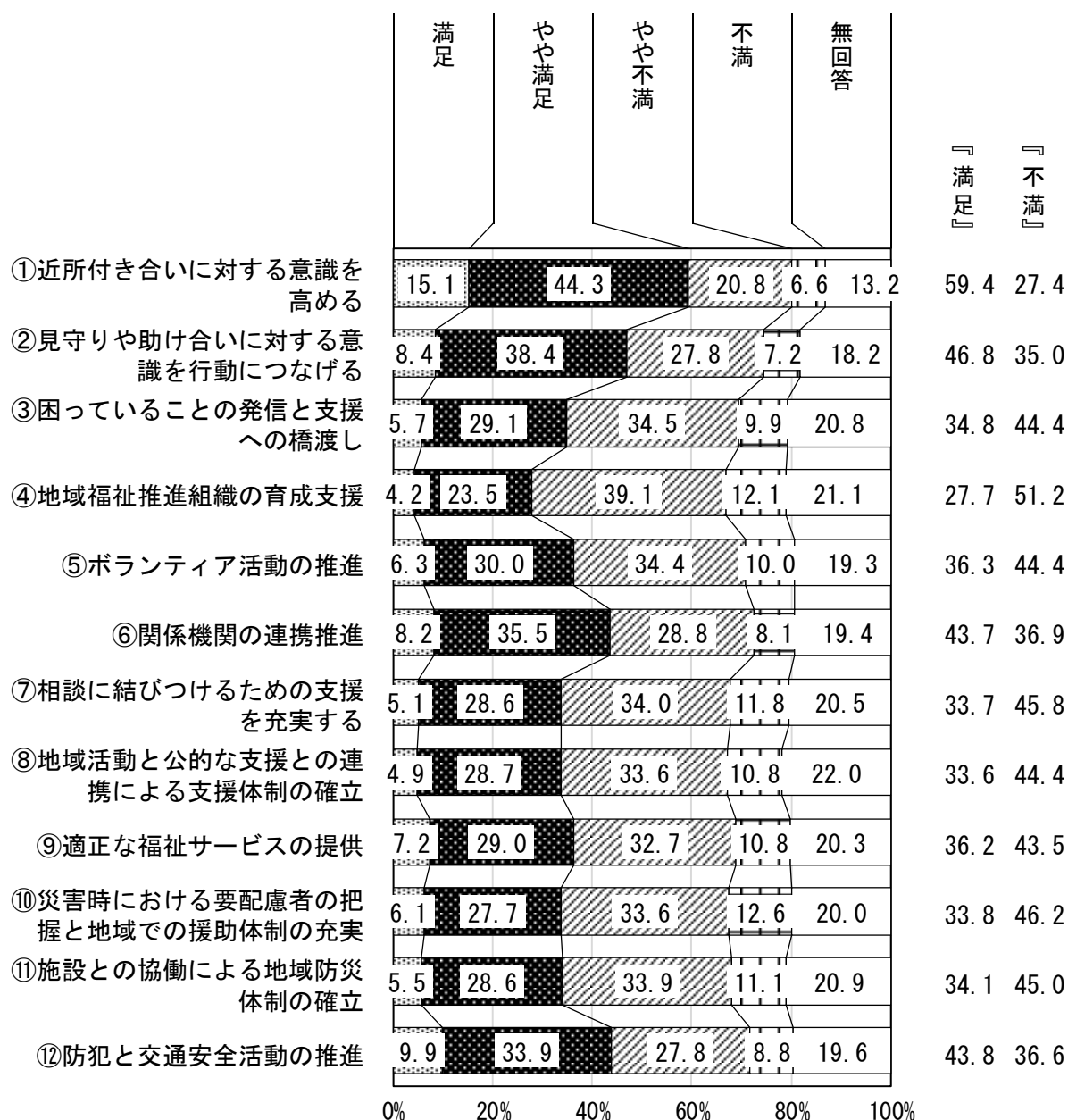
『よく知っている』が『あまり知らない』を上回っているのは、“②民生委員・児童委員”のみとなっています。

(4) 地域福祉に関する取り組みの満足度

■『満足』は、“①近所付き合いに対する意識を高める”が6割弱と高い

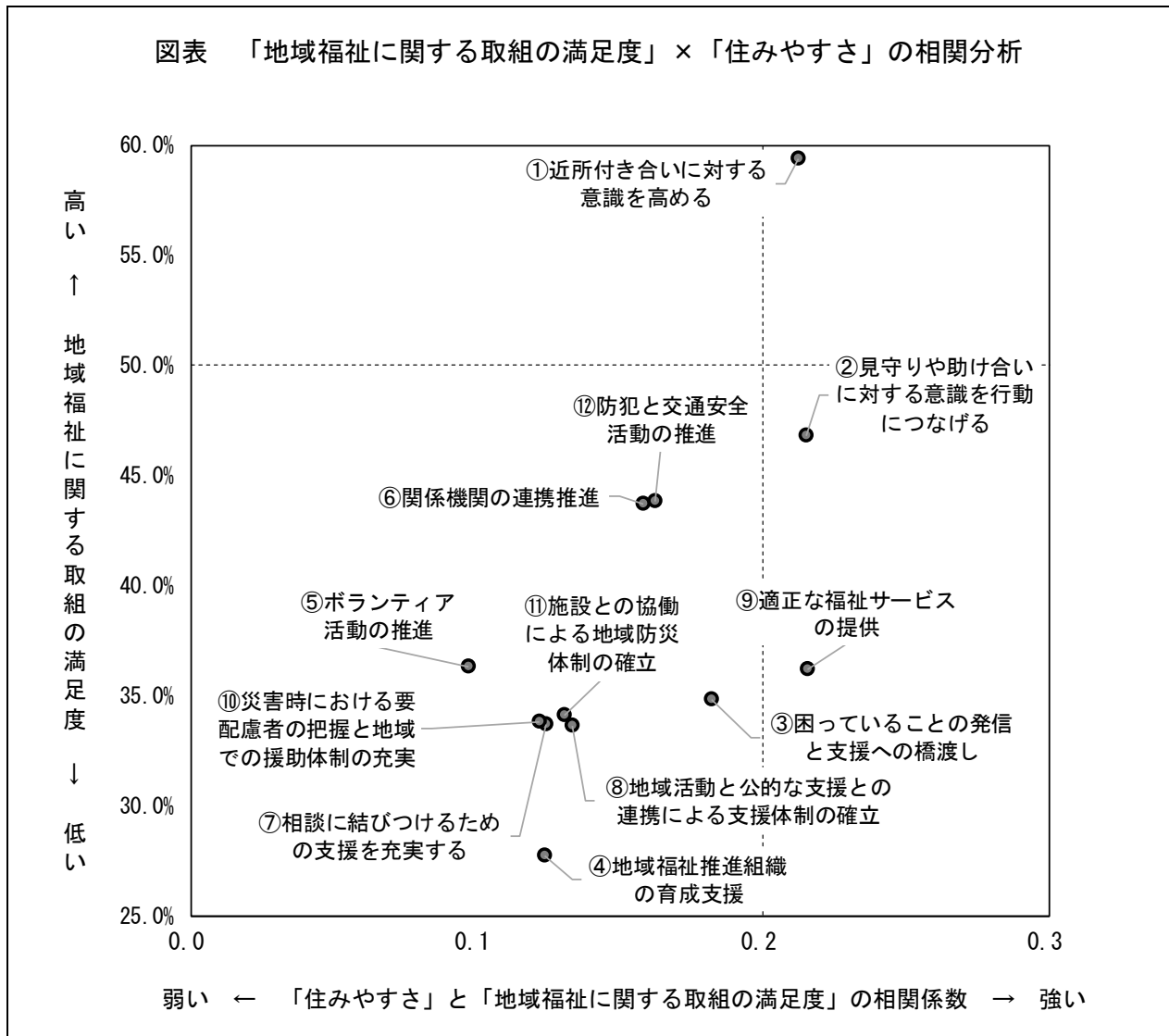
問 28 土岐市の地域福祉に関する取り組みの満足度について伺います。今のお気持ちに一番近い答えの番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

図表 地域福祉に関する取り組みの満足度



地域福祉に関する取り組みの満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、“①近所付き合いに対する意識を高める”(59.4%)が最も高く6割弱となっています。『満足』が『不満』を上回っているのは、“①近所付き合いに対する意識を高める”・“②見守りや助け合いに対する意識を行動につなげる”・“⑥関係機関の連携推進”・“⑫防犯と交通安全活動の推進”の4項目となっています。

■ 「地域福祉に関する取組の満足度」 × 「住みやすさ」の相関分析



■ 相関分析について

2つの要素が「どの程度同じような動きをするか」という要素間の関係性を明らかにする手法を相関分析と呼びます。「問 28 地域福祉に関する取組の満足度」と「問 2 住みやすさ」の回答結果を基に相関分析を行いました。満足度は、「問 28 地域福祉に関する取組の満足度」における「満足」と「やや満足」の合計、相関係数は、2つのデータの関係の強さを数値（係数）で示したもので、0.2 を超えていればゆるやかな相関があると見ることができます。

■ 結果

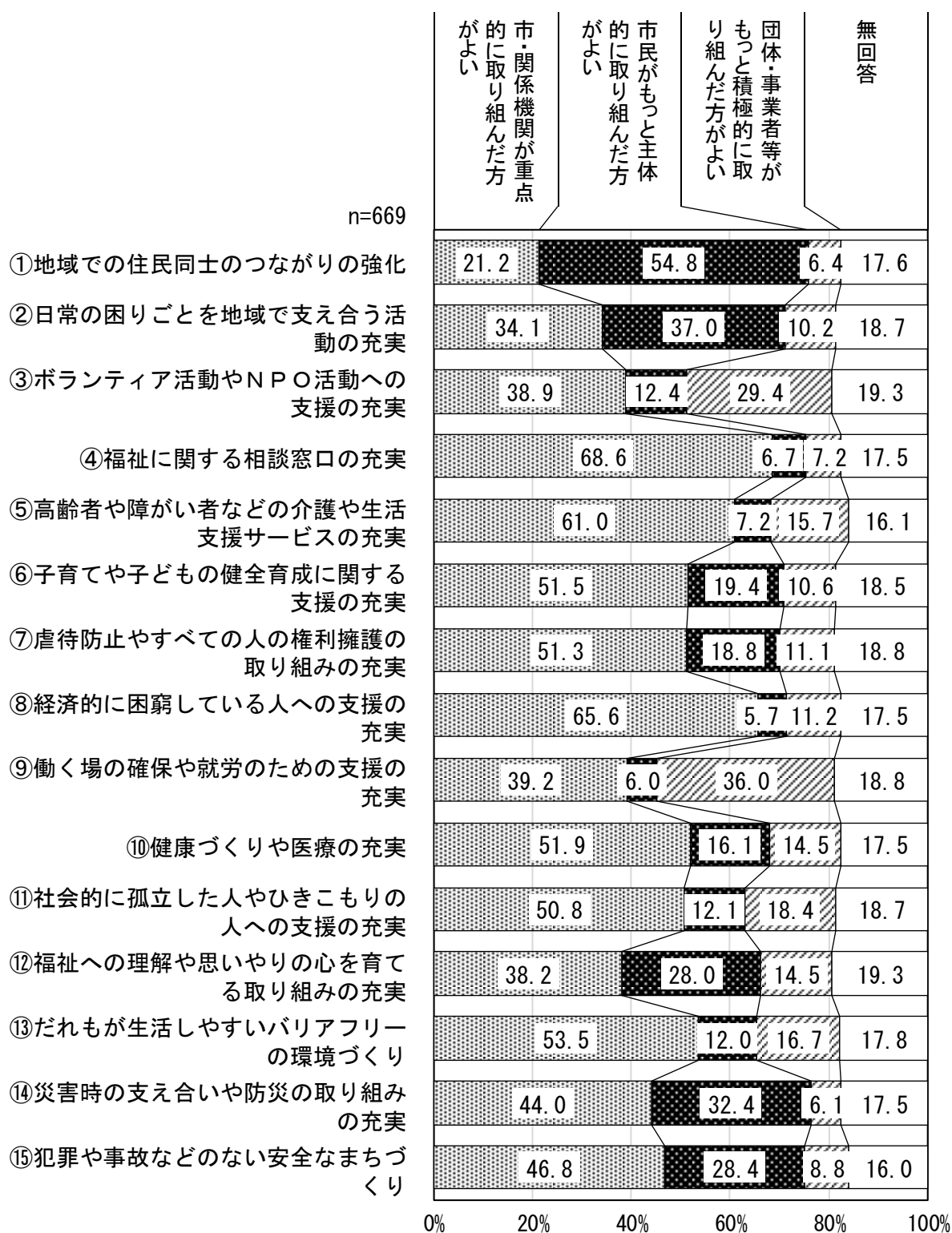
相関係数が 0.2 を超えている項目は、“①近所付き合いに対する意識を高める”・“②見守りや助け合いに対する意識を行動につなげる”・“⑨適正な福祉サービスの提供”となっています。これらの満足度の向上と住みやすさは相互に影響し合う関係性にあるため、より一層の改善が望まれています。

(5) 地域福祉の推進主体

■「市民がもっと主体的に取り組んだ方がよい」が高いのは“①地域での住民同士のつながりの強化”・“②日常の困りごとを地域で支え合う活動の充実”の2項目

問 29 地域福祉を推進するため、次の①～⑮についてどのように取り組んだ方がよいと思いますか。(それぞれ〇は1つ)

図表 地域福祉の推進主体



全 15 項目のうち、“①地域での住民同士のつながりの強化”・“②日常の困りごとを地域で支え合う活動の充実”のみ「市民がもっと主体的に取り組んだ方がよい」が最も高くなっています。それ以外の項目は「市・関係機関が重点的に取り組んだ方がよい」が高くなっています。

「市・関係機関が重点的に取り組んだ方がよい」の中でも、特に高くなっている項目は“④福祉に関する相談窓口の充実”（68.6%）・“⑤高齢者や障がい者などの介護や生活支援サービスの充実”（61.0%）・“⑧経済的に困窮している人への支援の充実”（65.6%）で6割を超えています。

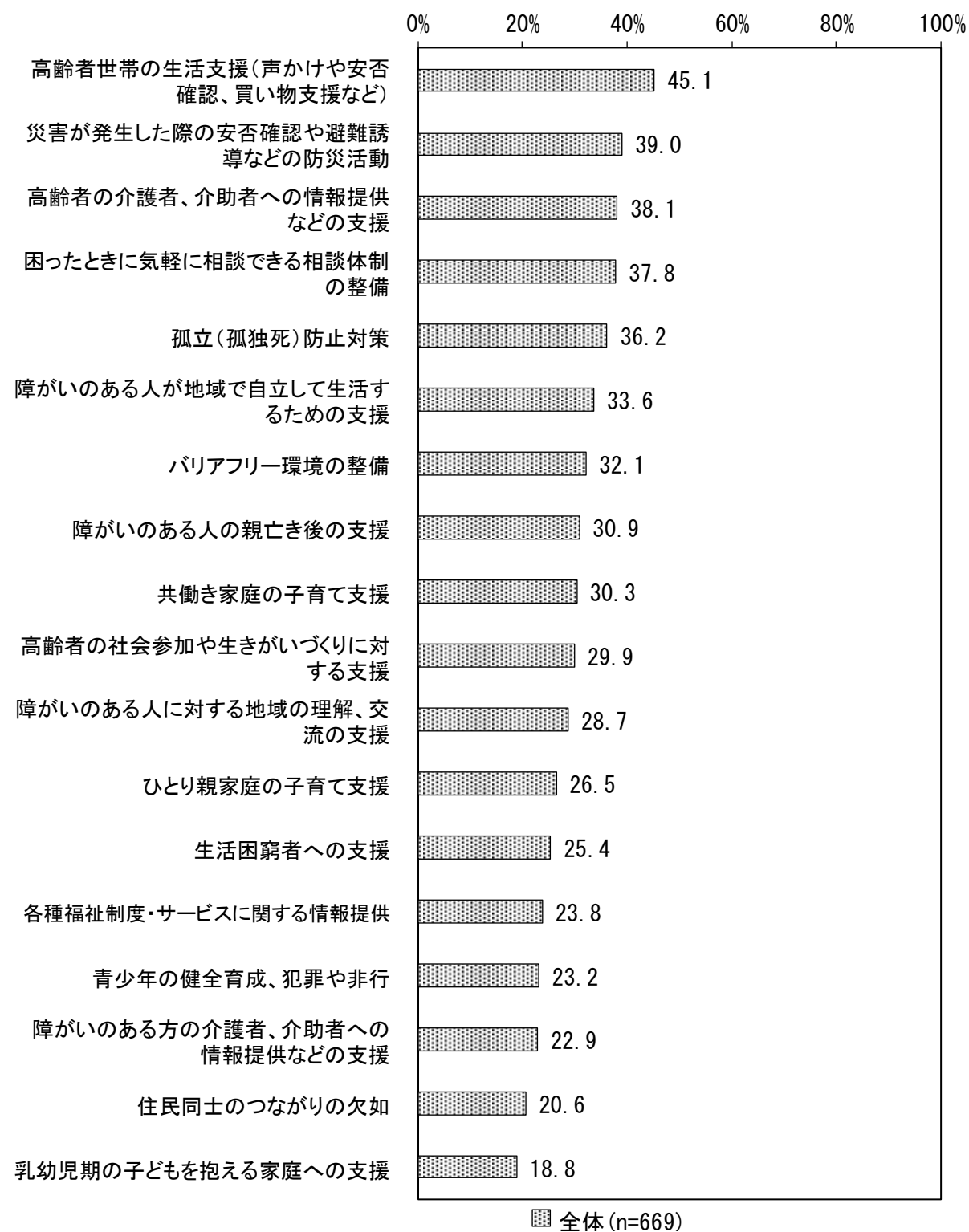
「団体・事業者等がもっと積極的に取り組んだ方がよい」の中で高い項目は、“③ボランティア活動やNPO活動への支援の充実”（29.4%）・“⑨働く場の確保や就労のための支援の充実”（36.0%）となっています。

(6) 地域の課題

■「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が4割台半ばと最も高い

問30 あなたの地域には、どのような課題があると思いますか。（○はいくつでも）

図表 地域の課題（1/2）



図表 地域の課題（2 / 2）



地域の課題について聞いたところ、「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」（45.1%）が4割台半ばと最も高く、次いで、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」（39.0%）、「高齢者の介護者、介助者への情報提供などの支援」（38.1%）となっています。

おおむね、いずれの属性も全体の上位5つと同じ項目となっています。一方で、「共働き家庭の子育て支援」（男性2位・曾木2位・20歳代以下2位・30歳代1位・40歳代3位）、「バリアフリー環境の整備」（下石4位・鶴里5位・駄知5位・30歳代2位）、「障がいのある人の自立への支援」（妻木5位、駄知4位、肥田3位、40歳代5位、60歳代5位）なども少ないながら上位5位に入った項目として見られました。

図表 地域の課題（上位5位）／性別・年齢

		n (回答者数)	1位	2位	3位	4位	5位
全体		669	高齢者世帯の生活支援 45.1	災害が発生した際の防災活動 39.0	高齢者の介護者への支援 38.1	困ったときの相談体制の整備 37.8	孤立（孤独死）防止対策 36.2
性別	男性	258	高齢者世帯の生活支援 40.7	共働き家庭の子育て支援 36.0	災害が発生した際の防災活動 36.0	困ったときの相談体制の整備 36.0	高齢者の介護者への支援 34.5
	女性	356	高齢者世帯の生活支援 47.8	災害が発生した際の防災活動 43.0	高齢者の介護者への支援 41.0	孤立（孤独死）防止対策 39.0	困ったときの相談体制の整備 38.8
地区	土岐津	88	高齢者世帯の生活支援 48.9	災害が発生した際の防災活動 42.0	困ったときの相談体制の整備 42.0	孤立（孤独死）防止対策 38.6	高齢者の介護者への支援 37.5
	下石	88	災害が発生した際の防災活動 40.9	高齢者世帯の生活支援 38.6	困ったときの相談体制の整備 38.6	バリアフリー環境の整備 36.4	孤立（孤独死）防止対策 35.2
	妻木	82	困ったときの相談体制の整備 41.5	高齢者世帯の生活支援 40.2	高齢者の介護者への支援 40.2	災害が発生した際の防災活動 39.0	障がいのある人の自立への支援 37.8
	鶴里	59	高齢者世帯の生活支援 49.2	高齢者の介護者への支援 42.4	災害が発生した際の防災活動 39.0	困ったときの相談体制の整備 32.2	高齢者の生きがいづくり・バリアフリー環境の整備 28.8
	曾木	50	高齢者世帯の生活支援 52.0	共働き家庭の子育て支援 38.0	高齢者の介護者への支援 38.0	困ったときの相談体制の整備 34.0	孤立（孤独死）防止対策 32.0
	駄知	69	高齢者世帯の生活支援 49.3	高齢者の介護者への支援 44.9	孤立（孤独死）防止対策 42.0	障がいのある人の自立への支援 39.1	バリアフリー環境の整備 39.1
	肥田	79	災害が発生した際の防災活動 44.3	高齢者世帯の生活支援 43.0	障がいのある人の自立への支援 41.8	困ったときの相談体制の整備 41.8	孤立（孤独死）防止対策 38.0
	泉	140	高齢者世帯の生活支援 45.7	高齢者の介護者への支援 41.4	災害が発生した際の防災活動 38.6	孤立（孤独死）防止対策 37.1	困ったときの相談体制の整備 36.4
	年齢	20歳代以下	48	孤立（孤独死）防止対策 47.9	共働き家庭の子育て支援 43.8	災害が発生した際の防災活動 43.8	ひとり親家庭の子育て支援 37.5
30歳代		57	共働き家庭の子育て支援 57.9	バリアフリー環境の整備 56.1	高齢者世帯の生活支援 54.4	乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援 45.6	災害が発生した際の防災活動 45.6
40歳代		92	災害が発生した際の防災活動 47.8	高齢者世帯の生活支援 45.7	共働き家庭の子育て支援 43.5	孤立（孤独死）防止対策 40.2	障がいのある人の自立への支援 37.0
50歳代		89	高齢者世帯の生活支援 47.2	高齢者の介護者への支援 47.2	困ったときの相談体制の整備 42.7	障がいのある人の親亡き後の支援 39.3	災害が発生した際の防災活動 39.3
60歳代		144	災害が発生した際の防災活動 45.8	高齢者世帯の生活支援 43.8	困ったときの相談体制の整備 39.6	孤立（孤独死）防止対策 36.1	障がいのある人の自立への支援 35.4
70歳代		131	困ったときの相談体制の整備 42.0	高齢者の介護者への支援 41.2	高齢者世帯の生活支援 39.7	孤立（孤独死）防止対策 35.9	災害が発生した際の防災活動 33.6
80歳以上		101	高齢者世帯の生活支援 51.5	困ったときの相談体制の整備 38.6	高齢者の介護者への支援 37.6	高齢者の生きがいづくり 26.7	孤立（孤独死）防止対策・障がいのある人の親亡き後の支援 25.7

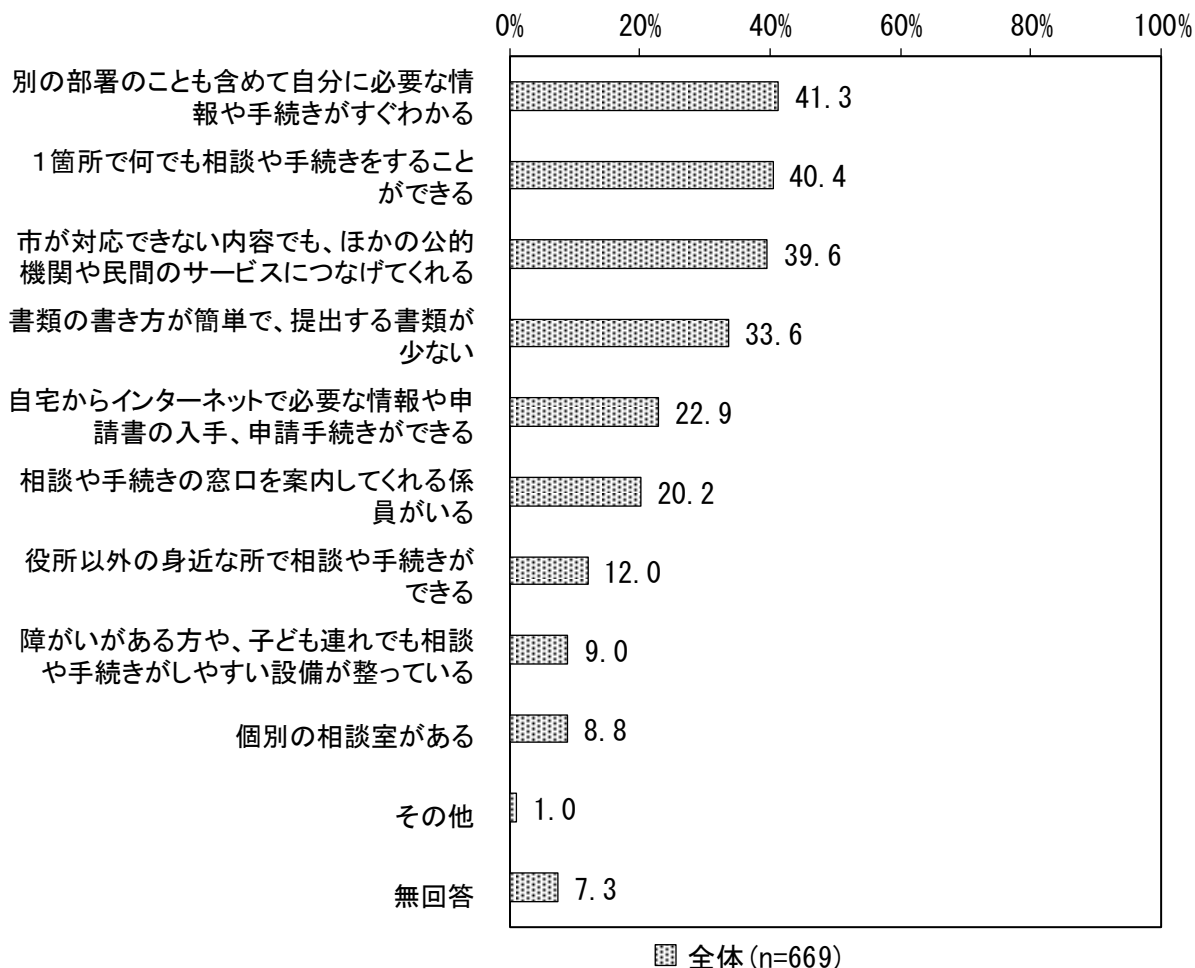
※選択肢名を一部省略して表記しています。

(7) 市の窓口へ求めること

■「別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる」が4割強と高い

問31 あなたは、市の窓口で相談や手続きを行う場合、どのような窓口を希望されますか。(〇は3つまで)

図表 市の窓口へ求めること



市の窓口へ求めることについて聞いたところ、「別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる」(41.3%)が4割強と最も高く、次いで、「1箇所で何でも相談や手続きをすることができる」(40.4%)が約4割、「市が対応できない内容でも、ほかの公的機関や民間のサービスにつなげてくれる」(39.6%)、「書類の書き方が簡単で、提出する書類が少ない」(33.6%)が3割以上と高くなっています。

性別で大きな違いは見られません。

年齢で見ると、「自宅からインターネットで必要な情報や申請書の入手、申請手続きができる」は若年層で高く、高齢層で低くなっています。

80歳以上ではこのほか、「別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる」・「市が対応できない内容でも、ほかの公的機関や民間のサービスにつなげてくれる」も低くなっている一方、「相談や手続きの窓口を案内してくれる係員がいる」が高くなっています。

図表 市の窓口へ求めること（上位10項目）／性別・年齢

	n (回答者数)	別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる	1箇所でも相談や手続きをすることができる	市のサービスにつなげてくれるほかの公的機関や民間のサービス	書類の書き方が簡単で、提出する書類が少ない	自宅からインターネットで必要な情報や申請書の入手、申請手続きができる	相談や手続きの窓口を案内してくれる係員がいる	役所以外の身近な所で相談や手続きができる	障がいがある方や、子ども連れでも相談や手続きがしやすい設備が整っている	個別の相談室がある	その他	
全体	669	41.3	40.4	39.6	33.6	22.9	20.2	12.0	9.0	8.8	1.0	
性別	男性	258	46.5	34.9	42.6	31.4	32.2	15.9	10.9	7.4	8.5	1.2
	女性	356	39.3	42.7	39.0	35.1	18.0	22.5	12.1	10.1	9.0	1.1
年齢	20歳代以下	48	50.0	33.3	29.2	31.3	45.8	25.0	14.6	8.3	6.3	4.2
	30歳代	57	49.1	31.6	52.6	22.8	54.4	14.0	7.0	14.0	7.0	0.0
	40歳代	92	55.4	40.2	39.1	35.9	35.9	17.4	12.0	8.7	7.6	2.2
	50歳代	89	40.4	31.5	44.9	36.0	29.2	24.7	15.7	7.9	10.1	0.0
	60歳代	144	46.5	46.5	44.4	37.5	16.7	14.6	9.0	9.0	11.8	0.0
	70歳代	131	35.9	45.8	40.5	32.8	9.2	17.6	7.6	8.4	6.1	1.5
	80歳以上	101	19.8	41.6	23.8	32.7	4.0	30.7	19.8	7.9	9.9	1.0

(8) 自由意見

■「高齢者」が最も多く 51 件

今後、「住みよい福祉のまちづくり」を進めていくために、ご意見やご提案などがございましたら、ご自由にお書きください。

図表 自由意見（抜粋）（1 / 2）

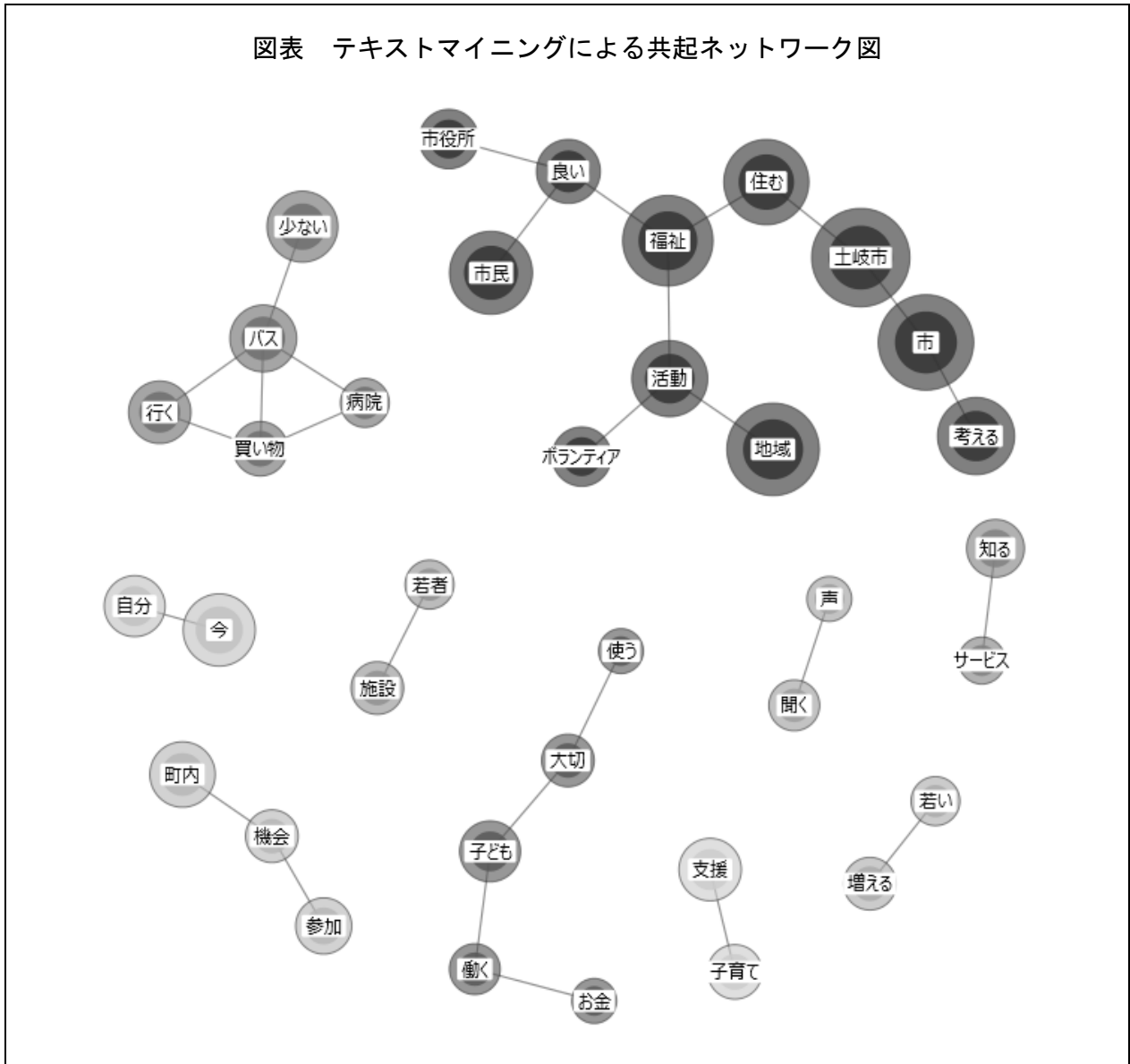
分類	記載例	件数
高齢者	高齢者となると中々、マンション、アパートなどの賃貸を契約する事が出来ない。市などが保証人などになっていただけたらと思う。自分自身が単身者の為老後を考えた時に、現在の住まいは快適ではあるが高台にある為、中心地に住みたい気持ちもあるが、なかなか借りる事が出来ない現状がある。	51
行政への要望・陳情	市民の生活を大切にする事はとても有りがたいが、その為に職員の方が一生懸命になり、自分の生活を犠牲にするような事はしてほしくない。個々の人生がより豊かになるよう、もっと市民が何事にも参加したらよい。いつも有り難うございます。	42
団体	前は青年団婦人会、老人会等の町内で活動がありましたが今はなくなりその為近所付き合いもうすくなり、私達のような高齢者は隣の人もわからない位でなんか昔人間としてはさびしい気で、もっと町内でもコミュニケーションがとれる様になるともつとにぎやかになる様な気がします。	39
子ども・子育て	公式HPをもう少し利用しやすくしてほしい。広報紙も若い世帯が求めている情報を中心にした方が目を通しやすい。小、中学校の授業の中にも、福祉などの教育を増やした方が将来に結び付く。	37
情報提供	単身者や外国人は福祉に対して距離があると思うので、単身者でも福祉の情報を得やすい環境づくりをした方が良い。インターネットや単身者の多い賃貸住宅への掲示など。	24
交通手段	高齢の人がだんだん多くなるこれから、病院とか買い物は自由に行けなくなる人も出ると思うので、そんな人達の足がわりの乗り物が充実してもらえたらと思います。	22
相談窓口	各種情報を入手する手段、機会が少ない。高齢になるとパソコン、スマホ等持っていない方が多い。又、出張窓口等の検討もお願いしたい。	16

図表 自由意見（抜粋）（2 / 2）

分類	記載例	件数
障がい者	障害のある子やグレーゾーンの子どもたちが増えてきているなかで、学校や家庭だけでなく地域全体でその家族や本人を支えていける支援体制があると良いと思う。子育て世代を支える必要があり、住みやすい福祉のまちへの一歩になるのではないかと思う。	13
地域振興	土岐市には市外の方にアピールする魅力が欠如している感があります。土岐市のイメージをアップできるようなブランド戦略も考える必要があるのではないのでしょうか。	12
健康	ごくろうさまです。これからも高齢者が増えていく社会になると思います。そのような社会に対する対応で、例えば病院に於ける受診がし易いような制度？等を考えて頂ければ、ありがたいです。何と言っても健康が第一です。現在でも、市の方から「すこやか健康診査受診券。口腔健診。肺炎ワクチン等々」を送って頂いております。ありがたいです。	6
ひきこもり・生活困窮	お金が欲しいです。こういったアンケートを出すお金がもったいないといった意見がありました。ゴミぶくろが高くこまっています。	4
防災・防犯	震災時避難出来ているかの確認の為の表示をする。例：避難できている家の玄関に全員避難済み、の様な一目でわかる様にしておく。いじめのない学校生活、登下校の子供たちへの大人の声かけ運動の日を増やす。	4
なし	特にないです。	6
その他	東京生活50余年で、今年4月に帰郷して、まだ土岐市でのことはまだ…よくわからない。	43

自由意見は 199 件の記入がありました。これらの意見を分類したところ、14 カテゴリー・319 件となりました。（複数のカテゴリーに分類したものを含む）「高齢者」が最も多く 51 件となっています。

■ テキストマイニングによる共起ネットワーク分析



自由意見の中から、単語と単語の共起関係を把握し、膨大な文章の中からキーワードとなる単語を探すため、テキストマイニングによる共起ネットワーク図を作成しました。

円の大きさは単語の出現頻度、円と円をつなぐ線は、同じ文章中に出現することが多い単語同士であることを示しています。

この図からは、病院や買い物に行く際に利用するバスが少ないこと、町内の活動に参加する機会のこと、若者向けの施設や、若者が増えたらよいと考えていることなどが、意見としてあがっていることが分かります。

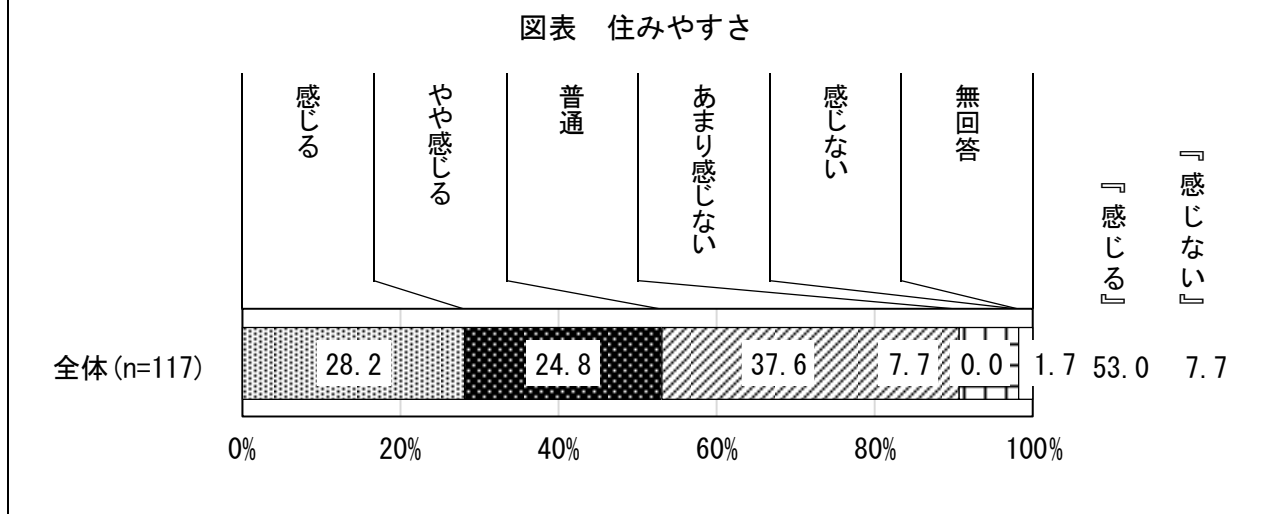
Ⅲ 団体アンケート調査の結果

1. 調査の結果

(1) 住みやすさ

■ 『感じる』は5割強、『感じない』は1割未満

問2 あなたの所属している団体・施設・事業所から見て、現在主な活動を行っている地区は住みやすいと感じますか。(特に活動地区を限定していない場合は、市全体としてご回答ください)(○は1つ)



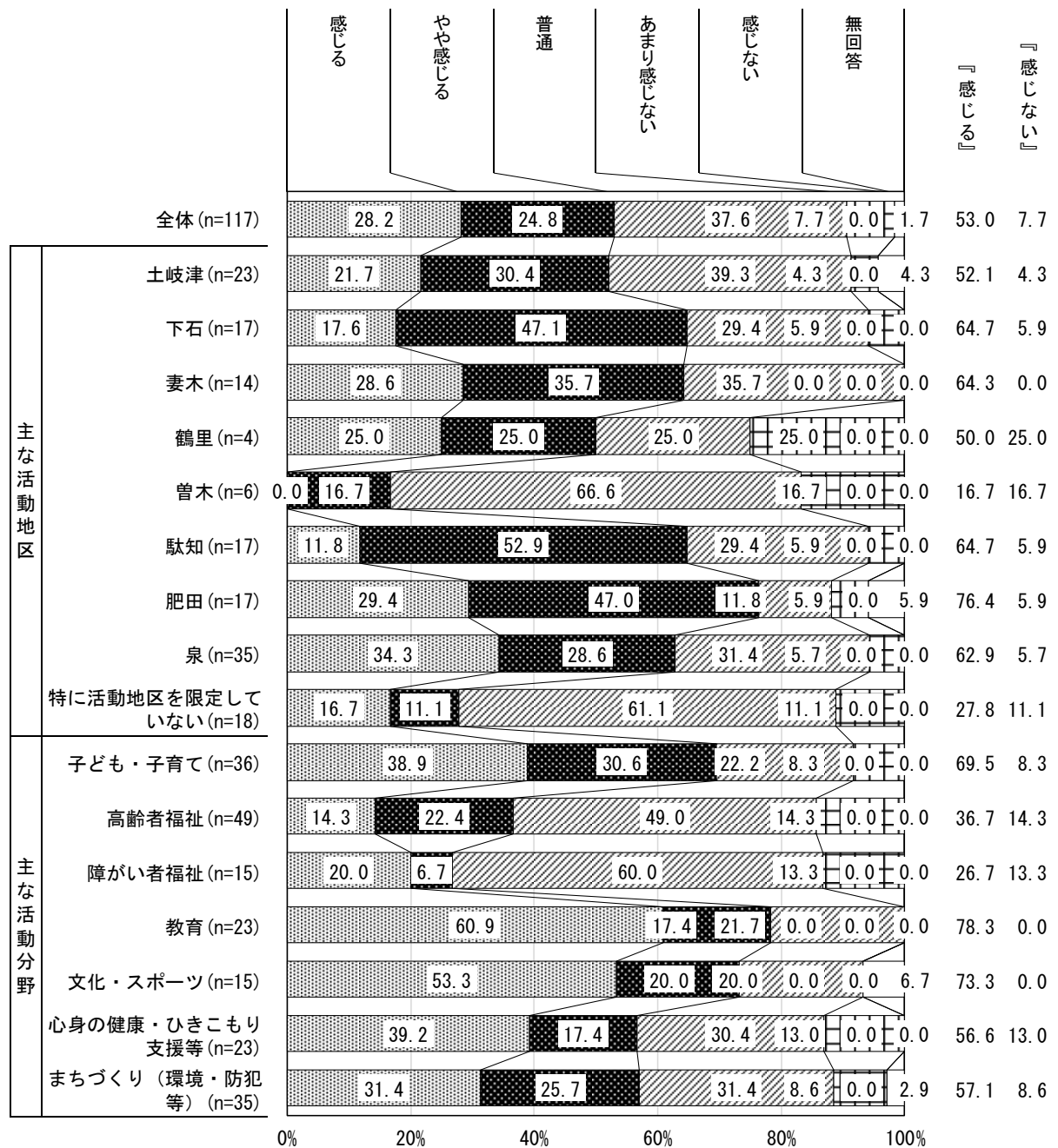
住みやすさについて聞いたところ、「感じる」(28.2%)と「やや感じる」(24.8%)を合計した『感じる』(53.0%)は5割強となっています。一方で、「あまり感じない」(7.7%)と「感じない」(0.0%)を合計した『感じない』(7.7%)は1割未満となっています。

『感じる』は『感じない』を大きく上回っています。

主な活動地区で見ると、『感じる』は肥田が最も高く8割近く（76.4%）となっています。曾木は『感じる』と『感じない』が同率となっています。

主な活動分野で見ると、『感じる』は教育が最も高く8割近く（78.3%）となっています。一方で、高齢者福祉（36.7%）・障がい者福祉（26.7%）は2～3割台と特に低くなっています。

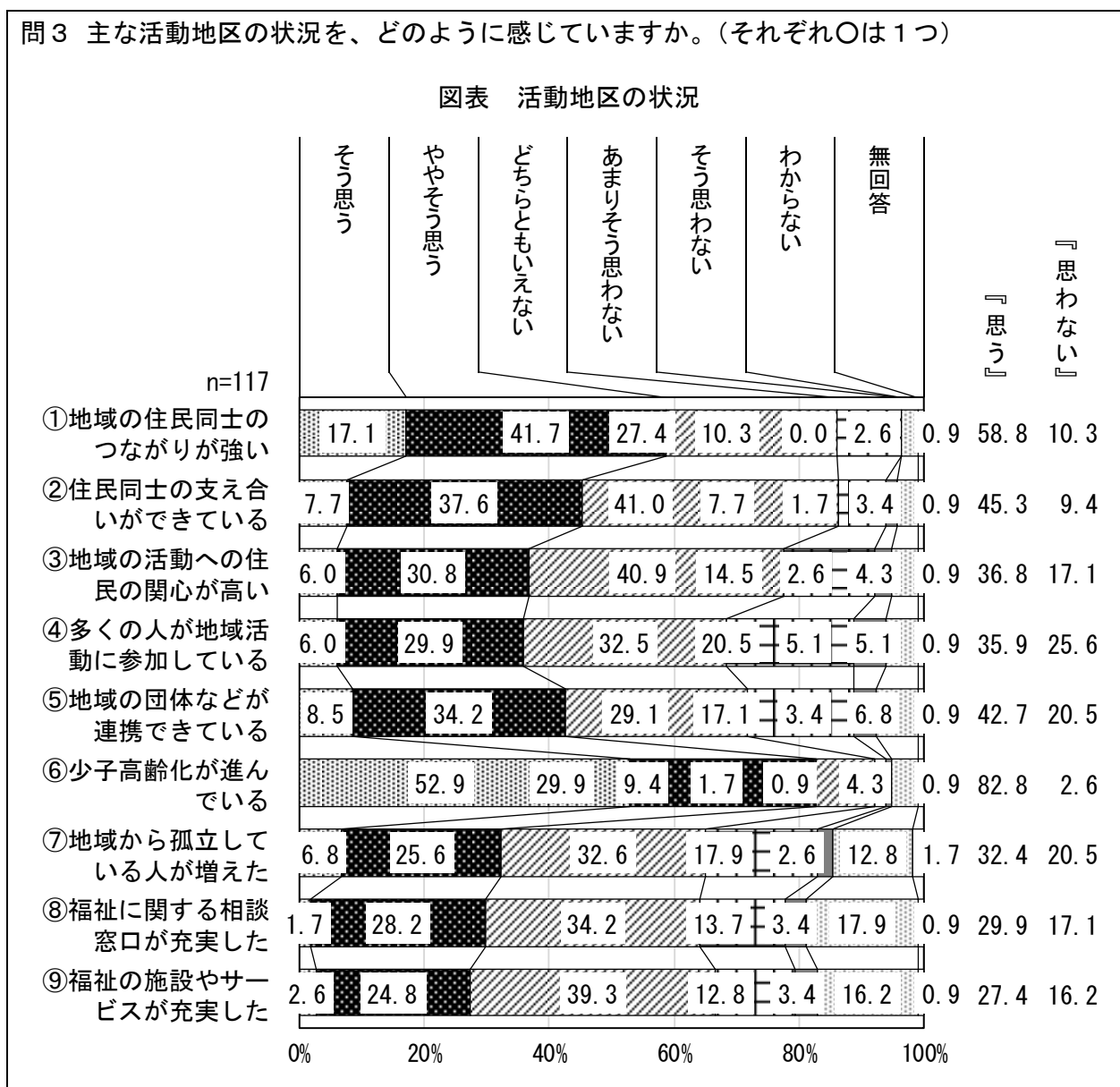
図表 住みやすさ／主な活動地区・主な活動分野



(2) 活動地区の状況

■『思う』は“⑥少子高齢化が進んでいる”が8割強と高い

問3 主な活動地区の状況を、どのように感じていますか。(それぞれ○は1つ)



活動地区の状況について聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合計した『思う』は“⑥少子高齢化が進んでいる”（82.8%）が8割強と最も高くなっています。一方で、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合計した『思わない』は“④多くの人が地域活動に参加している”（25.6%）・“⑤地域の団体などが連携できています”（20.5%）・“⑦地域から孤立している人が増えた”（20.5%）が2割台と高くなっています。

全ての項目で『思う』は『思わない』を上回っています。

図表 『思う』／主な活動地区

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=23	n=17	n=14	n=4	n=6	n=17	n=17	n=35
主な活動地区	①地域の住民同士のつながりが強い	52.1	53.0	57.2	50.0	50.0	64.7	64.8	57.1
	②住民同士の支え合いができています	39.1	47.0	57.2	50.0	0.0	52.9	58.8	40.0
	③地域の活動への住民の関心が高い	52.2	41.2	42.9	25.0	16.7	41.2	47.0	25.8
	④多くの人が地域活動に参加している	39.2	41.2	35.8	25.0	16.7	35.3	47.1	25.8
	⑤地域の団体などが連携できている	34.7	35.3	35.7	50.0	16.7	35.3	52.9	37.1
	⑥少子高齢化が進んでいる	69.7	70.6	71.5	75.0	83.3	88.2	76.5	91.4
	⑦地域から孤立している人が増えた	34.8	11.8	21.4	0.0	16.7	17.6	17.6	45.7
	⑧福祉に関する相談窓口が充実した	26.1	23.5	14.3	0.0	0.0	29.4	23.5	37.2
	⑨福祉の施設やサービスが充実した	26.1	23.5	28.5	25.0	16.7	23.5	29.4	31.5

※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

図表 『思わない』／主な活動地区

		土岐津	下石	妻木	鶴里	曾木	駄知	肥田	泉
		n=23	n=17	n=14	n=4	n=6	n=17	n=17	n=35
主な活動地区	①地域の住民同士のつながりが強い	8.7	17.6	21.4	0.0	0.0	11.8	17.6	14.3
	②住民同士の支え合いができています	4.3	11.8	7.1	0.0	0.0	5.9	11.8	11.4
	③地域の活動への住民の関心が高い	13.0	17.6	28.5	0.0	16.7	11.8	11.8	17.2
	④多くの人が地域活動に参加している	26.0	17.6	28.5	0.0	16.7	17.6	11.8	28.6
	⑤地域の団体などが連携できている	21.7	17.6	28.5	25.0	33.3	23.5	17.7	28.6
	⑥少子高齢化が進んでいる	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑦地域から孤立している人が増えた	30.4	29.4	21.4	50.0	16.7	29.4	23.5	14.3
	⑧福祉に関する相談窓口が充実した	17.4	17.6	14.3	25.0	0.0	17.6	17.7	11.5
	⑨福祉の施設やサービスが充実した	17.4	23.5	14.3	25.0	0.0	11.8	17.7	14.3

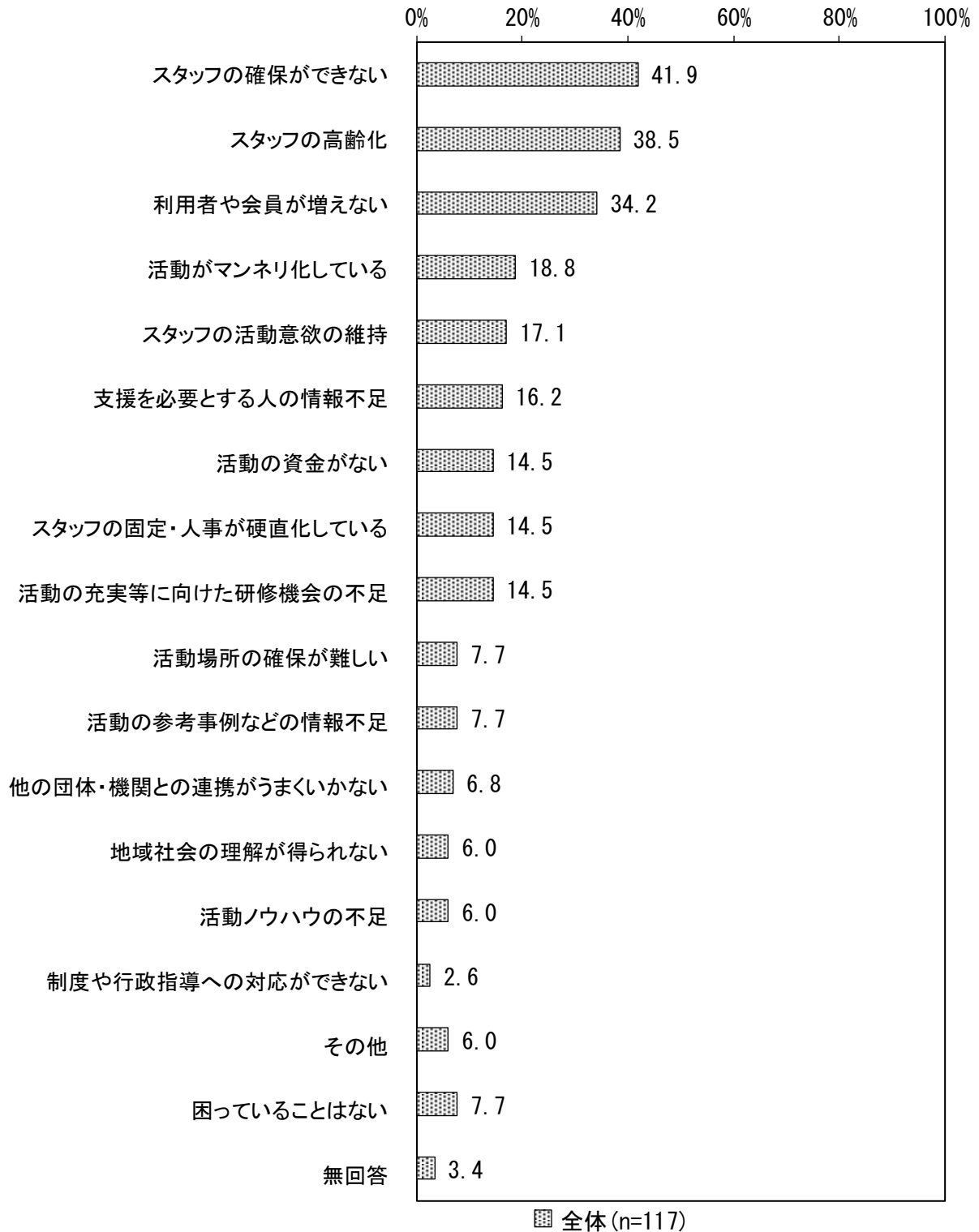
※各地区の割合が高い上位3項目を網掛けしています。

(3) 活動にあたって困っていること

■「スタッフの確保ができない」が4割強と高い

問4 貴団体・施設・事業所の活動にあたって困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

図表 活動にあたって困っていること



活動にあたって困っていることについて聞いたところ、「スタッフの確保ができない」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「スタッフの高齢化」(38.5%)・「利用者や会員が増えない」(34.2%)も3割台と高くなっています。一方で、「困っていることはない」(7.7%)もわずかに見られます。

主な活動地区で見ると、「スタッフの高齢化」は下石を除いた地区で高くなっています。

主な活動分野で見ると、「スタッフの確保ができない」は子ども・子育てで高くなっています。

図表 活動にあたって困っていること（上位10項目）／主な活動地区・主な活動分野

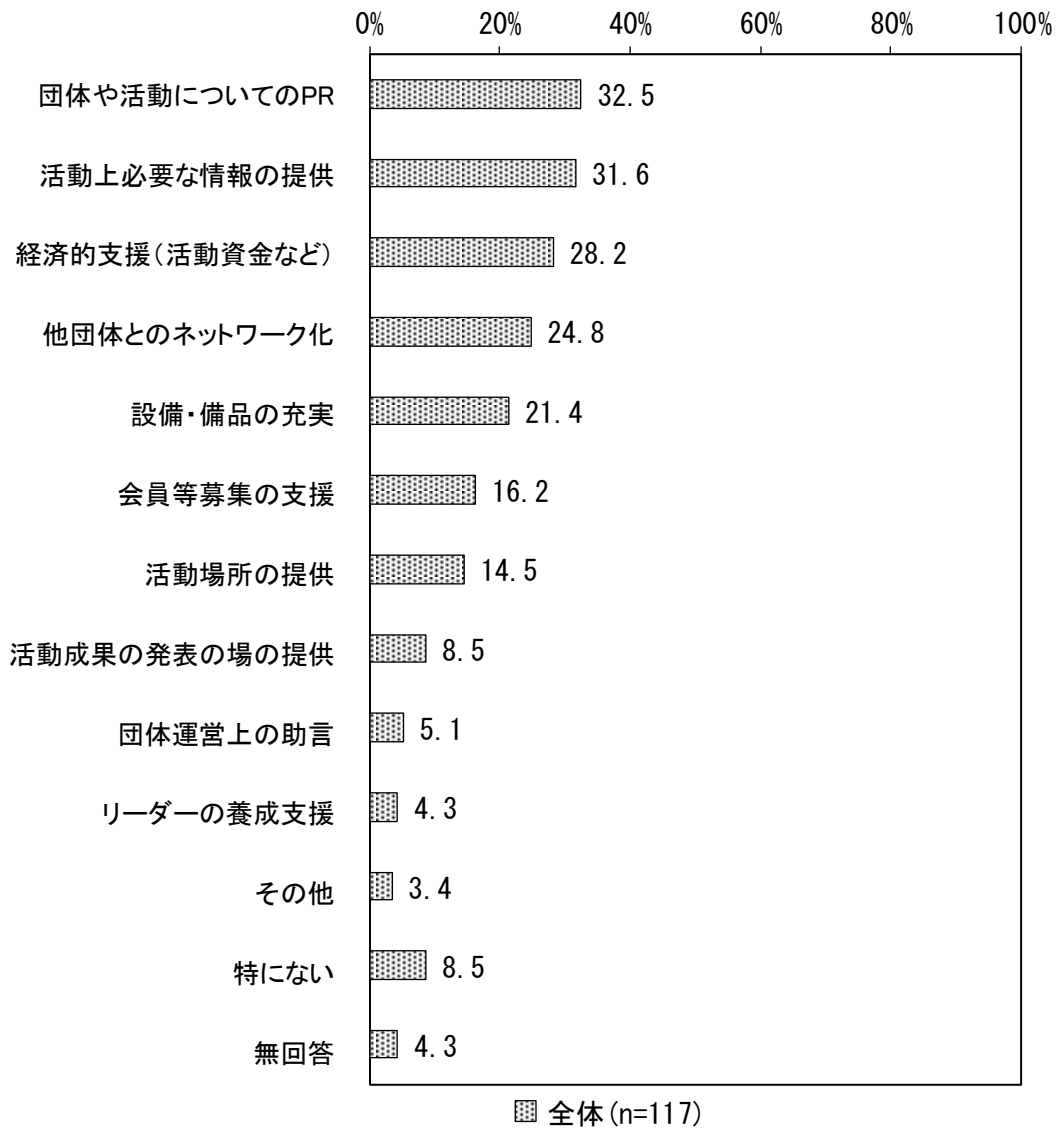
	n (回答者数)	スタッフの確保ができない	スタッフの高齢化	利用者や会員が増えない	活動がマンネリ化している	スタッフの活動意欲の維持	支援を必要とする人の情報不足	活動の資金がない	スタッフの固定・人事が硬直化している	活動の充実等に向けた研修機会の不足	活動場所の確保が難しい	
全体	117	41.9	38.5	34.2	18.8	17.1	16.2	14.5	14.5	14.5	7.7	
主な活動地区	土岐津	23	43.5	65.2	43.5	21.7	17.4	17.4	13.0	17.4	4.3	13.0
	下石	17	35.3	47.1	23.5	11.8	29.4	17.6	11.8	5.9	5.9	11.8
	妻木	14	35.7	64.3	50.0	28.6	35.7	21.4	14.3	28.6	14.3	7.1
	鶴里	4	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	曾木	6	16.7	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
	駄知	17	47.1	58.8	35.3	23.5	29.4	23.5	11.8	11.8	17.6	5.9
	肥田	17	47.1	52.9	35.3	17.6	11.8	5.9	23.5	5.9	5.9	11.8
	泉	35	40.0	48.6	40.0	20.0	14.3	17.1	17.1	8.6	20.0	11.4
	特に活動地区を限定していない	18	44.4	16.7	27.8	22.2	22.2	27.8	22.2	16.7	11.1	11.1
主な活動分野	子ども・子育て	36	58.3	33.3	27.8	16.7	13.9	19.4	5.6	8.3	22.2	2.8
	高齢者福祉	49	46.9	59.2	38.8	28.6	24.5	20.4	16.3	18.4	16.3	8.2
	障がい者福祉	15	33.3	26.7	26.7	33.3	20.0	33.3	20.0	20.0	26.7	6.7
	教育	23	47.8	13.0	8.7	13.0	4.3	17.4	4.3	13.0	13.0	0.0
	文化・スポーツ	15	6.7	53.3	53.3	20.0	20.0	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3
	心身の健康・ひきこもり支援等	23	30.4	56.5	39.1	21.7	13.0	26.1	13.0	17.4	13.0	13.0
	まちづくり（環境・防犯等）	35	28.6	51.4	42.9	34.3	25.7	20.0	22.9	22.9	14.3	11.4

(4) 市・社会福祉協議会からの必要な支援

■「団体や活動についてのPR」が3割強と高い

問5 貴団体・施設・事業所の活動に対して、市・社会福祉協議会からどのような支援があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

図表 市・社会福祉協議会からの必要な支援



市・社会福祉協議会からの必要な支援について聞いたところ、「団体や活動についてのPR」(32.5%)が3割強と最も高く、次いで、「活動上必要な情報の提供」(31.6%)が3割強、「経済的支援(活動資金など)」(28.2%)・「他団体とのネットワーク化」(24.8%)・「設備・備品の充実」(21.4%)もそれぞれ2割以上と高くなっています。

主な活動地区で見ると、妻木・駄知はそれぞれ全体より高い項目が多い傾向にあります。妻木は「活動上必要な情報の提供」(50.0%)・「会員等募集の支援」(35.7%)・「団体運営上の助言」(28.6%)が高く、駄知は「活動上必要な情報の提供」(52.9%)・「設備・備品の充実」(41.2%)・「会員等募集の支援」(29.4%)・「団体運営上の助言」(17.6%)が高くなっています。

主な活動分野で見ると、「団体や活動についてのPR」が高い団体が多く、高齢者福祉(46.9%)・障がい者福祉(46.7%)が4割以上、文化・スポーツ(53.3%)が5割以上となっています。

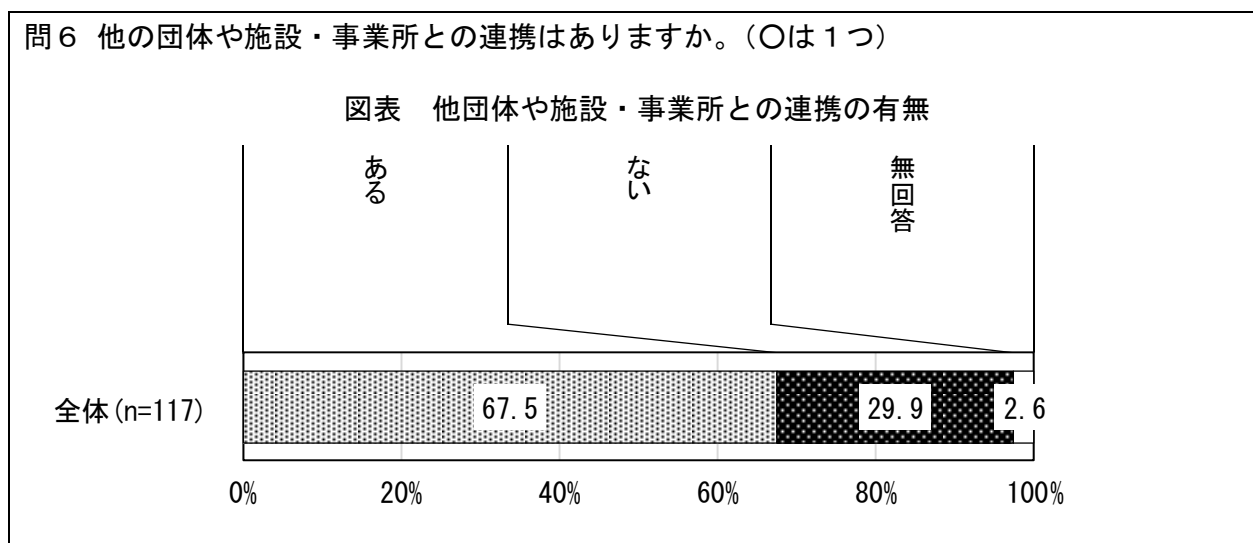
図表 市・社会福祉協議会からの必要な支援(上位10項目)／主な活動地区・主な活動分野

	n (回答者数)	団体や活動についてのPR	活動上必要な情報の提供	経済的支援(活動資金など)	他団体とのネットワーク化	設備・備品の充実	会員等募集の支援	活動場所の提供	活動成果の発表の場の提供	団体運営上の助言	リーダーの養成支援	
全体	117	32.5	31.6	28.2	24.8	21.4	16.2	14.5	8.5	5.1	4.3	
主な活動地区	土岐津	23	39.1	30.4	43.5	21.7	17.4	21.7	21.7	4.3	4.3	
	下石	17	35.3	41.2	29.4	23.5	17.6	5.9	11.8	11.8	5.9	0.0
	妻木	14	28.6	50.0	21.4	21.4	21.4	35.7	7.1	14.3	28.6	0.0
	鶴里	4	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	曾木	6	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	駄知	17	23.5	52.9	23.5	23.5	41.2	29.4	11.8	5.9	17.6	5.9
	肥田	17	29.4	17.6	41.2	29.4	29.4	11.8	17.6	11.8	5.9	0.0
	泉	35	37.1	28.6	37.1	20.0	28.6	17.1	17.1	14.3	2.9	8.6
	特に活動地区を限定していない	18	38.9	61.1	16.7	27.8	16.7	5.6	27.8	0.0	0.0	5.6
	主な活動分野	子ども・子育て	36	27.8	19.4	25.0	27.8	44.4	13.9	11.1	5.6	5.6
高齢者福祉		49	46.9	42.9	38.8	26.5	12.2	24.5	12.2	12.2	8.2	8.2
障がい者福祉		15	46.7	60.0	13.3	33.3	13.3	6.7	33.3	6.7	13.3	0.0
教育		23	8.7	26.1	21.7	26.1	34.8	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0
文化・スポーツ		15	53.3	6.7	40.0	26.7	26.7	26.7	20.0	33.3	6.7	6.7
心身の健康・ひきこもり支援等		23	34.8	30.4	39.1	17.4	8.7	26.1	26.1	13.0	4.3	4.3
まちづくり(環境・防犯等)		35	37.1	34.3	37.1	25.7	14.3	22.9	20.0	20.0	11.4	8.6

(5) 他団体や施設・事業所との連携の有無

■「ある」が7割近くを占める

問6 他の団体や施設・事業所との連携はありますか。(〇は1つ)

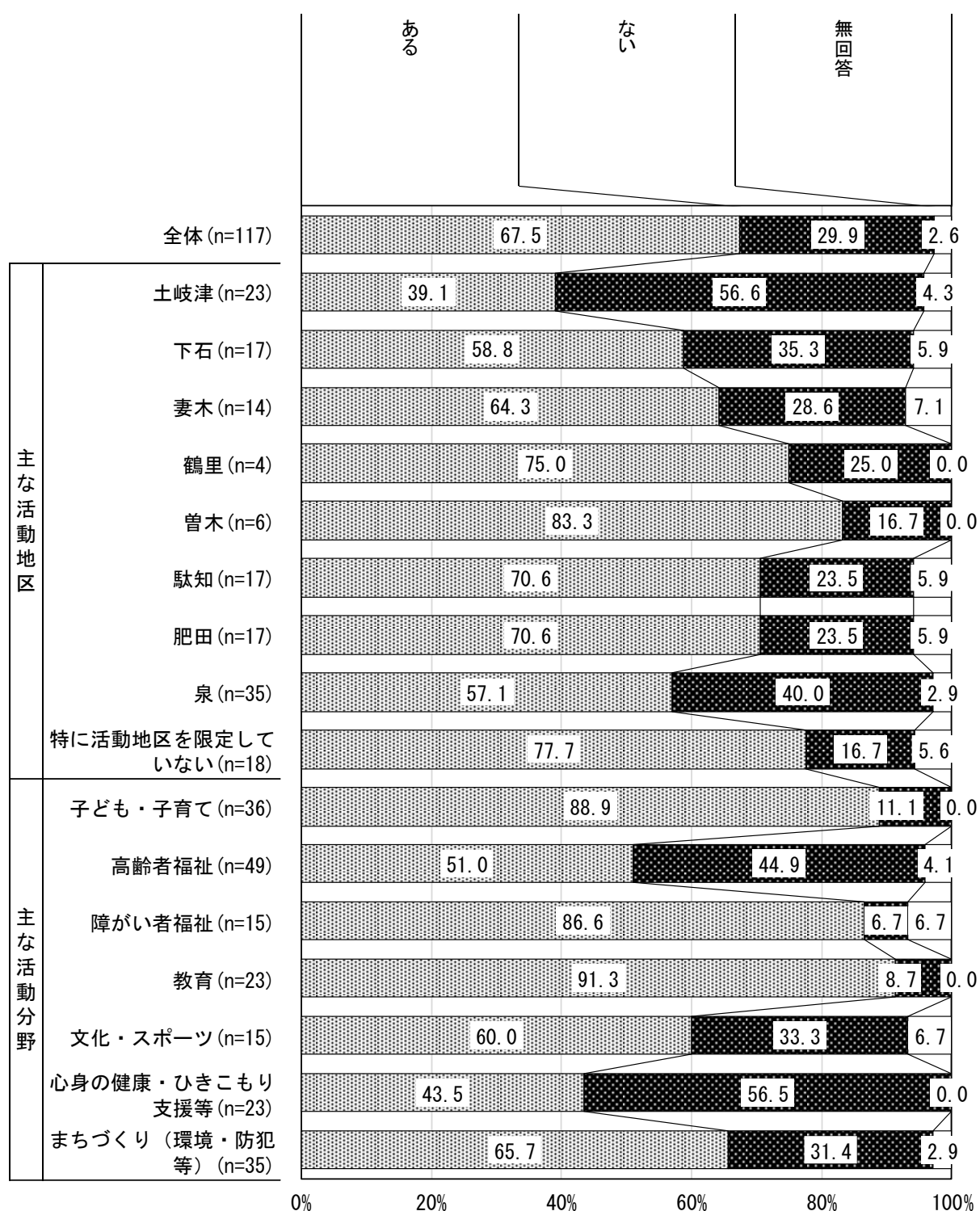


他団体や施設・事業所との連携の有無について聞いたところ、「ある」(67.5%) が7割近く、「ない」(29.9%) が3割弱となっています。

主な活動地区で見ると、「ある」が「ない」を唯一下回っているのは土岐津となっており、「ある」(39.1%)が4割弱となっています。一方で、曾木は「ある」(83.3%)が8割強と特に高くなっています。

主な活動分野で見ると、「ある」は高齢者福祉(51.0%)・心身の健康・ひきこもり支援等(43.5%)で低くなっています。

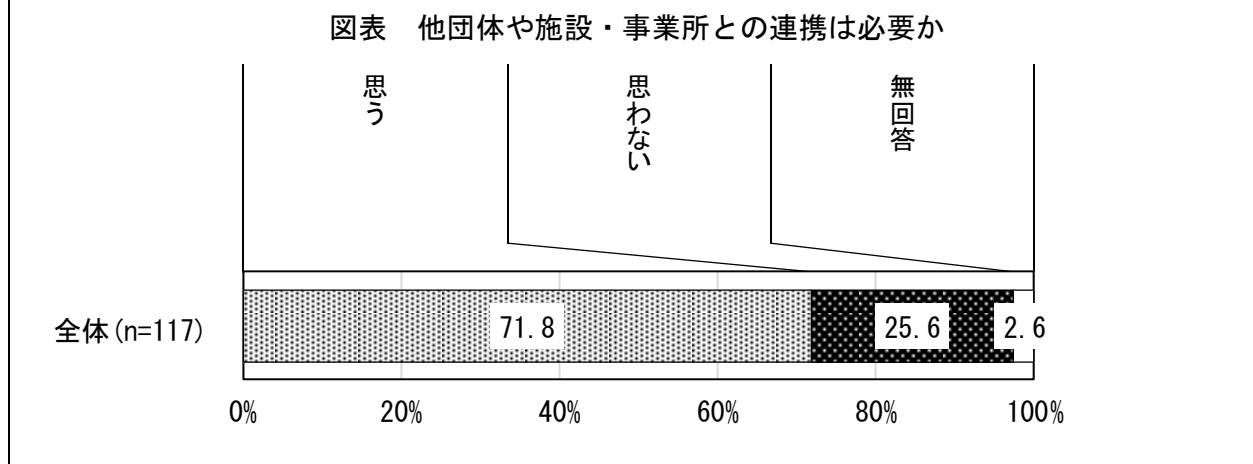
図表 他団体や施設・事業所との連携の有無／主な活動地区・主な活動分野



(6) 他団体や施設・事業所との連携は必要か

■「思う」が7割強を占める

問7 今後、他の団体や施設・事業所と新たに連携したい、もしくは連携を強化したいと思いませんか。(○は1つ)

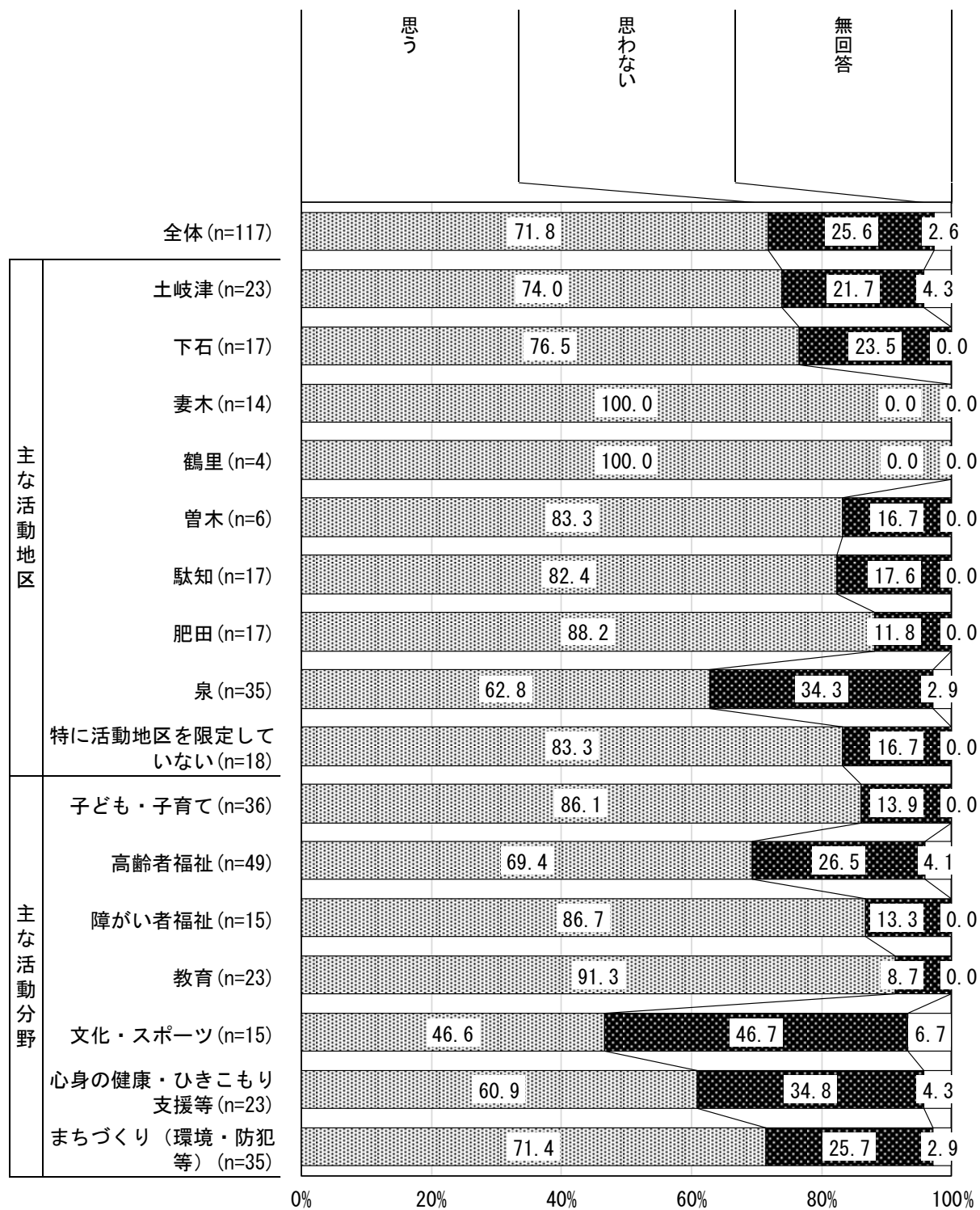


他団体や施設・事業所との連携は必要かについて聞いたところ、「思う」(71.8%)が7割強、「思わない」(25.6%)が2割台半ばとなっています。

主な活動地区で見ると、「思う」は泉（62.8%）が6割強と特に低くなっています。

主な活動分野で見ると、「思う」は子ども・子育て（86.1%）・障がい者福祉（86.7%）・教育（91.3%）で8割以上と高くなっています。

図表 他団体や施設・事業所との連携は必要か／主な活動地区・主な活動分野



(7) ①連携を強化したい対象

■「同じ地域の自治会等の地域の団体」が4割近くと高い

問8 問7で「1」と回答した方に伺います。

問8-① 今後、新たに連携したい、もしくは連携を強化したいと特に感じる対象はどれになりますか。(〇は3つまで)

図表 連携を強化したい対象



連携を強化したい対象について聞いたところ、「同じ地域の自治会等の地域の団体」(36.9%)が4割近くと最も高く、次いで、「小学校・中学校」(27.4%)が3割近く、「土岐市役所」(23.8%)が2割強となっています。

主な活動地区で見ると、「土岐市役所」・「ボランティアグループやNPO」が高くなっている地区が多くなっています。「土岐市役所」は土岐津（41.2%）・下石（38.5%）・曾木（40.0%）・駄知（35.7%）が、「ボランティアグループやNPO」は下石（38.5%）・妻木（35.7%）・曾木（40.0%）・駄知（42.9%）・肥田（33.3%）がそれぞれ高くなっています。

主な活動分野で見ると、子ども・子育て・教育は共に「小学校・中学校」・「公民館・図書館などの施設」が高くなっています。

図表 連携を強化したい対象（上位10項目）／主な活動地区・主な活動分野

	n (回答者数)	同じ地域の自治会等の地域の団体	小学校・中学校	土岐市役所	公民館・図書館などの施設	福祉に関する地域の相談機関	福祉施設・福祉サービスの事業所	地区民生委員・児童委員	ボランティアグループやNPO	幼稚園・保育所・認定こども園	市社会福祉協議会	
全体	84	36.9	27.4	23.8	21.4	21.4	20.2	19.0	17.9	13.1	10.7	
主な活動地区	土岐津	17	29.4	29.4	41.2	23.5	17.6	5.9	17.6	23.5	17.6	5.9
	下石	13	30.8	23.1	38.5	15.4	7.7	23.1	15.4	38.5	15.4	7.7
	妻木	14	42.9	28.6	21.4	28.6	14.3	14.3	28.6	35.7	14.3	0.0
	鶴里	4	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	曾木	5	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	20.0
	駄知	14	7.1	28.6	35.7	21.4	14.3	21.4	28.6	42.9	0.0	21.4
	肥田	15	13.3	20.0	33.3	13.3	20.0	6.7	26.7	33.3	6.7	6.7
	泉	22	36.4	36.4	31.8	31.8	36.4	13.6	27.3	18.2	13.6	9.1
	特に活動地区を限定していない	15	46.7	6.7	26.7	0.0	33.3	53.3	13.3	6.7	6.7	0.0
主な活動分野	子ども・子育て	31	32.3	54.8	9.7	35.5	29.0	3.2	19.4	12.9	29.0	12.9
	高齢者福祉	34	50.0	17.6	32.4	5.9	20.6	23.5	29.4	17.6	2.9	14.7
	障がい者福祉	13	53.8	0.0	23.1	0.0	46.2	46.2	23.1	0.0	0.0	7.7
	教育	21	33.3	38.1	9.5	52.4	9.5	14.3	9.5	23.8	14.3	14.3
	文化・スポーツ	7	28.6	28.6	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0
	心身の健康・ひきこもり支援等	14	35.7	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	21.4	14.3	0.0	28.6
	まちづくり（環境・防犯等）	25	40.0	20.0	24.0	16.0	28.0	12.0	24.0	16.0	0.0	20.0

(7) ②取組の内容

問8-② 具体的に、連携してどのようなことに取り組みたいかを教えてください。(記入)

図表 取組の内容(抜粋)

問8-①の回答	記載例
同じ地域の自治会等の地域の団体	参加者の増加
他の地域の自治会等の地域の団体	各町毎に行事を行なっているが、連携して実施できる行事を洗い出して、一緒に合同してできるものを実施していきたい。
ボランティアグループやNPO	コロナ禍で中々難しいですが、施設で地域交流サロン事業等を行う場合のボランティアの活用など検討しています。
市社会福祉協議会	以前、認知症サポーター育成講座を6年生が行っていた。今後、コロナ感染が収まったら、行いたい。
福祉施設・福祉サービスの事業所	他事業所の活動を知る事によって、自社での活動の参考になる。
福祉以外の事業所や企業	A型事業所では、生産活動収入を増やすことが必要で、当事業所似合った仕事を探したい。また、利用者の就労先の開拓も行いたい。
小学校・中学校	小学校と連携をより強化したい。幼稚園職員と小学校職員とが、気軽に意見交流ができるとよい。
公民館・図書館などの施設	囲碁グループの増員
福祉に関する地域の相談機関	相談機関との交流会、情報共有。
土岐市役所	健康維持を目的とした硬式テニスサークルです。特に職場リタイア組で活動しています。同好の楽しみ方、活かす場、行動する場として活用しています。ご多間にもれず、高齢化の為参加人数が減少しています。会員等募集支援と今度とも施設利用の減免及び支援をお願いします。

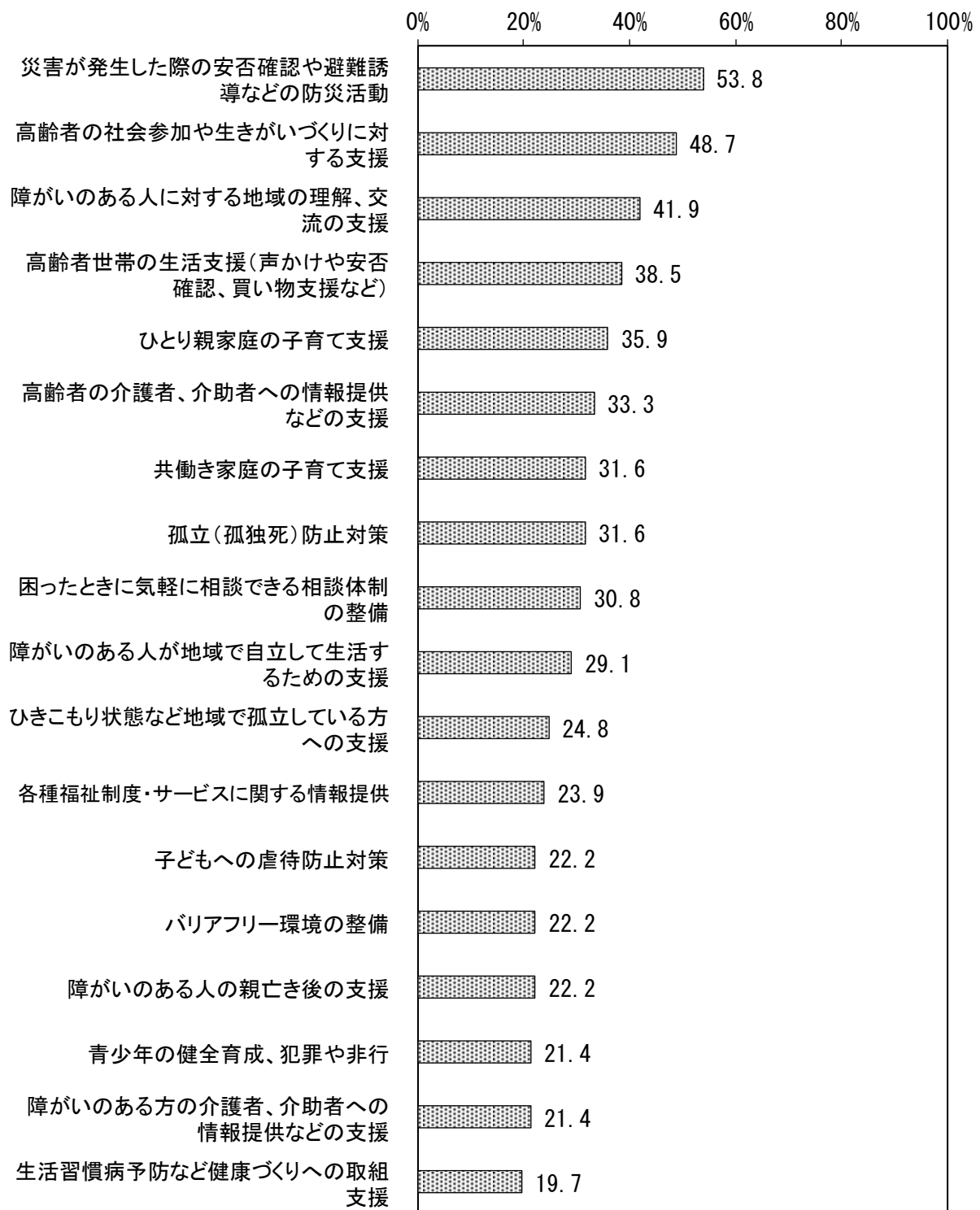
具体的に記入された意見として、上記のような内容があげられます。

(8) 地区の課題

■「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が5割強と高い

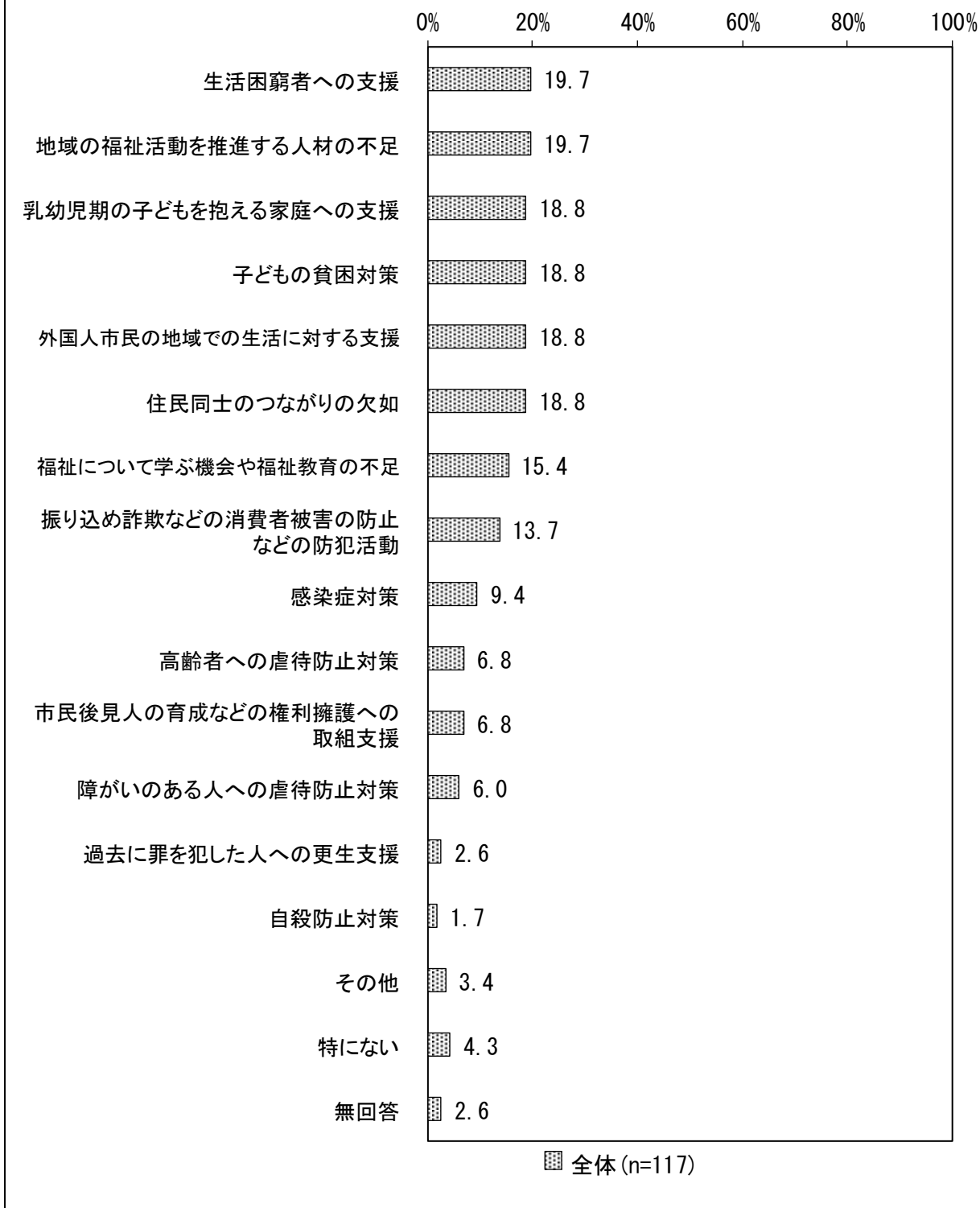
問9 あなたが現在主な活動を行っている地区には、どのような課題があると思いますか。(〇はいくつでも)

図表 地区の課題 (1 / 2)



■ 全体 (n=117)

図表 地区の課題（2 / 2）



地区の課題について聞いたところ、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」(53.8%)が5割強、「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」(48.7%)・「障がいのある人に対する地域の理解、交流の支援」(41.9%)が4割以上と高くなっています。

市民アンケートでは見られなかった項目として「障がいのある人に対する地域の理解」（土岐津4位）、「住民同士のつながりの欠如」（まちづくり（環境・防犯等）5位）などが見られます。

図表 地区の課題（上位5位）／主な活動地区・主な活動分野

		n (回答者数)	1位	2位	3位	4位	5位
全体		117	災害が発生した際の防災活動 53.8	高齢者の生きがいがづくり 48.7	障がいのある人に対する地域の理解 41.9	高齢者世帯の生活支援 38.5	ひとり親家庭の子育て支援 35.9
主な活動地区	土岐津	23	高齢者の生きがいがづくり 56.5	困ったときの相談体制の整備 56.5	共働き家庭の子育て支援 52.2	障がいのある人に対する地域の理解 47.8	ひとり親家庭の子育て支援・高齢者世帯の生活支援・災害が発生した際の防災活動 43.5
	下石	17	障がいのある人に対する地域の理解 64.7	災害が発生した際の防災活動 64.7	高齢者の生きがいがづくり 47.1	高齢者の介護者への支援 47.1	困ったときの相談体制の整備 47.1
	妻木	14	災害が発生した際の防災活動 71.4	高齢者の生きがいがづくり 64.3	障がいのある人に対する地域の理解 64.3	ひとり親家庭の子育て支援 50.0	高齢者の介護者への支援・困ったときの相談体制の整備 42.9
	鶴里	4	高齢者の生きがいがづくり 100.0	災害が発生した際の防災活動 100.0	ひとり親家庭の子育て支援 75.0	共働き家庭の子育て支援 75.0	高齢者の介護者への支援 75.0
	曾木	6	高齢者世帯の生活支援 83.3	高齢者の生きがいがづくり 66.7	ひとり親家庭の子育て支援 50.0	高齢者の介護者への支援 50.0	災害が発生した際の防災活動・ひきこもり状態など地域で孤立している方への支援 50.0
	駄知	17	災害が発生した際の防災活動 64.7	ひとり親家庭の子育て支援 52.9	高齢者世帯の生活支援 52.9	困ったときの相談体制の整備 52.9	障がいのある人に対する地域の理解 47.1
	肥田	17	災害が発生した際の防災活動 70.6	共働き家庭の子育て支援 58.8	高齢者の生きがいがづくり 58.8	高齢者の介護者への支援 52.9	ひとり親家庭の子育て支援・障がいのある人に対する地域の理解 47.1
	泉	35	災害が発生した際の防災活動 57.1	高齢者の生きがいがづくり 51.4	ひとり親家庭の子育て支援 48.6	共働き家庭の子育て支援 42.9	高齢者世帯の生活支援 42.9
	特に活動地区を限定していない	18	障がいのある人の親亡き後の支援 66.7	障がいのある人に対する地域の理解 61.1	高齢者の生きがいがづくり 44.4	高齢者の介護者への支援 44.4	生活困窮者への支援 44.4
	主な活動分野	子ども・子育て	36	災害が発生した際の防災活動 63.9	高齢者の生きがいがづくり 52.8	共働き家庭の子育て支援 47.2	ひとり親家庭の子育て支援 41.7
高齢者福祉		49	高齢者の生きがいがづくり 61.2	高齢者世帯の生活支援 57.1	災害が発生した際の防災活動 55.1	高齢者の介護者への支援 53.1	孤立（孤独死）防止対策 44.9
障がい者福祉		15	障がいのある人の親亡き後の支援 66.7	障がいのある人に対する地域の理解 53.3	災害が発生した際の防災活動 53.3	ひきこもり状態など地域で孤立している方への支援 53.3	高齢者の生きがいがづくり・高齢者世帯の生活支援・生活困窮者への支援・困ったときの相談体制の整備 46.7
教育		23	ひとり親家庭の子育て支援 69.6	災害が発生した際の防災活動 65.2	外国人市民の地域での生活に対する支援 56.5	共働き家庭の子育て支援 52.2	高齢者の生きがいがづくり 52.2
文化・スポーツ		15	孤立（孤独死）防止対策 60.0	困ったときの相談体制の整備 53.3	高齢者の生きがいがづくり 46.7	高齢者世帯の生活支援 46.7	障がいのある人に対する地域の理解 40.0
心身の健康・ひきこもり支援等		23	高齢者の生きがいがづくり 65.2	高齢者世帯の生活支援 52.2	災害が発生した際の防災活動 52.2	孤立（孤独死）防止対策 47.8	高齢者の介護者への支援・困ったときの相談体制の整備 47.8
まちづくり（環境・防犯等）		35	災害が発生した際の防災活動 62.9	高齢者の生きがいがづくり 60.0	障がいのある人に対する地域の理解 42.9	孤立（孤独死）防止対策 40.0	住民同士のつながりの欠如 40.0

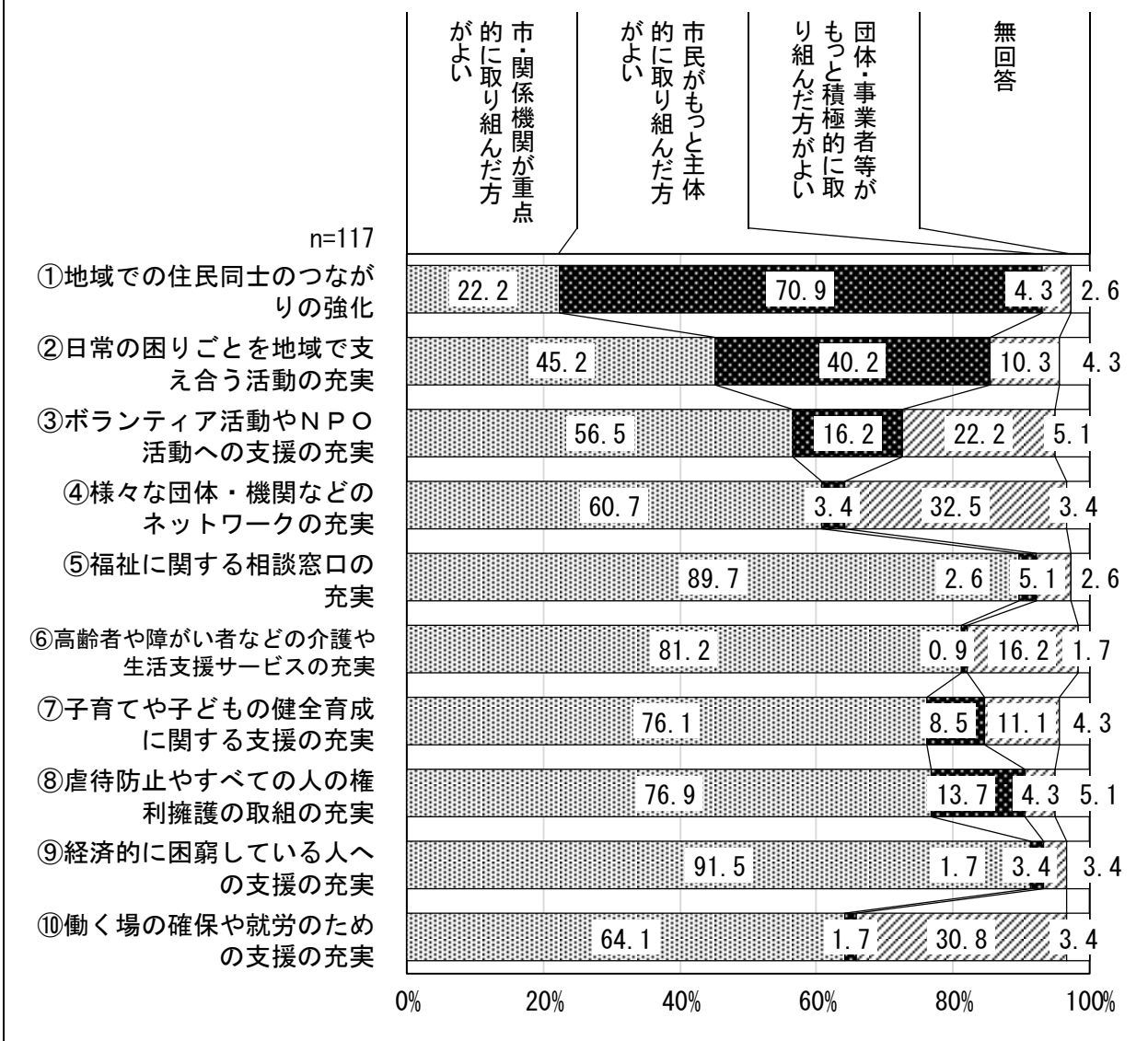
※選択肢名を一部省略して表記しています。

(9) 地域福祉を推進するための取組

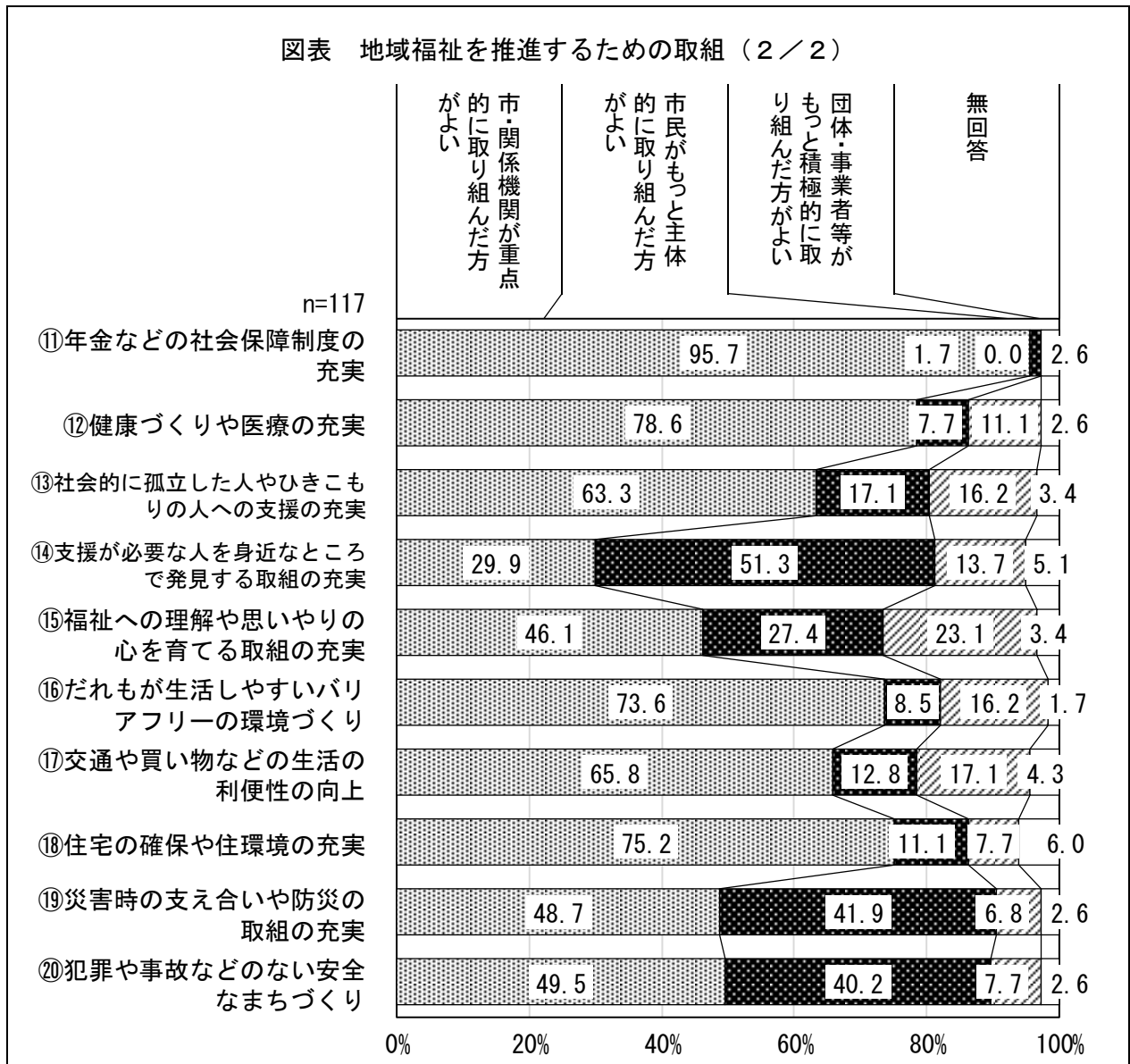
■「市民がもっと主体的に取り組んだ方がよい」が高いのは“①地域での住民同士のつながりの強化”・“⑭支援が必要な人を身近なところで発見する取組の充実”の2項目

問 10 地域福祉を推進するため、次の①～⑳についてどのように取り組んだ方がよいと思いますか。(それぞれ〇は1つ)

図表 地域福祉を推進するための取組 (1/2)



図表 地域福祉を推進するための取組（2 / 2）



全 20 項目のうち、“①地域での住民同士のつながりの強化”・“⑭支援が必要な人を身近なところで発見する取組の充実”のみ「市民がもっと主体的に取り組んだ方がよい」が最も高くなっています。それ以外の項目は「市・関係機関が重点的に取り組んだ方がよい」が高くなっています。

「市・関係機関が重点的に取り組んだ方がよい」の中でも、特に高くなっている項目は“⑤福祉に関する相談窓口の充実”（89.7%）・“⑥高齢者や障がい者などの介護や生活支援サービスの充実”（81.2%）・“⑨経済的に困窮している人への支援の充実”（91.5%）・“⑪年金などの社会保障制度の充実”（95.7%）で8割を超えています。

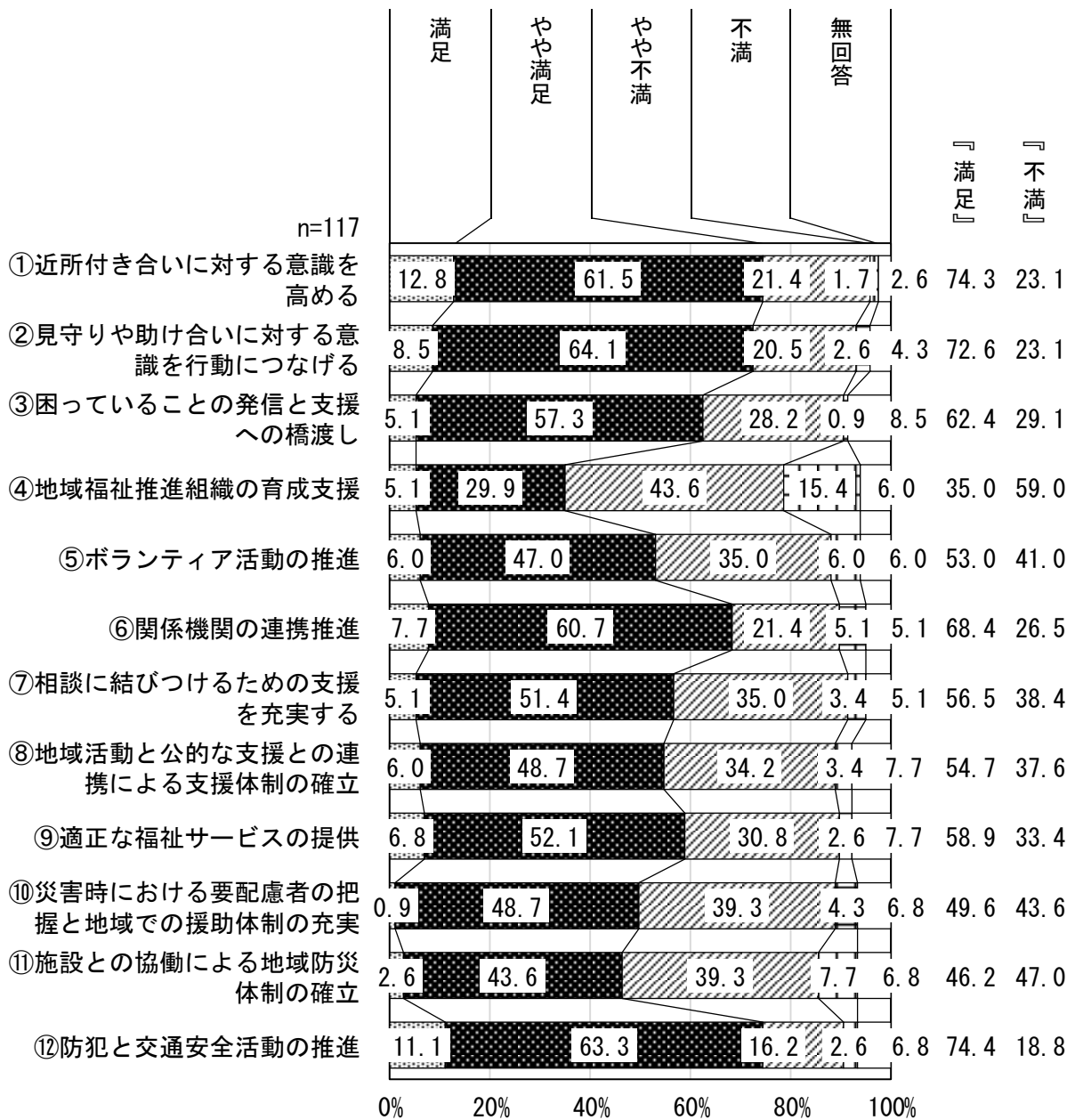
「団体・事業者等がもっと積極的に取り組んだ方がよい」の中で高い項目は、“④様々な団体・機関などのネットワークの充実”（32.5%）・“⑩働く場の確保や就労のための支援の充実”（30.8%）で3割を超えています。

(10) 地域福祉に関する取組の満足度

■『満足』は、“⑫防犯と交通安全活動の推進”が7割台半ばと高い

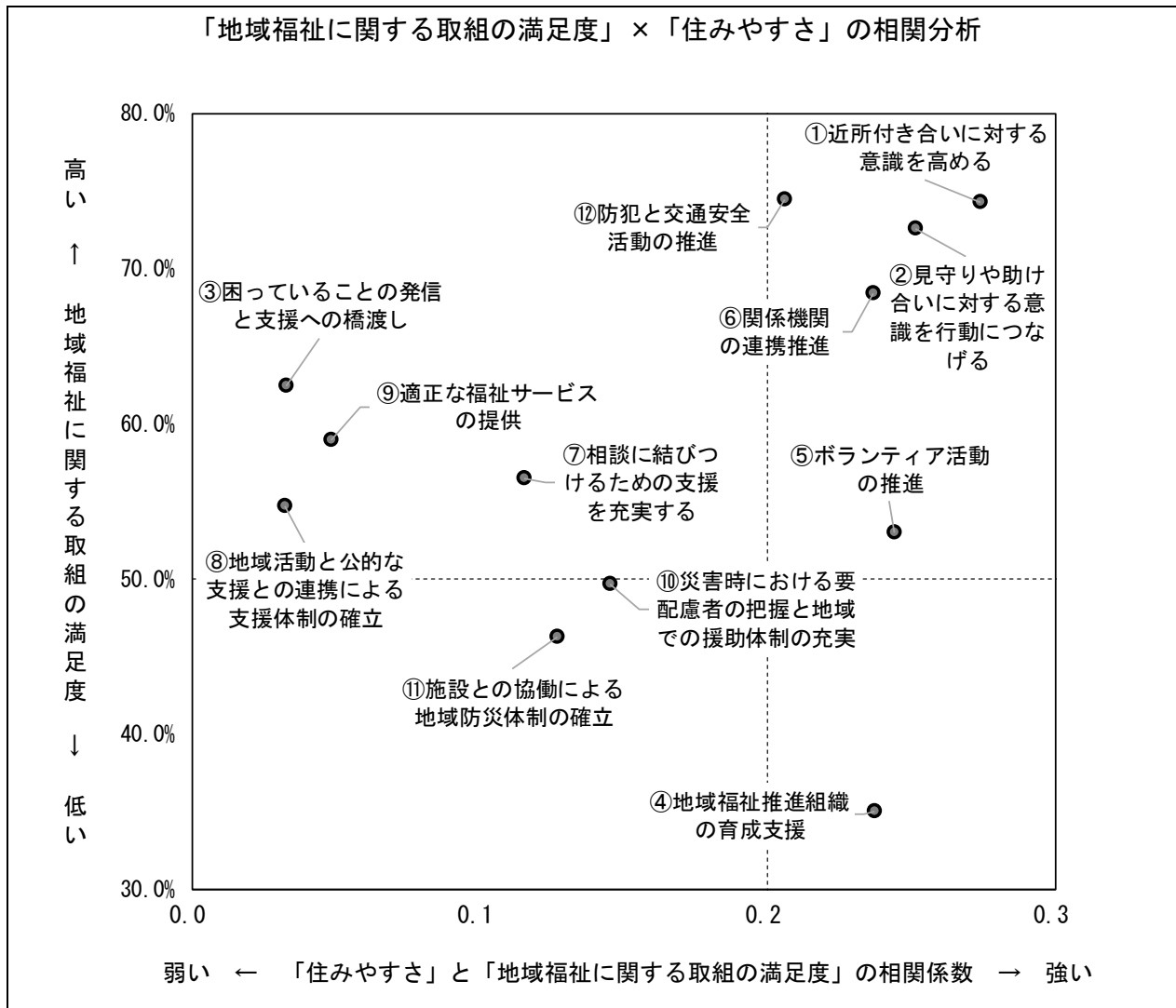
問11 市では、以下の①～⑫の取組をそれぞれ推進してきました。それぞれの取組についての、満足度をお答えください。今のお気持ちに一番近い答えの番号を1つ選んで○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

図表 地域福祉に関する取組の満足度



地域福祉に関する取り組みの満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、“⑫防犯と交通安全活動の推進”（74.4%）が最も高く7割台半ばとなっています。『不満』が『満足』を上回っているのは、“④地域福祉推進組織の育成支援”・“⑪施設との協働による地域防災体制の確立”の2項目となっています。

■ 「地域福祉に関する取組の満足度」 × 「住みやすさ」の相関分析



■ 相関分析について

2つの要素が「どの程度同じような動きをするか」という要素間の関係性を明らかにする手法を相関分析と呼びます。「問 11 地域福祉に関する取組の満足度」と「問 2 住みやすさ」の回答結果を基に相関分析を行いました。満足度は、「問 11 地域福祉に関する取組の満足度」における「満足」と「やや満足」の合計、相関係数は、2つのデータの関係の強さを数値（係数）で示したもので、0.2 を超えていればゆるやかな相関があると見ることができます。

■ 結果

相関係数が 0.2 を超えていた項目は、“①近所付き合いに対する意識を高める”・“②見守りや助け合いに対する意識を行動につなげる”・“④地域福祉推進組織の育成支援”・“⑤ボランティア活動の推進”・“⑥関係機関の連携推進”・“⑫防犯と交通安全活動の推進”となっています。これらの満足度の向上と住みよさは相互に影響し合う関係性にあるため、より一層の改善が望まれています。

(11) 自由意見

問 11 でもお聞きした①～⑫のそれぞれの項目について、具体的に課題と感じていることや今後の取組のアイデアがあればご記入ください。

図表 自由意見（抜粋）（1 / 2）

項目	記載例		件数
①近所付き合いに対する意識を高める	課題	個人の性格もあるのでむづかしい。最近では若い人年配の人でも関係ないと思う。	22
	アイデア	ともに生きる地域づくりを対話すること。ともに住みよい暮らしよいまちづくりを語り合うこと。	21
②見守りや助け合いに対する意識を行動につなげる	課題	子育て世代の負担が多くなっているが、見守りのボランティアが少ない。	7
	アイデア	生徒は、挨拶が活発に交わせる地域にしたいと願っている。土岐市一斉挨拶デーがもっと市民に周知されるとよい。	21
③困っていることの発信と支援への橋渡し	課題	どこにどう伝えれば良いのかわからない人も多いと思うので、説明会などあれば良いと思う。	13
	アイデア	土岐市役所内に、目安箱的な物を設置する。	16
④地域福祉推進組織の育成支援	課題	若い世代等が地域福祉に関わる精神的及び金銭的な余裕がない状況があるのではないか。	10
	アイデア	町内の福祉委員を任命して、月2回ぐらい会合を開き、地域福祉の意識向上をはかる。	12
⑤ボランティア活動の推進	課題	互助づくりに貴重な役割を担います。だが、この活動が市内では成熟しない。社会参加、社会貢献活動、市民に意識が浸透しない。	14
	アイデア	市の広報などからも、小学生、中学生、高校生などにもボランティア活動の意義などをわかりやすく指導して頂ければと思います。	14
⑥関係機関の連携推進	課題	互いの組織での顔合せが必要。	10
	アイデア	コロナ禍もあり、難しい面もありますが、手話サークルの方や点字サークルの方に学校に来ていただき、子供たちに指導したり、話をしたりしていただけるとありがたいです。そういったボランティア団体の方と直接会ってお話できる機会があると連携できます。	10

図表 自由意見（抜粋）（2 / 2）

項目	記載例		件数
⑦相談に結びつけるための支援を充実する	課題	相談する内容に不安がある。窓口の内容が分からない。	10
	アイデア	誰でも頭に浮ぶロゴやステッカーなどがお店、トイレなどにも貼ってあると目に入りやすいと思います。	8
⑧地域活動と公的な支援との連携による支援体制の確立	課題	国・県の動き、計画を市が住民に適確に広げる。	10
	アイデア	情報を共有する方法を探る。関係機関、団体が一堂に集まり話し合う必要がある。（コロナ収束後に期待）	9
⑨適正な福祉サービスの提供	課題	声に出せる人は良いが、そうでない人はほったらかしになっている感じがする。平日は相談できません。	11
	アイデア	一定期間ずつ一つのサービスを押し出し同じ色のポスターを掲示すると目に留まりやすいと思います。	5
⑩災害時における要配慮者の把握と地域での援助体制の充実	課題	全く不満。1人で沢山の要配慮者をかかえて居る現状。他力本願として見過ごされて居るのが現実。	19
	アイデア	各事業所と地域ではなく、地域単位の避難訓練等を行う機会を作る	11
⑪施設との協働による地域防災体制の確立	課題	地域をあげての防災訓練の機会が十分ではない。	10
	アイデア	地域の施設が連携できる体制づくりと地域への周知。また災害時を想定した訓練の実施。	10
⑫防犯と交通安全活動の推進	課題	危険個所の把握が出来ているかどうか。外灯の設置、暗い所の解消。	6
	アイデア	普段からのあいさつ、声かけ等で不審者が判別できる。	14

各項目に対して、課題・アイデアとして記入いただいたのは上記のとおりです。

やさしいまちづくりに向けたアンケート調査
報告書

令和4年3月

発行：土岐市役所 高齢介護課
土岐市土岐津町土岐口2101
電 話：0572-54-1111
F A X：0572-55-1367